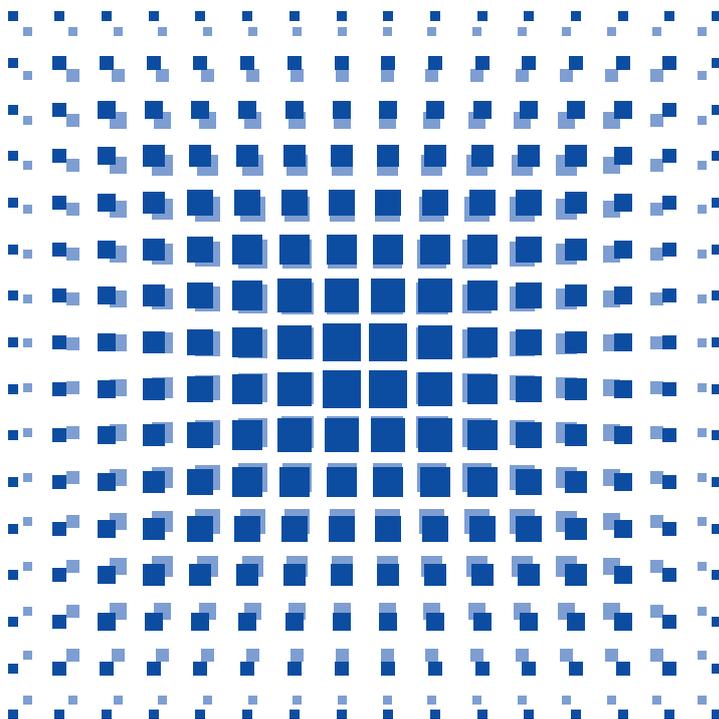


AVコントロールアンプ

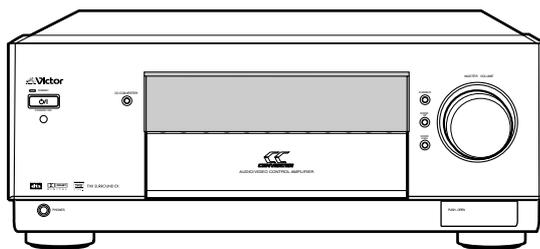
型名 **AX-V7000**

Audio/Video Control Amplifier

AX-V7000



THX SURROUND EX



お買い上げいただき、ありがとうございます。

△ ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に③～⑥ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。

お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

お使いになる前に

ページ

- 安全上のご注意 3 ~ 6
- 主な特長 7
- 各部の名前 8 ~ 10
 - ・ 本体・前面パネル 8
 - ・ 本体・表示窓 8
 - ・ 本体・操作パネル部 9
 - ・ リモコン(RM-SAXV7000) 10
 - ・ リモコン・液晶表示窓 10

準備

ページ

- 接続 11 ~ 23
 - ・ スピーカーの配置と接続 11 ~ 13
 - ・ AV機器を接続する 14 ~ 22
 - ・ 電源コードを接続する 23
 - ・ AC OUTLETSについて 23
 - ・ リモコンに乾電池を入れる 23

基本操作

ページ

- ふだんの操作 24 ~ 25
- 便利な操作 26 ~ 33
 - ・ 音楽をより自然な再生音で聞く 26
 - ・ 暗いところでリモコンを使う 26
 - ・ スリープタイマーを使う(SLEEP機能) 26
 - ・ ヘッドホンで楽しむ 27
 - ・ ヘッドホンでホールなどの残響音を楽しむ 27
 - ・ 外部入力機器の名称を変更する 27
 - ・ 操作パネルの開閉 28
 - ・ スピーカーを切り換える 28
 - ・ ラインダイレクトを使う(LINE DIRECT機能) 29
 - ・ 入力信号を調節する(INPUT ATT機能) 29
 - ・ 入力を切り換える(INPUT MODE) 30
 - ・ 映像を見ながらCDなどの音声を聞く
(SOUND SELECTOR機能) 31
 - ・ 録音する音声を選ぶ(REC SELECTOR機能) 32
 - ・ 設定を記憶させる 33
 - ・ 表示窓の明るさを変える(DIMMER機能) 33

設定・調節

ページ

- 設定・調節をする 34 ~ 49
 - ・ セットアップメニューの操作 34 ~ 35
 - ・ セットアップメニュー画面の構成 36 ~ 37
 - ・ スピーカーの設定をする 38 ~ 40
 - ・ 低い音量でもサラウンド効果を出す 41
 - ・ THX ON/OFFボタンの設定をする 41
 - ・ サラウンドスピーカーの設定をする 41
 - ・ デジタル入力機器の名称を設定する 42

- ・ 色差信号を入力できるようにする 43
- ・ ビデオ回路を停止する 43
- ・ スピーカー2の設定をする 43
- ・ ワンタッチオペレーションの設定をする 43
- ・ アジャストメニューの操作 44 ~ 45
- ・ アジャストメニュー画面の構成 46 ~ 49
- サラウンドモードを使う 50 ~ 53
 - ・ 映画館の雰囲気再現する 50
 - ・ サラウンドモードとは 50 ~ 51
 - ・ サラウンドモードを使う 52
 - ・ 各スピーカーの設定を一時的に変える 53
- DSPモードを使う 54 ~ 55
 - ・ 音場の構成について 54
 - ・ DSPモードとは 54
 - ・ DSPモードを使う 55
- アナログマルチチャンネルを使う 56
 - ・ DVD MULTI、EXT 7.1CHを使う 56

その他の操作

ページ

- コンピューリンク・リモートコントロールシステム 57
 - ・ コンピューリンクの接続について 57
 - ・ コンピューリンク機能について 57
- AVコンピューリンク・リモートコントロールシステム 58 ~ 59
 - ・ AVコンピューリンクの接続について 58 ~ 59
- リモコンでビクター製の機器を操作する 60 ~ 62
 - ・ オーディオ機器を操作する 60 ~ 61
 - ・ ビデオ機器を操作する 62
- 他メーカーの機器を操作する 63 ~ 66
- リモコンの学習機能を使う 67 ~ 69

知っておいてほしいこと

ページ

- 故障かな?と思う前に 70
- 保証とアフターサービス 71
- ビクターサービス窓口案内 72
- 主な仕様 73
- 用語索引 74
- 用語解説 75

安全上のご注意 —はじめにお読みください—

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。

これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

お
使
い
に
な
る
前
に

警告

- この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

注意をうながす記号



一般的注意



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



水ぬれ禁止

行為を指示する記号



一般的指示



電源プラグを抜く

警告

万一、次のような異常が発生したときは
すぐ使用をやめる。

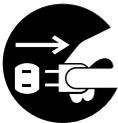
- 煙が出ている、へんなにおいがするとき



電源プラグを抜く



- 内部に水や異物が入ってしまったとき
- 落としたり、破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）



電源プラグを抜く



すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜く。異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解や改造をしない。
カバーを外さない。

火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



分解禁止

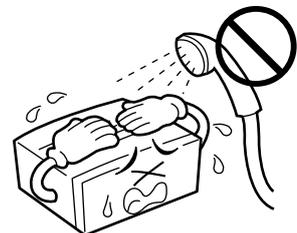


風呂場やシャワー室では使用しない。

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。



水場での使用禁止



警告

本機の中に物を入れない。

通風孔などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。



本機の上に水などの入った容器を置かない。

花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。



電源コードを傷つけない。

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。特に、次のことに注意してください。

- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない



雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

感電の原因となります。

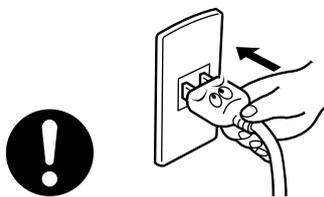


接触禁止



電源プラグは根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。



表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する。

表示された電源電圧以外では、火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.



電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取り除いてください。



本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。



禁止



⚠ 注意

電源プラグは、 コードの部分を持って抜かない。

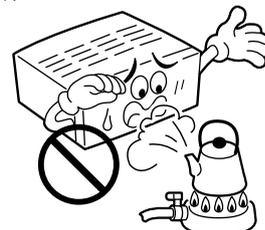
電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。



設置場所に注意する。

次のような所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多い所
- 直射日光の当たる所や、熱器具の近くなど高温になる所
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所



ぬれた手で電源プラグを 抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止



本機の上に重い物を置かない。

テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。



通風孔をふさいだり、 風通しの悪い場所で使用しない。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置する場合は、壁から10cm以上離してください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。



長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。



電源プラグを抜く



本機のACアウトレットが供給できる電力は 100Wまでです。

接続する機器の消費電力の合計が100Wを超えないようにしてください。火災の原因となることがあります



移動するときは、2人以上で持つ。

AX-V7000は、重い(22kg)ので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行ってください。けがの原因となることがあります



⚠️ 注意

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。



電源プラグを抜く



移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

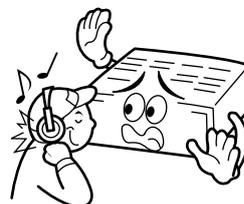


電源プラグを抜く



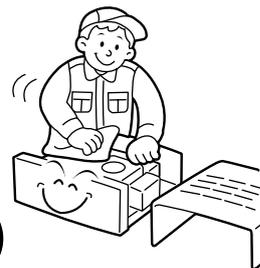
ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない。

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を受けることがあります。



3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。



電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。次のことに注意してください。

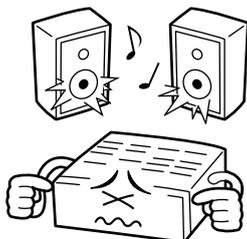
- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス(+)とマイナス(-)を間違えない
- 電池のプラス(+)とマイナス(-)をショートさせない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れてない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく



はじめから音量を上げすぎない。

突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。

電源を切る前に音量(ボリューム)を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。



設置についてのご注意

故障などを防止するため次の場所は避けてください。

- 不安定な所
- 振動の激しい所
- 湿気やほこりの多い所

寒い所から急に暖かい部屋へ移動したときは、約1~2時間待ってから電源を入れてください。

主な特長

■ HOME THX 規格準拠

THXはLucasfilm(ルーカスフィルム)社が提唱する劇場用音響の品質規定で、映画製作者の制作意図を忠実に再現できる上映環境を規定しています。

HOME THX(ホームTHX)は、THXに空間サイズや音響特性の違いなどの処理を追加して家庭用に拡張しました。

■ THX SRROUND EX デコーダー搭載

DOLBY DIGITAL SURROUND EXで収録された映像ソフトを家庭でサラウンド再生するために最適化し、映画音響制作者が意図した通りの音場を再現します。

■ ドルビーデジタルデコーダー搭載

映画館や劇場に匹敵する臨場感を再現するドルビーデジタル5.1chサラウンドに対応。センタースピーカー、サラウンドスピーカーやサブウーハーを接続することにより、迫真の立体音場の再生が可能です。

DTS デジタルサラウンドにも対応しています。

■ デジタル処理によるドルビープロロジックサラウンド

高度なデジタル信号処理技術により、正確な音の定位とダイナミックな躍動感を、高音質を維持しながら忠実に再現します。

■ MPEG-2 AACデコーダー搭載

BSデジタル放送で採用されている音声圧縮技術で、限られた放送帯域を使って最大5.1chまでのマルチチャンネル再生が可能です。本機はMPEG-2 AACデコーダーを搭載して、BSデジタルチューナーとデジタル接続をすることで、マルチチャンネル再生をすることができます。

シーシー コンバーター

■ CC CONVERTER搭載

従来のExtended K2は、デジタル入力された信号のサンプリング前のアナログ原信号を想定して、ハイビット化(高量子化)/ハイサンプリング(広帯域化)処理した信号で作りなおして、本来記録されているべき音を含んだ自然な音の再現を可能にしています。

本機ではさらにアナログ入力やドルビーデジタル、DTS デジタルサラウンドなどの圧縮音声についても高音質化処理を可能にしたCC CONVERTERを全チャンネルに搭載しています。

■ プレジジョン ダウンミックス コンバーター

DVD MULTIとEXT 7.1CHのアナログマルチチャンネル入力に対して、フロント2ch再生または、リア2chを加えた4ch再生のときには、マルチチャンネルソースに対して-10dB~+10dBの範囲でミキシングすることができます。

このミキシングは、アナログ信号の状態で行われるのでDVD AUDIOなどのマルチチャンネルソースの高音質を劣化させることなくダウンミックスする事ができます。

■ ホールの臨場感をさらに高めるDSPモード

世界の著名なコンサートホールやライブハウスなどの音場空間を、デジタル処理による残響処理で再現。同じアーティストの演奏でも、違った雰囲気を楽しむことができます。

■ ラインダイレクト

DVDオーディオなどのデジタルソース再生時に、デコード以外のDSP(デジタル・シグナル・プロセッサ)処理やチャンネルごとのレベル設定を行わずに、入力信号を忠実に再生するモードです。

アナログソース再生時では、DSP動作を停止してデジタルノイズが音声信号へ混入するのを防ぎます。

■ ビクター製品との連係操作が可能

ビクター製のテレビ、ビデオデッキ、オーディオ機器などと組んで、ワンタッチでさまざまな連係操作を可能にするコンピュリンク機能を搭載しています。

■ 他社製のテレビ・ビデオデッキ・DVDプレーヤー対応のマルチブランドリモコン

付属のリモコンは、ビクター製品はもちろん国内外20社のテレビ、ビデオデッキ、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどをコントロールできます。

■ 分離電源・機能別ブロック構造

デジタル回路用、アナログ回路用に専用電源トランスを使用し、アナログ回路とデジタル回路間のノイズ混入を防いでいます。また、アナログ回路用のトランスでは電源供給を正極/負極の別巻き線から行うなど、各チャンネル間の相互干渉を防いでいます。

さらに電源部、パワーアンプ部、デジタルオーディオ部、ビデオ部、微小信号部などを機能別にレイアウトし、各ブロック間の相互干渉を防いでいます。

■ ステレオを聞くときのエチケット



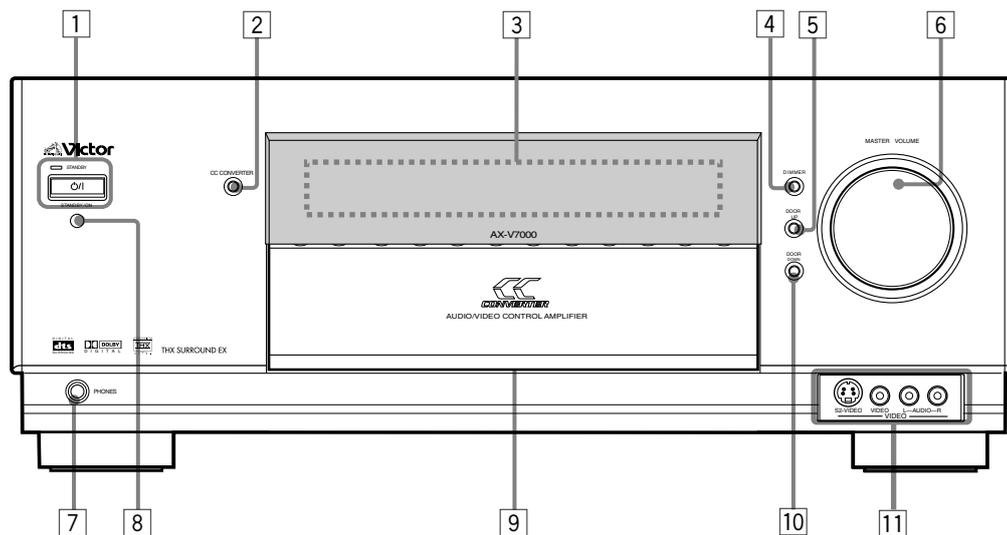
音のエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞かせください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

各部の名前

本体・前面パネル

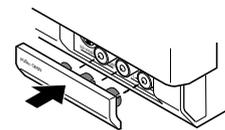


本体・前面パネル(参照ページ)

- | | |
|---|--|
| ① <small>スタンバイ オン</small> 電源ボタン
と <small>スタンバイ</small> STANDBYランプ (24) | ⑥ <small>マスター ボリューム</small> MASTER VOLUME (24) |
| ② <small>シーシー コンバーター</small> CC CONVERTER ボタン (26) | ⑦ <small>ホーンズ</small> PHONES端子 (27) |
| ③ 表示窓 | ⑧ リモコン受光部 |
| ④ <small>ディマー</small> DIMMERボタン (24) | ⑨ 操作パネル部 (9) |
| ⑤ <small>ドア アップ</small> DOOR UPボタン (9、28) | ⑩ <small>ドア ダウン</small> DOOR DOWNボタン (9、28) |
| | ⑪ 前面ビデオ入力端子 (18) |

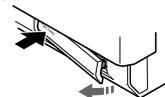
端子カバーの取り付けかた

前面ビデオ入力端子を使用しないときは、付属品の端子カバーを取り付けます。

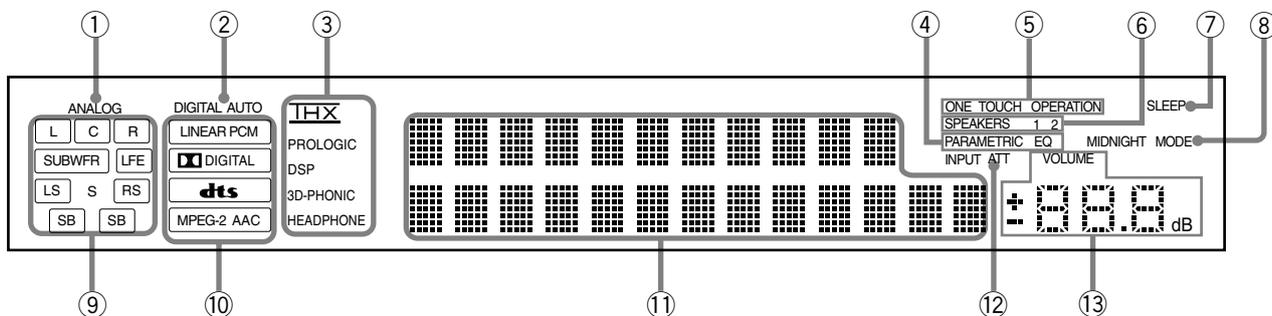


外しかた

取り外すときは、矢印のようにPUSH OPENと書かれている部分を押し込んで外します。



本体・表示窓

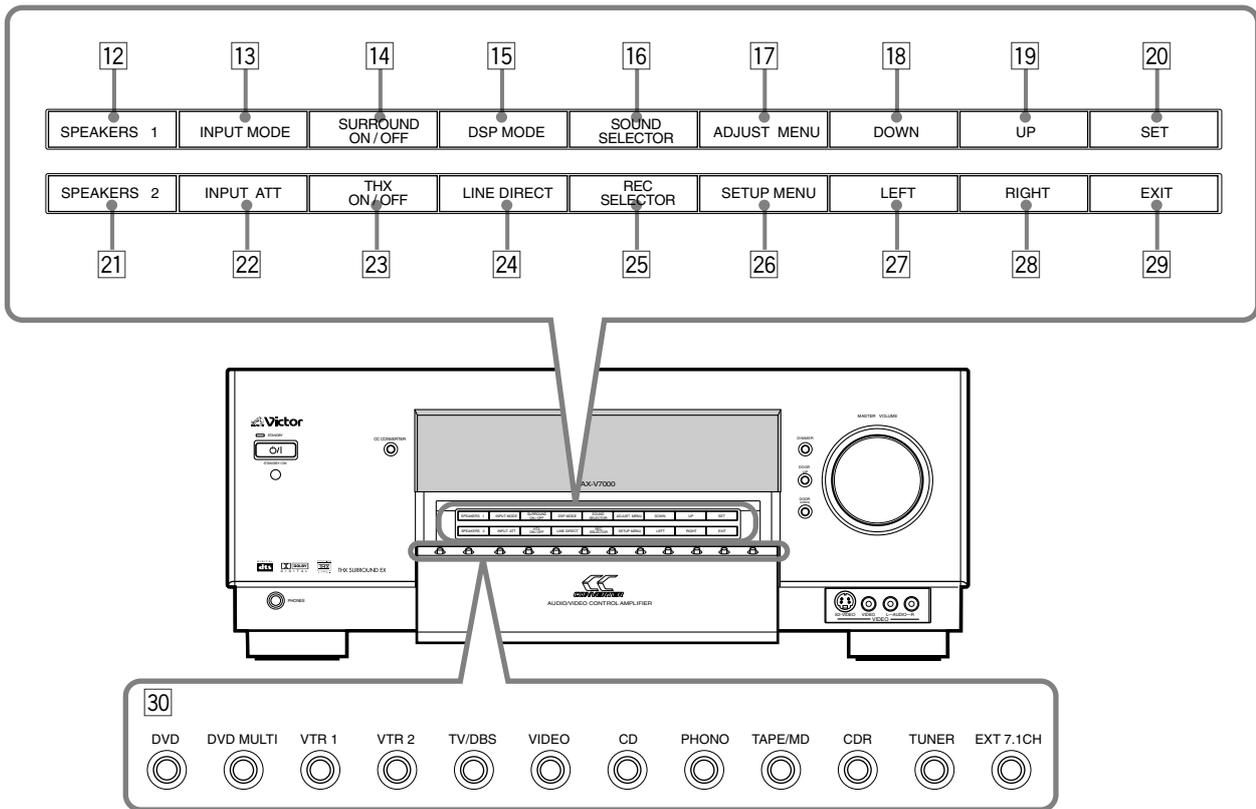


本体・表示窓(参照ページ)

- | | |
|--|--|
| ① <small>アナログ</small> ANALOG入力表示 (30) | ⑧ <small>ミッドナイト モード</small> MIDNIGHT MODE表示 (41) |
| ② <small>デジタル オート</small> DIGITAL AUTO表示 (30) | ⑨ <small>スピーカー</small> スピーカー設定表示/入力チャンネル表示 (38) |
| ③ サラウンドモード表示 (51、52) | ⑩ <small>デジタル</small> デジタル入力信号表示 (30) |
| ④ <small>パラメトリック イコライザー</small> PARAMETRIC EQ表示 (48) | ⑪ ソース/モード表示部 |
| ⑤ <small>ワン タッチ オペレーション</small> ONE TOUCH OPERATION表示 (43) | ⑫ <small>インプットアッテネーター</small> INPUT ATT表示 (29) |
| ⑥ <small>スピーカーズ</small> SPEAKERS 1/2表示 (28) | ⑬ <small>ボリューム</small> VOLUME表示 (24) |
| ⑦ <small>スリープ</small> SLEEP表示 (26) | |

本体・操作パネル部

お使いになる前に



本体・操作パネル部(参照ページ)

- | | | |
|---|---|---|
| 12 <small>スピーカー</small> SPEAKERS 1 ボタン (28) | 19 <small>アップ</small> UP ボタン (34、44) | 26 <small>セットアップ</small> <small>メニュー</small> SETUP MENU ボタン (34) |
| 13 <small>インプット</small> <small>モード</small> INPUT MODE ボタン (30) | 20 <small>セット</small> SET ボタン (34、44) | 27 <small>レフト</small> LEFT ボタン (30、34、44) |
| 14 <small>サラウンド</small> SURROUND ON/OFF ボタン (27、52) | 21 <small>スピーカー</small> SPEAKERS 2 ボタン (28) | 28 <small>ライト</small> RIGHT ボタン (30、34、44) |
| 15 <small>モード</small> DSP MODE ボタン (55) | 22 <small>インプット</small> <small>アッテネーター</small> INPUT ATT ボタン (29) | 29 <small>エキジット</small> EXIT ボタン (34、44) |
| 16 <small>サウンド</small> <small>セレクター</small> SOUND SELECTOR ボタン (31) | 23 <small>ディレイ</small> <small>チェック</small> THX ON/OFF ボタン (52) | 30 <small>ソース</small> <small>機器</small> <small>選択</small> ボタン (24) |
| 17 <small>アジャスト</small> <small>メニュー</small> ADJUST MENU ボタン (44) | 24 <small>ライン</small> <small>ダイレクト</small> LINE DIRECT ボタン (29) | DVD、DVD MULTI、VTR 1、VTR 2、
TV/DBS、VIDEO、CD、PHONO、
TAPE/MD、CDR、TUNER、
EXT 7.1CH |
| 18 <small>ダウン</small> DOWN ボタン (34、44) | 25 <small>ロック</small> <small>セレクター</small> REC SELECTOR ボタン (32) | |

操作パネルの開閉

スタンバイ オン **⏻/I STANDBY/ON**(電源)ボタンを押して電源を入ると、操作パネルが1段下がり、ソース機器選択ボタンが現れます。

設定ボタンを出す

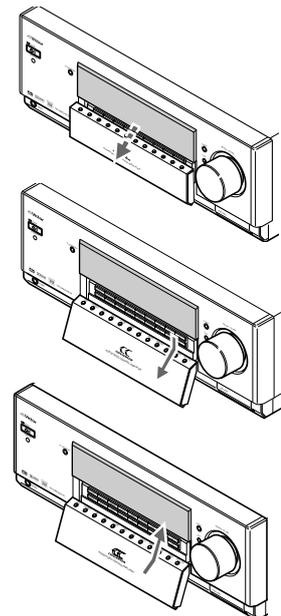
ドア ダウン DOOR DOWNボタンを押すと、操作パネルが1段下って設定ボタンが現れます。

設定ボタンをしまう

ドア アップ DOOR UPボタンを押すと、操作パネルが1段上って設定ボタンが収納されます。

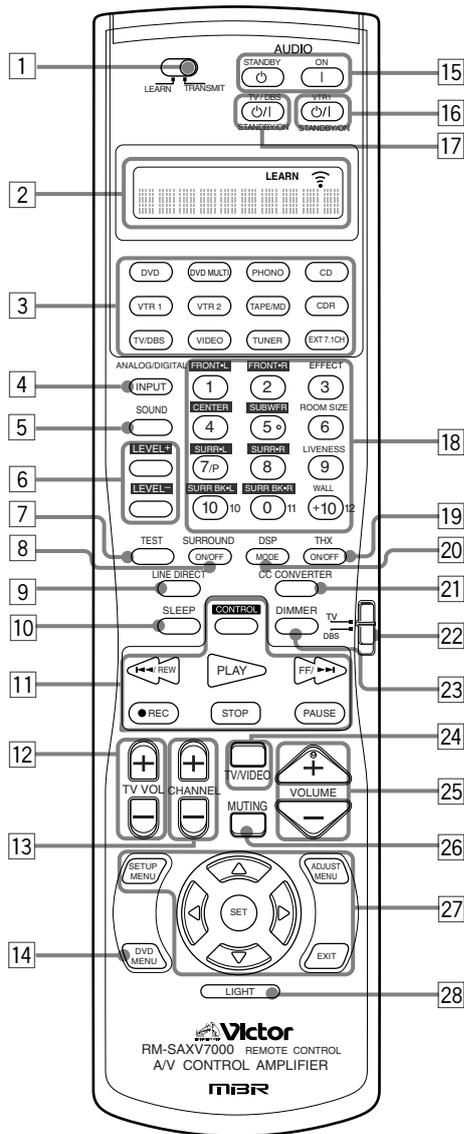
ソース選択ボタンをしまう

ドア アップ DOOR UPボタンを押すと、操作パネルが、さらに1段上って、ソース機器選択ボタンが収納されます。



各部の名前(つづき)

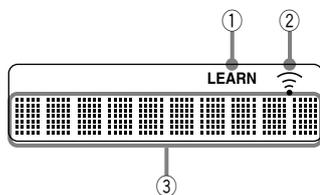
リモコン(RM-SAXV7000)



リモコン(参照ページ)

- ① LEARN/TRANSMIT^{ラーン トランスミット}切替スイッチ(60、63、67)
- ② 液晶表示窓(10)
- ③ ソース機器選択ボタン(25)
DVD、DVD MULTI、PHONO、CD、VTR1、VTR2、
TAPE/MD、CDR、TV/DBS、VIDEO、TUNER、
EXT 7.1CH
- ④ ANALOG/DIGITAL^{アナログ デジタル} INPUT^{インプット}ボタン(30)
- ⑤ SOUND^{サウンド}ボタン(53)
- ⑥ LEVEL^{レベル}+とLEVEL^{レベル}-ボタン(53)
- ⑦ TEST^{テスト}ボタン(53)
- ⑧ SURROUND ON/OFF^{サラウンド}ボタン(27、52)
- ⑨ LINE DIRECT^{ライン ダイレクト}ボタン(29)
- ⑩ SLEEP^{スリープ}ボタン(26)
- ⑪ ソース機器操作ボタン(60、63、67)
PLAY、CONTROL、PAUSE、STOP、◀◀/REW、FF、▶▶、●REC
- ⑫ TV VOL +/-^{チャンネル}ボタン(62)
- ⑬ CHANNEL +/-^{メニュー}ボタン(62)
- ⑭ DVD MENU^{メニュー}ボタン(62)
- ⑮ AUDIO ⏻ (STANDBY)とAUDIO | (ON)ボタン(25)
- ⑯ VTR 1 ⏻/| (STANDBY/ON)^{スタンバイ}ボタン(62)
- ⑰ TV/DBS ⏻/| (STANDBY/ON)^{スタンバイ}ボタン(62)
- ⑱ 数字キー
・出力レベルの調節(53)
・AV機器操作(60)
- ⑲ THX ON/OFF^{モード}ボタン(52)
- ⑳ DSP MODE^{モード}ボタン(55)
- ㉑ CC CONVERTER^{コンバーター}ボタン(26)
- ㉒ TV/DBS切替スイッチ(63)
- ㉓ DIMMER^{ダイヤム}ボタン(25)
- ㉔ TV/VIDEO^{ボリウム}ボタン(62)
- ㉕ VOLUME +/-^{ボリウム}ボタン(25)
- ㉖ MUTING^{ミュート}ボタン(25)
- ㉗ メニュー操作ボタン(34、44)
SETUP MENU、SET、ADJUST MENU、EXIT、
△/▽/◀/▶^{ライト}
- ㉘ LIGHT^{ライト}ボタン(26)

リモコン・液晶表示窓



リモコン・液晶表示窓(参照ページ)

- ① LEARN 表示(67)
- ② 送信表示
リモコンのコード送信中に表示されます。
- ③ 液晶表示部
ボタンを押すと、選んだソース機器名などが表示されます。

スピーカーの配置と接続

■ スピーカーの配置について

本機は従来のドルビーデジタル 5.1chの他に

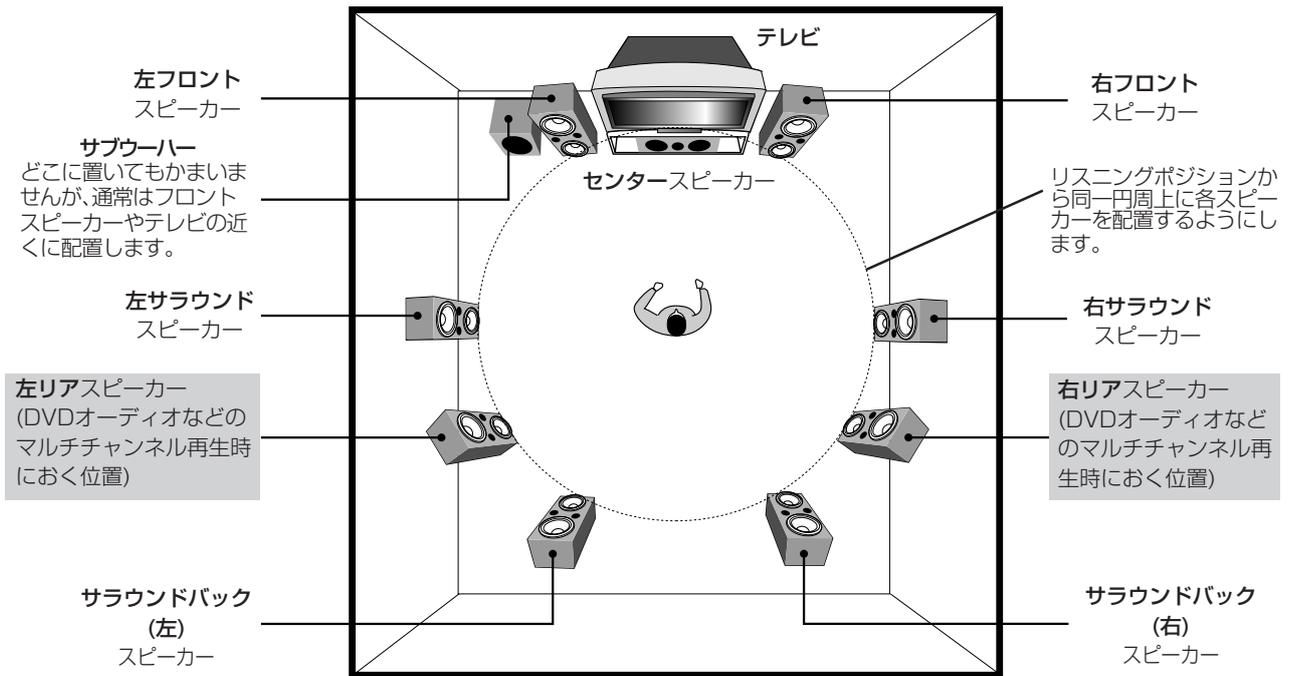
- ・DTS 5.1ch
- ・THX EX 7.1ch
- ・DVDオーディオ用マルチチャンネル

に対応しています。このため、スピーカーを同時に8本使用して、より臨場感のある音場を創ることができます。

スピーカーを配置するには、下の配置例を参考に実際にお聞きになりながら最適なサラウンド効果、残響効果が得られる向きや場所を探して設置してください。

また、部屋の間取りなどで配置がむずかしいときでも、スピーカー距離を正しく設定することで音場の調節をすることができます。スピーカー距離については、「スピーカーの設定をする」(→ 38 ページ参照)をご覧ください。

理想的なスピーカー配置例 (7.1ch配置のとき)



◆ ご注意

- ・テレビの近くに設置するセンタースピーカーやフロントスピーカーなどは、防磁型スピーカーをお使いください。万一、テレビの画面に色ムラが生じるときは、スピーカーとテレビを離して設置してください。
- ・上記の配置例で、リア(左右)スピーカーは、フロントスピーカー2をリア設定にしたとき推奨される配置です。DVDオーディオ用に使うときに配置します。

■ 接続するスピーカーについて

本機に接続できるスピーカーの公称インピーダンスは次の通りです。

接続端子	スピーカー公称インピーダンス
フロント1またはフロント2(リア)	6Ω~16Ω
フロント1とフロント2を同時に使用するとき	12Ω~32Ω
センター	6Ω~16Ω
サウンド(左右)	6Ω~16Ω
サウンドバック(左右)	6Ω~16Ω

DVDソフトでドルビーデジタルやDTS デジタルサラウンドを楽しんだり、ホールやシアターなどの残響効果を楽しむにはスピーカーの相性も重要になります。フロント、センター、サウンド、サウンドバックの各スピーカーは、特性の揃った同一のスピーカーを使うことが理想的です。

■ 設置上のご注意

本機はハイパワーであるため、本体内部に冷却用のファンを搭載しています。

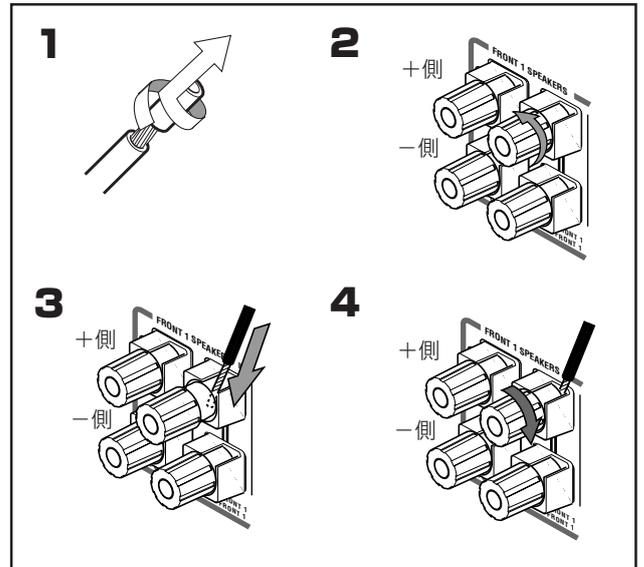
連続動作や大音量動作で内部の温度が上昇すると、冷却用ファンが作動します。十分な冷却効果を得るため本体周囲の通風口をふさがないようにご注意ください。

接続(つづき)

■ スピーカーコードの接続

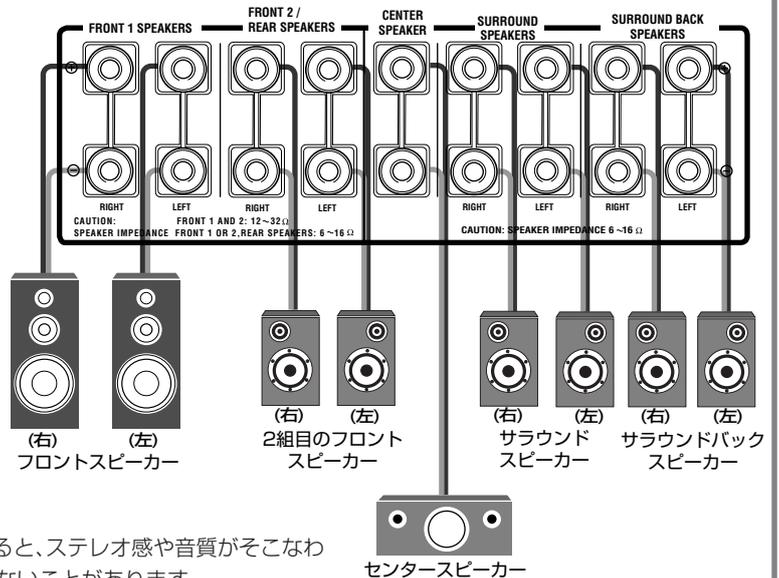
フロント、サラウンド、サラウンドバック、センターの各スピーカーを本機に接続します。
 スピーカーコードの長さは、左右のスピーカーで同じくらいの長さになるようにします。

1. スピーカーコードの先端にビニール被覆がついているときは、ビニール被覆を回しながら抜き取ると、芯線もよじられます。
2. スピーカー端子のツマミを反時計回りに回して、端子をゆるめる。
3. スピーカーコードの芯線を、スピーカー端子に差し込む。
4. スピーカー端子のツマミを、時計回りに回してスピーカーコードを固定する。
 スピーカー端子をしめた後でスピーカーコードの被覆が端子にはさまれていないこと、また、スピーカーコードを軽く引いて、しっかり固定されていることを確認してください。



スピーカー出力端子との接続

各スピーカーを本機背面のスピーカー出力端子に接続します。
 本機のフロントスピーカーは、2系統を接続し切り換えて使用することができます。
 例えば、FRONT 1にふだんお使いのオーディオ用のフロントスピーカーを接続し、FRONT 2にサラウンドシステム用のフロントスピーカーを接続したり、すべて同じスピーカーを使用して、DVDオーディオを聞くときに、FRONT 2のスピーカーをリアスピーカー用に設定するなど、映画やCD、DVDオーディオなどを聞くときに使い分けることもできます。



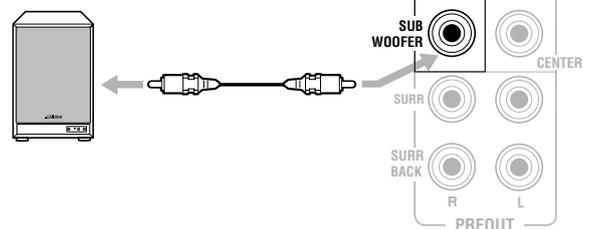
<お知らせ>

- ・スピーカーコードの極性(⊕、⊖)を間違えて接続すると、ステレオ感や音質がそこなわれます。また、サラウンド効果の音像が正しく定位しないことがあります。
- ・スピーカーコードはスピーカー端子の極性(⊕、⊖)と本機の端子の極性(⊕、⊖)に合わせて、マークや線のあるほうを⊖側と決めて接続すると、接続ミスが防げます。

■ サブウーハーの接続

サブウーハーを接続すると、より迫力のある重低音がお楽しみいただけます。また、ドルビーデジタル5.1ch、DTS 5.1ch、THX EX 7.1ch対応のソフトを再生したときLFE(Low Frequency Effect)信号がサブウーハーで再生され、映画館のような重低音が楽しめます。
 サブウーハーを接続するときは、RCAピンプラグコードでSUBWOOFER 端子に接続します。

パワードサブウーハー
 SP-PW800など(別売り)

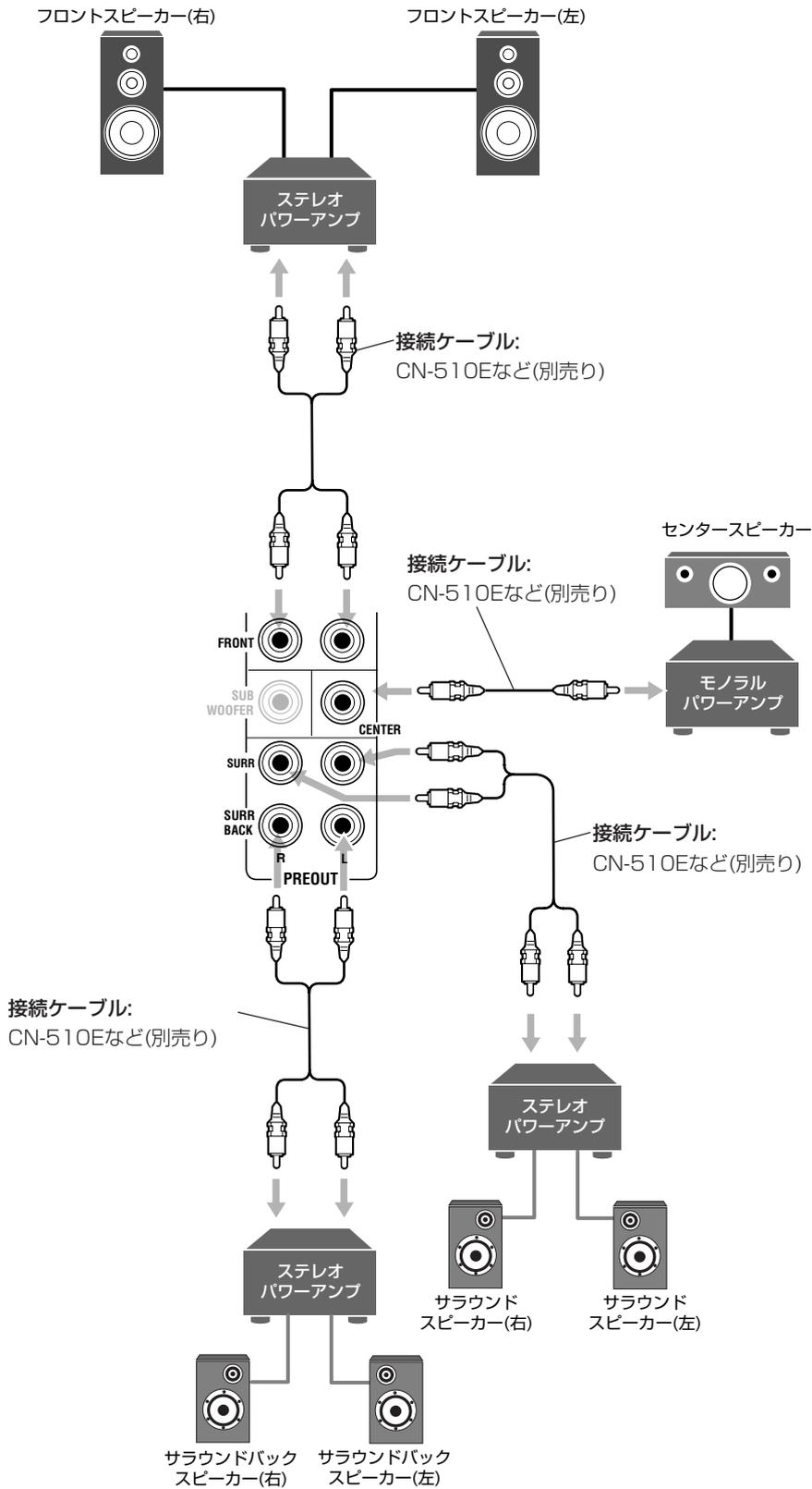


・詳しくは、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。

■ 外部にアンプを接続する

本機はプリ出力(PREOUT)端子を装備しています。

外部にパワーアンプなどを接続して、より高品位な再生システムを構成することができます。



接続(つづき)

AV機器を接続する

次のようなAV機器を接続することができます。

- ・ 接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

オーディオ機器	ビデオ機器
・ レコードプレーヤー	・ テレビまたはモニター
・ CDプレーヤー*	・ ビデオデッキ*
・ MDレコーダー*	・ BSデジタルチューナー*
またはカセットデッキ	・ DVDプレーヤー*
・ CDレコーダー*	
・ チューナー	

* 音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。より良い音質でお楽しみいただくにはデジタル接続をお勧めします。(→ 22 ページ参照)

- ・ REC SELECTORレック セレクター(録音選択)機能を使って録音するにはアナログ音声接続が必要です。

アナログ機器の接続

オーディオ機器の接続

RCAピンプラグコードを使って接続します。

- ・ 音声コードを接続するときは、赤いプラグを右(RIGHT)端子に、白いプラグを左(LEFT)端子に接続してください。

ご注意

- ・ 本機と接続する機器の間にグラフィックイコライザーなどの機器を接続すると音がひずむことがありますので、ご注意ください。

<お知らせ>

オーディオ機器にCOMPU LINK-3コンピュ リンクまたは4端子があるときは・・・

ビクター製のコンピュリンク対応のオーディオ機器をCOMPU LINK-3または4端子を使って接続すると、一体型システムのような連携操作が可能になります。

57 ページの「コンピュリンク・リモートコントロールシステム」をご覧ください。

本機には接続コードが付属しておりません。接続する機器に付属している接続コードか別売りのRCAピンプラグコードをお使いください。

本機の接続には次のような接続コードが必要になります。

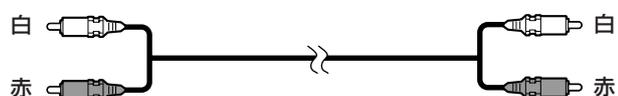
音声接続用

RCAピンプラグコード

赤 → 右(R)

白 → 左(L)

CN-510E(1m)など



レコードプレーヤー

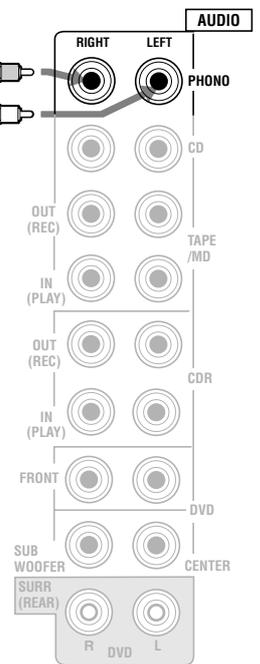
レコードプレーヤーを接続するときは、アース線を本機のアース端子(+)に接続してください。
また、MCカートリッジをお使いのときは、レコードプレーヤーの出力にヘッドアンプを接続してから本機につないでください。



レコードプレーヤー

音声出力端子より

➡ : 信号の流れ

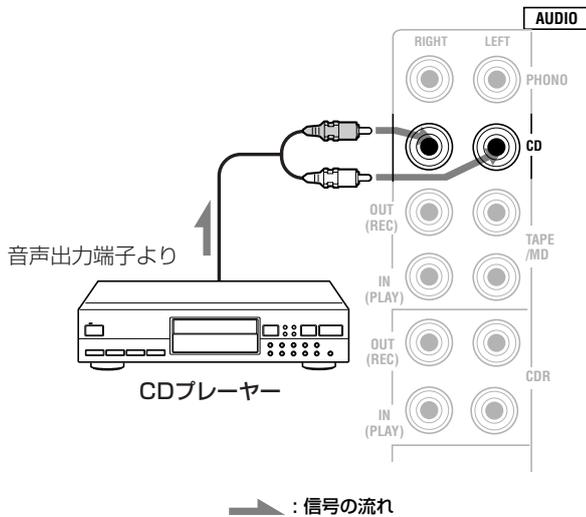


ご注意

- ・ 本機のPHONO端子にレコードプレーヤー以外の機器を絶対に接続しないでください。レコードプレーヤーからの出力は、ほかの機器の出力に比べて非常に小さくなっています。このためアンプ内部で大きな増幅をしていますので、ほかの機器を接続すると故障の原因になることがあります。

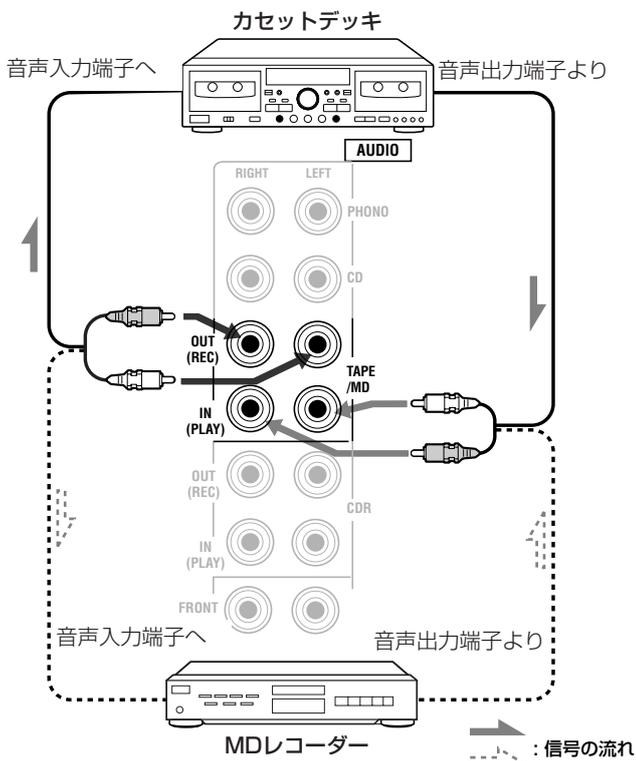
CDプレーヤー

- レック セレクター
・ REC SELECTOR(録音選択)機能を使って録音するにはアナログ音声接続が必要です。



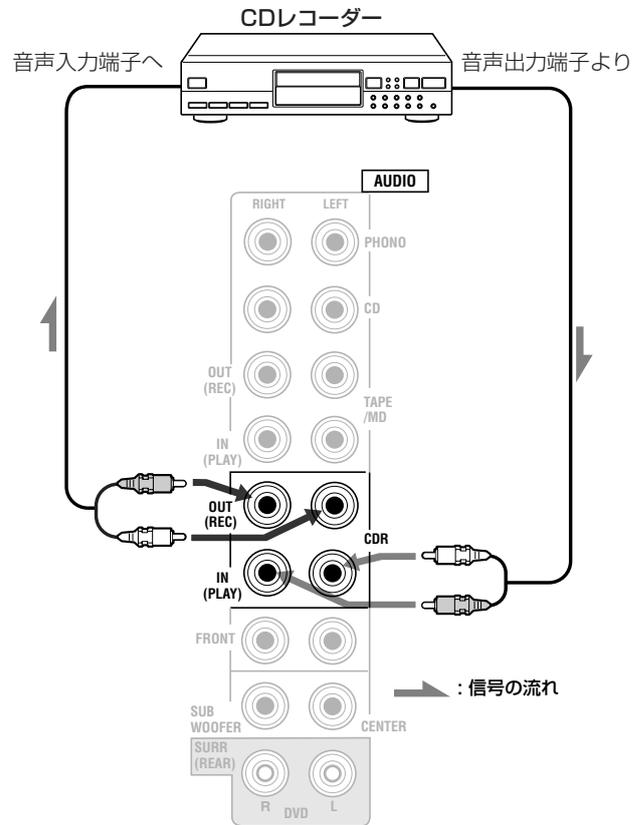
カセットデッキまたはMDレコーダー

- ・ TAPE/MD端子にはカセットデッキまたはMDレコーダーを接続することができます。お買い上げ時の設定は「TAPE」に設定されています。MDレコーダーを接続するときは、ソース選択時に表示窓に表示されるソース機器名を「TAPE」から「MD」に変更してください。(→ 27 ページ参照)
- レック セレクター
・ REC SELECTOR(録音選択)機能を使って録音するにはアナログ音声接続が必要です。

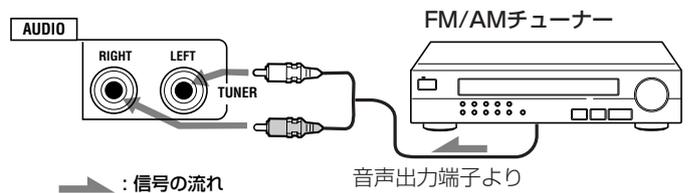


CDレコーダー

- レック セレクター
・ REC SELECTOR(録音選択)機能を使って録音するにはアナログ音声接続が必要です。



FM/AMチューナー



接続(つづき)

ビデオ機器の接続

RCAピンプラグコードを使って接続します。

- 映像／音声コードを接続するときは、黄色のプラグを映像端子に、赤いプラグを音声の右(RIGHT)端子に、白いプラグを左(LEFT)端子に接続してください。
- 接続するビデオ機器にS映像端子があるときはS映像コードを、コンポーネント端子またはD映像端子があるときは、コンポーネント映像コードまたはD映像接続コードを使って接続するとよりよい画質でお楽しみいただけます。

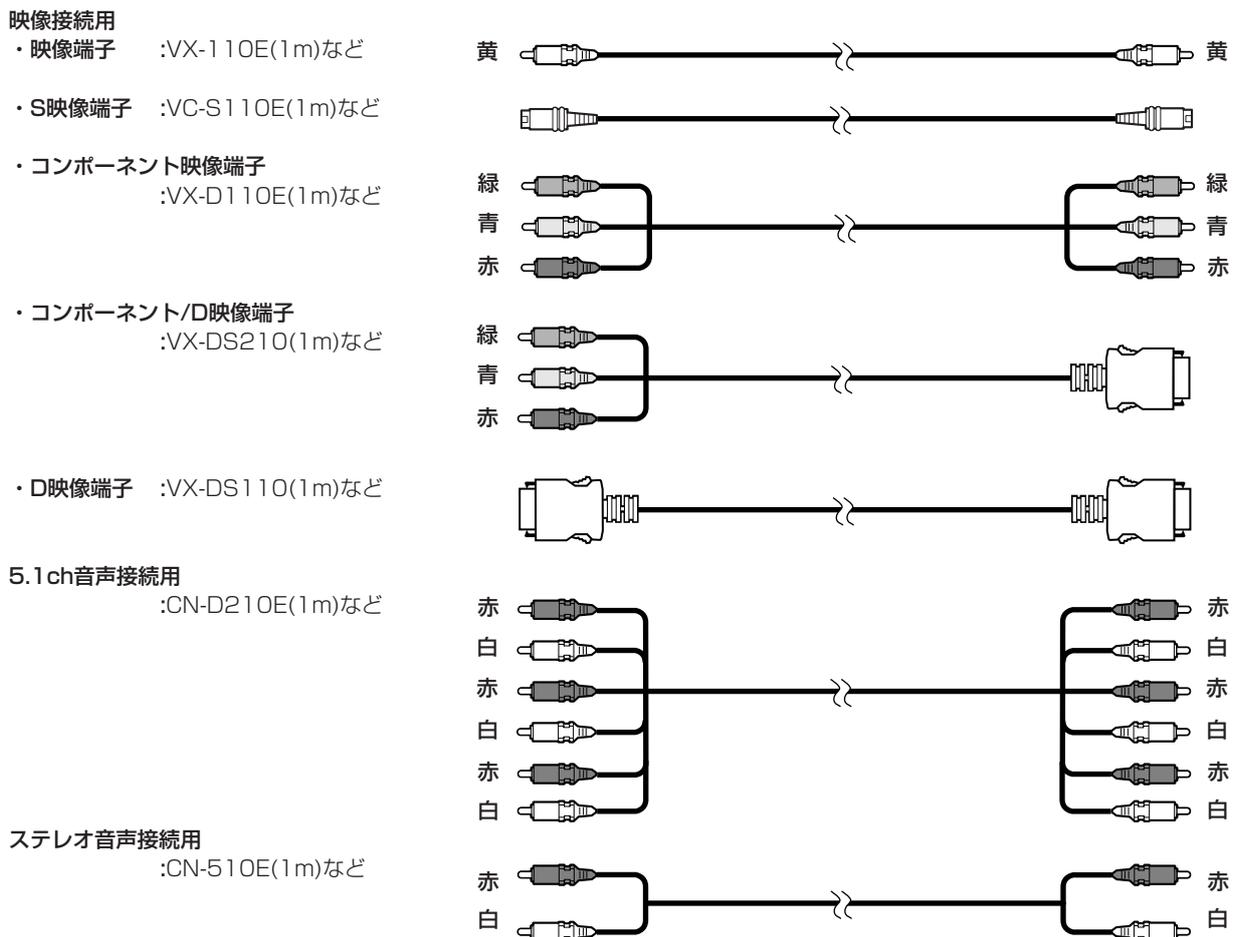
本機には、映像入力/出力端子として、次の端子が装備されています。

- コンポジット映像端子** : 通常の映像端子です。(以降、この取扱説明書では単に映像端子と記載します)
- S映像端子** : 映像を輝度信号と色信号に分けたもので、色のにじみなどが低減されます。
本機のS映像端子は、ビデオカメラなどのワイドモードや、ワイドテレビなどのワイド画面検出(スクイーズ)信号にも対応するS2映像端子です。
- コンポーネント映像端子** : 色差信号とも呼ばれ、映像を色信号2本(色の三原色の赤・緑・青を青信号成分と赤信号成分に分けたもの)と輝度信号1本に分けたもので、色の発色が良く、高い映像品位が特長です。
- D4映像端子** : 扱う信号はコンポーネント映像端子と同じものですが、コード1本で接続でき、送られる映像の信号フォーマットや縦横比(アスペクト比)の検出信号をもっているのが特長です。
BSデジタルチューナーやDVDプレーヤーなどに使われています。

これらの端子は、お使いになる映像機器に合わせて使い分けてください。ご使用にあたっては次の点にご注意ください。

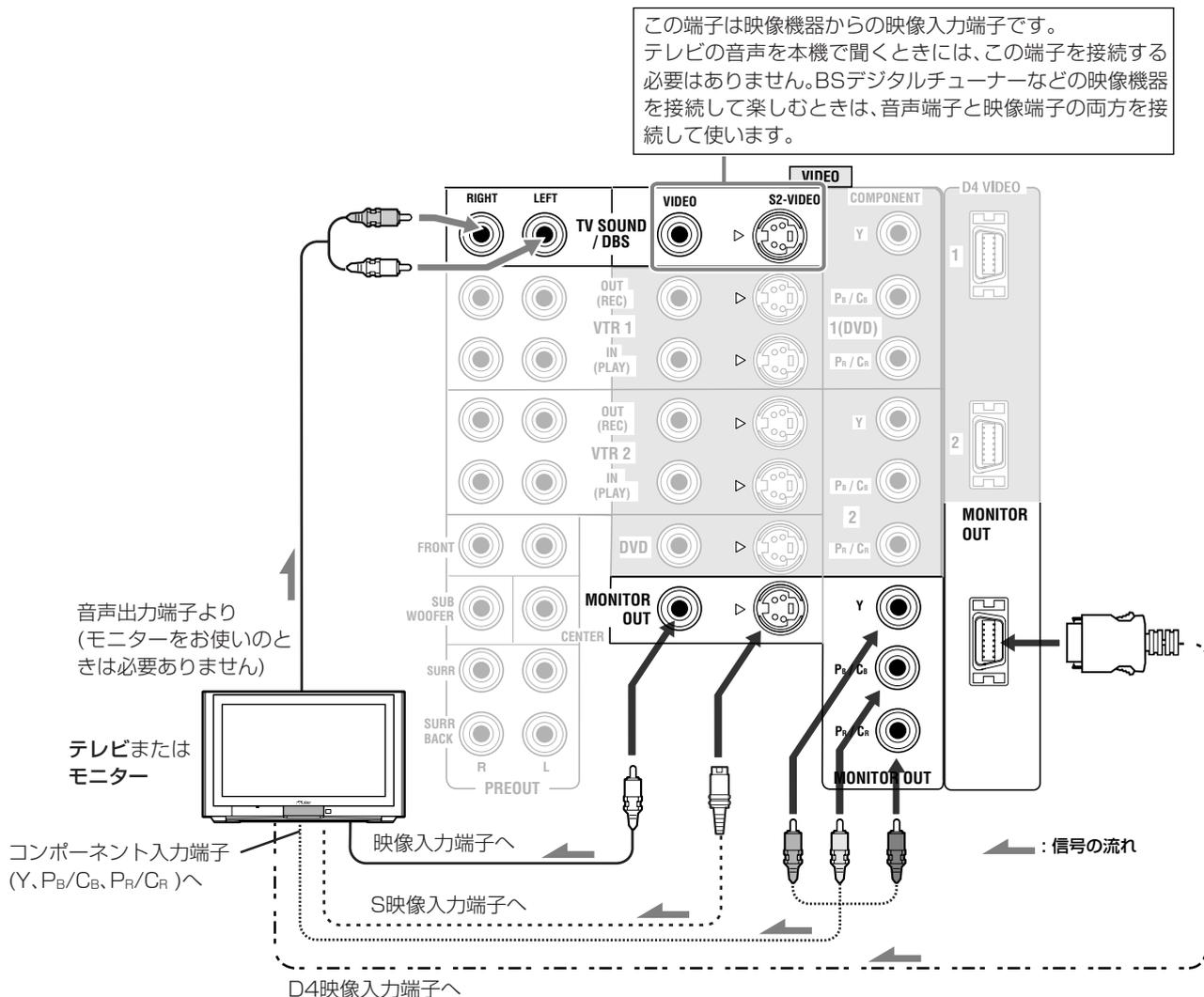
- 録画用の機器と再生用の機器が同じ種類の端子に接続されていないと、映像を録画することはできません。
例えば、再生機器をS映像端子に接続して、録画機器を映像端子に接続しても録画することはできません。
このようなときは、再生機器も録画機器もS映像端子に接続してください。また、コンポーネント映像端子とD映像端子も入力と同じ種類の端子に出力されます。
- MONITOR OUT端子も入力と同じ種類の端子だけから出力されます。

本機には接続コードが付属しておりません。接続する機器に付属している接続コードか別売りの接続コードをお使いください。本機の接続には次のような接続コードが必要になります。



テレビまたはモニター

- 本機とテレビを接続するときは、すべての映像端子を接続する必要はありません。接続する映像端子は、ご覧になる機器の端子に合わせて接続してください。
- また、D映像端子またはコンポーネント映像端子を利用できるようにするには、セットアップ メニューでの設定が必要です。詳しくは「色差信号を入力できるようにする」(→ 43 ページ参照)をご覧ください。



D4映像端子で接続するときのご注意

本機はインターレース(飛び越し走査)方式時1125i、プログレッシブ(順次走査)方式時750pまでの信号を扱うことができるD4映像端子を装備しています。

このため、D1からD4映像端子までのD映像端子をもったDVDプレーヤーやBSデジタルチューナーなどを接続することができます。また、本機では入力された信号をそのまま出力するため、端子の種類の低い(D1やD2など)テレビではご覧になれないことがあります。このようなときは再生している映像機器側でD映像端子への出力信号のフォーマットを切り換えてご覧ください。切り換えの詳しい説明は、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

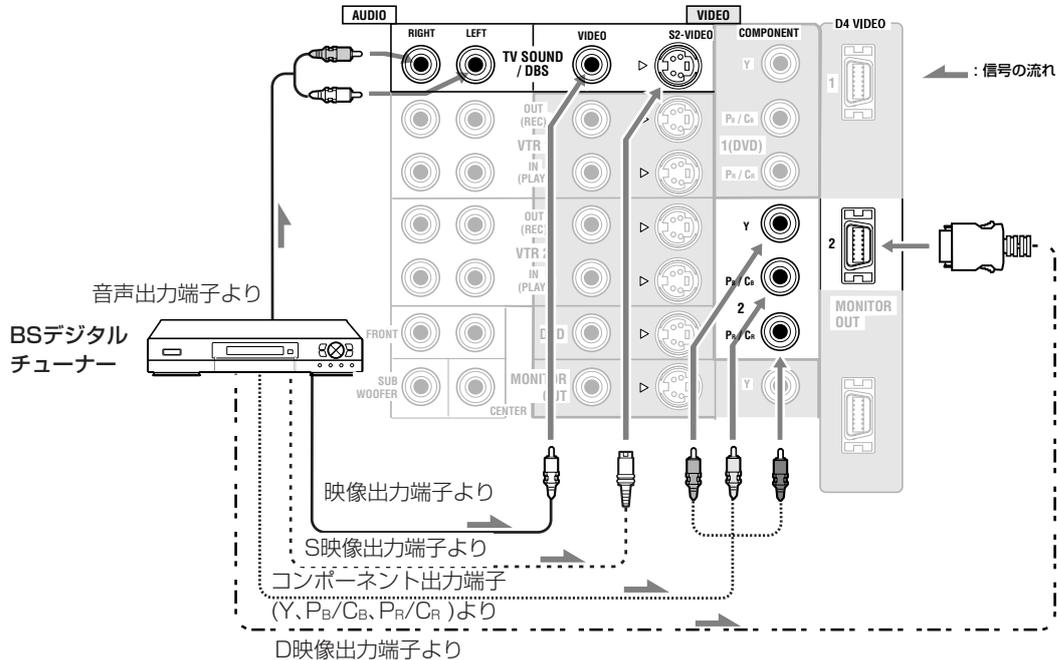
D映像端子の種類と扱える信号フォーマット一覧

端子の種類	信号フォーマット
D1	525i
D2	525p (525i)
D3	1125i (525i、525p)
D4	750p (1125i、525p、525i)

()内の数字は、端子の種類に含まれる信号フォーマットですが、機器によっては出力されないことがあります。表中のiはインターレース、pはプログレッシブの略です。

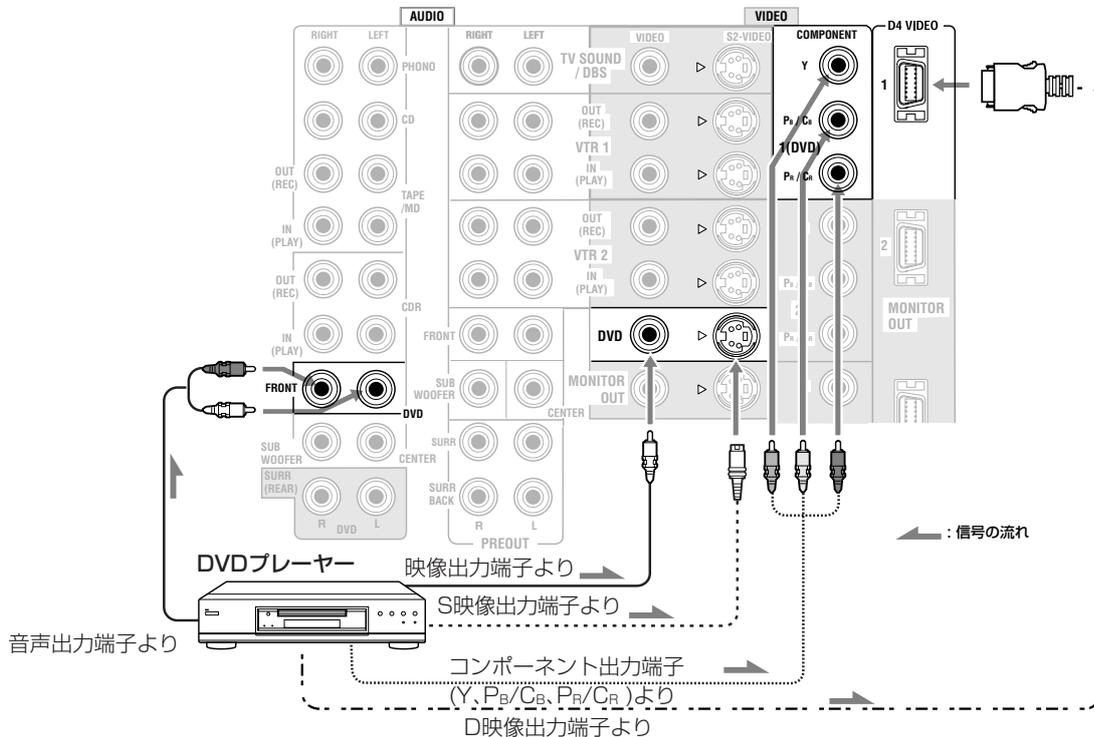
BSデジタルチューナー

- 本機はBSデジタルチューナーを接続し、BSデジタル放送で使われているMPEG-2 AACフォーマットの信号をデコードして5.1ch再生することができます。接続については、デジタルケーブルの接続も参照してください。(→ 22 ページ参照)
- また、D映像端子またはコンポーネント映像端子を利用できるようにするには、^{セットアップ} ^{メニュー} **SETUP MENU**での設定が必要です。詳しくは「色差信号を入力できるようにする」(→ 43 ページ参照)をご覧ください。
- ^{ロック} ^{セレクター} **REC SELECTOR**(録音選択)機能を使って録音するにはアナログ音声接続が必要です。



DVDプレーヤー(2ch)

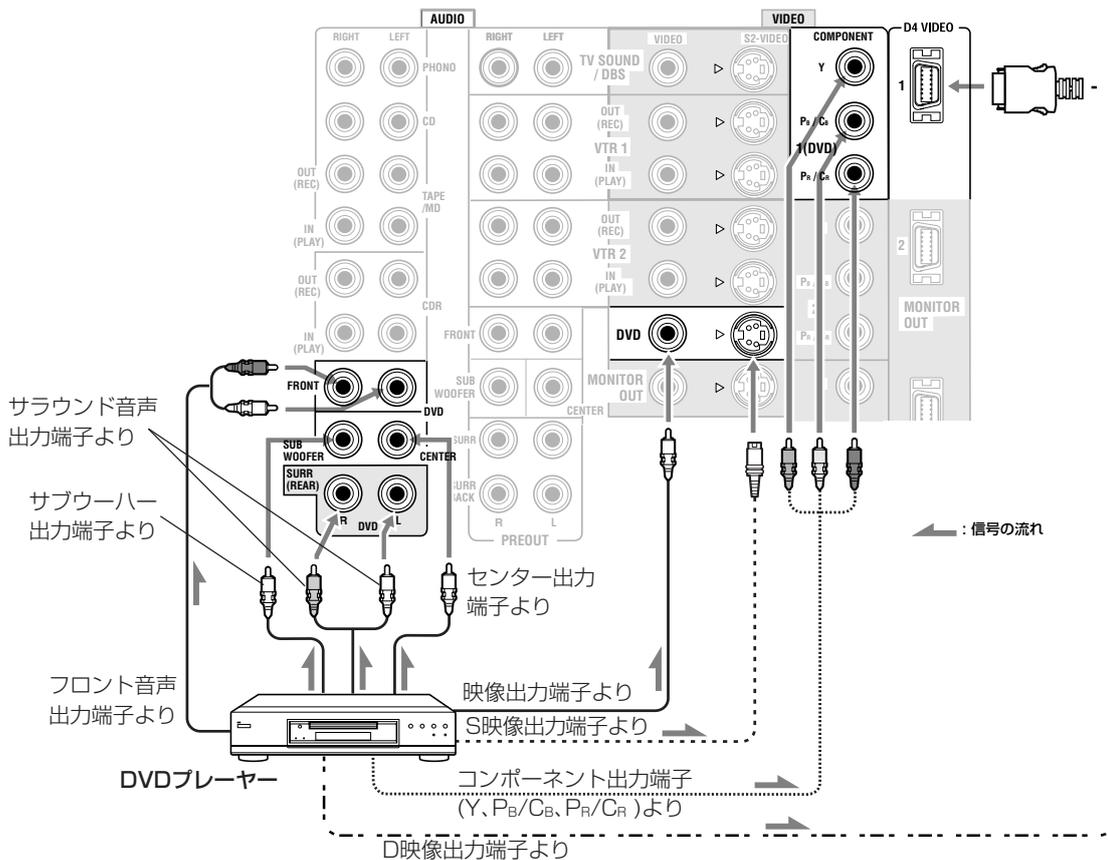
- DVDプレーヤーを接続するときは、すべての映像端子を接続する必要はありません。接続する映像端子は、ご覧になる機器の端子に合わせて接続してください。
- また、D映像端子またはコンポーネント映像端子を利用できるようにするには、^{セットアップ} ^{メニュー} **SETUP MENU**での設定が必要です。詳しくは「色差信号を入力できるようにする」(→ 43 ページ参照)をご覧ください。
- お買い上げ時の設定では、^{コンポーネント} **COMPONENT 1 (DVD)**入力は、DVDに設定されています。
- ^{ロック} ^{セレクター} **REC SELECTOR**(録音選択)機能を使って録音するにはアナログ音声接続が必要です。



接続(つづき)

DVDプレーヤー(5.1ch)

- DVDプレーヤーを接続するときは、すべての映像端子を接続する必要はありません。
接続する映像端子は、ご覧になる機器の端子に合わせて接続してください。
また、D端子またはコンポーネント端子を利用できるようにするには、^{セットアップ} ^{メニュー} **SETUP MENU**での設定が必要です。
詳しくは「色差信号を入力できるようにする」(→ **43** ページ参照)をご覧ください。
- お買い上げ時の設定では、^{コンポーネント} **COMPONENT 1 (DVD)**入力は、DVDに設定されています。
- DVD MULTIでは、センタースピーカー、サブウーハーなどを「NONE」に設定してダウンミックスするときにも、デジタル処理せずにアナログ音声のまま処理されるので劣化のない再生音を楽しむことができます。

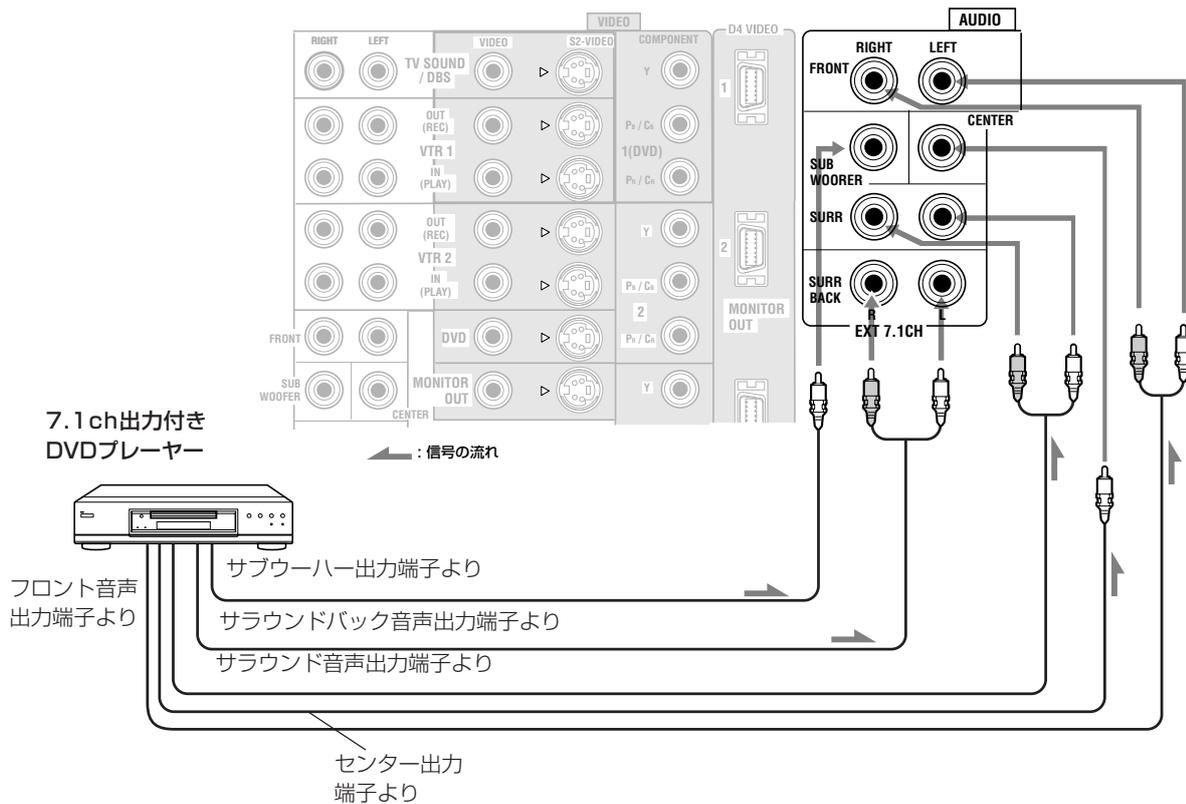


ご注意

- DVD MULTIは、^{レック} ^{セレクター} **REC SELECTOR**(録音選択)機能を使って録音することはできません。

EXT 7.1CH (外部7.1CH)

- 7.1chの音声出力をもった機器と接続します。(例:7.1ch出力付きDVDプレーヤー)
- 外部に7.1CHデコーダーを接続するときは、DVDプレーヤーのデジタル出力端子を外部7.1CHデコーダーに接続し、外部7.1CHデコーダーからの各アナログ音声出力を本機の背面端子に接続してください。
- EXT 7.1CHでは、センタースピーカー、サブウーハーなどを「NONE」に設定してダウンミックスするときにも、デジタル処理せずにアナログ音声のまま処理されるので劣化のない再生音を楽しむことができます。
- DVDプレーヤーなどの映像端子は、DVDプレーヤー(5.1ch)と同様に接続します。



ご注意

- EXT 7.1CHは、REC SELECTOR (録音選択) 機能を使って録音することはできません。
- DVDプレーヤーの出力をEXT 7.1CH端子に接続したときは、映像と音声は同時には切り換わりません。映像を選ぶためには一度、ソース機器選択ボタンでDVDを選んでから、音声を選ぶためにソース機器選択ボタンでEXT 7.1CHを選んでください。

接続(つづき)

デジタル機器の接続

デジタル入力端子の接続

本機には、同軸デジタル入力端子1系統と光デジタル入力端子4系統があります。

- DVDプレーヤーまたはBSデジタルチューナーをデジタル入力端子(DIGITAL IN)に接続するときは、背面の映像端子にも接続してください。
- デジタル入力端子(DIGITAL IN)に機器を接続した後に、以下の設定をしてください。
 - 接続した機器名とデジタル入力端子(DIGITAL IN)に割り当てられている機器名が合うように設定してください。詳しくは 42 ページの「デジタル入力機器の名称を設定する」を参照してください。
 - 「TAPE/MD」と「TV/DBS」に接続したデジタル機器名を正しく設定してください。
 - 音声入力としてデジタル入力を選択します。詳しくは 30 ページの「入力を切り換える」を参照してください。

- 本機には接続コードが付属していません。接続する機器に付属している接続コードか、別売りの接続コードをお使いください。本機の接続には、次のような接続コードが必要になります。

デジタル音声接続用

同軸用(75Ω)RCAピンプラグコード

: CN-D110E(1m)など



光デジタル用ケーブル

: XN-110E(1m)など



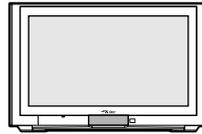
<お知らせ>

- お買い上げ時には、DIGITAL IN端子には、それぞれ以下の機器を接続するように設定されています。

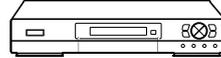
DIGITAL 1 (DVD)同軸入力端子	: DVDプレーヤー
DIGITAL 2 (CD)光入力端子	: CDプレーヤー
DIGITAL 3 (TV)光入力端子	: テレビ
DIGITAL 4 (CDR)光入力端子	: CDレコーダー
DIGITAL 5 (MD)光入力端子	: MDレコーダー
- CDプレーヤーまたはMDレコーダーをコンピューリンク・リモートコントロールシステムを使って操作するときは、14 ページの「アナログ接続」も同時に行ってください。
- 本機にLDプレーヤーやDATデッキを接続することもできます。

デジタル接続できる機器

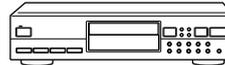
デジタルテレビ



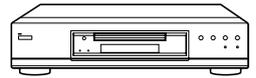
BSデジタルチューナー



CDプレーヤー



DVDプレーヤー



D-VHSビデオデッキ



CDレコーダー



MDレコーダー



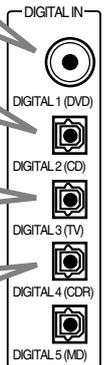
接続する機器に同軸デジタル出力端子があるときは

同軸コードを使って、^{デジタル}DIGITAL 1 (DVD)端子に接続してください。

接続する機器に光デジタル出力端子があるときは

光デジタルケーブルを使ってDIGITAL 2 (CD)、3 (TV)、4 (CDR)、5 (MD)端子に接続してください。

光デジタルケーブルを接続する前に、保護キャップを外してください。



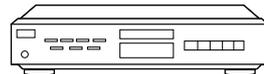
デジタル出力端子の接続

本機には、光デジタル出力端子があります。

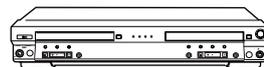
MDレコーダーやCDレコーダーなどを接続してデジタル録音ができます。

また、本機の光デジタル出力は、ドルビーデジタルやDTS信号も出力することができますので、外部デコーダーなどを接続することもできます。

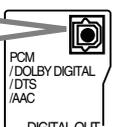
MDレコーダー



CDレコーダー



光デジタルケーブルを使ってDIGITAL OUT端子を接続してください。



<お知らせ>

デジタル出力できる信号は設定により変わります。

デジタル出力するときの信号を選ぶことができます。

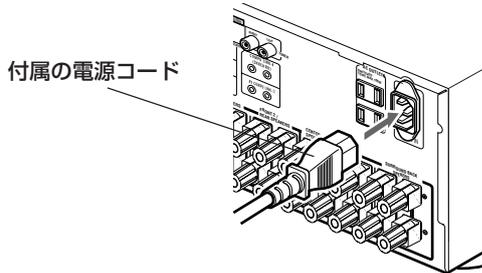
・入力された信号のまま出力(THROUGH)

・2チャンネルPCM

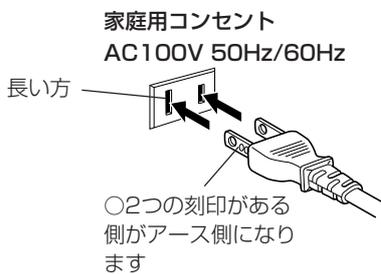
詳しくは「光デジタル出力端子の設定」42 ページをご覧ください。

電源コードを接続する

接続がすべて終わってから、付属の電源コードを本機背面に差し込みます。



つぎに電源プラグを家庭用コンセントにつないでください。電源コードを接続すると、STANDBYランプが赤く点灯します。また、本機の電源プラグの一方には、極性を示す刻印があります。これはよりよい音質でお楽しみいただけるよう、各機器の電源コードの極性を合わせるための印です。刻印が入っている側を家庭用コンセントの長い方(アース側)になるよう差し込みます。

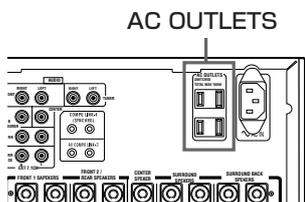


ご注意

- ・電源コードはテレビやビデオデッキ、アンテナ線などから離してください。雑音が発生したり、映像が乱れたりすることがあります。
- ・電源プラグをコンセントから抜くときは、電源コードではなく、必ず電源プラグを持って抜いてください。
- ・濡れた手で電源プラグに触らないでください。

アウトレット AC OUTLETSについて

本機背面には、外部機器接続用のコンセント(AC OUTLETS^{アウトレット})が2口装備されています。コンセントの差込口の一方が長くなっていますが、本機の電源プラグを正しく差し込んだとき、長い方がアースになります。極性表示のある機器を接続するときは、長い差込み口の方に刻印または白マークの付いた側を合わせて差し込みます。



本機の **⏻/I** STANDBY/ON(電源)ボタンと連動して接続した機器の電源が「入/切」します。

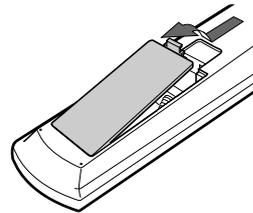
ご注意

- ・AC OUTLETSから供給できる電源には限界(容量)があります。容量は2つの差込み口を両方合わせて100Wまでです。接続する各機器の消費電力を確認のうえ、消費電力の合計がこの範囲を超えないようご注意ください。また、このAC OUTLETSはオーディオ機器専用ですのでそれ以外には使用しないでください。

リモコンに乾電池を入れる

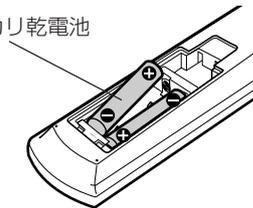
付属の単3形アルカリ乾電池をリモコンに入れます。

1 裏ぶたをはずす

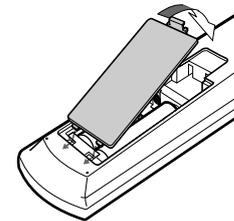


2 乾電池を入れる

単3形アルカリ乾電池



3 裏ぶたをしめる



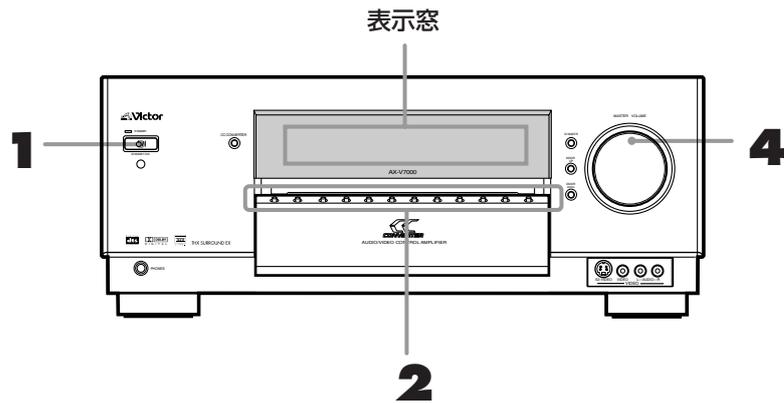
リモコンを使って操作するときは、リモコンを本体のリモコン受光部に向けてください。

操作範囲が狭くなってきたり、本体に近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池を交換してください。交換の際は、2本とも同じ種類の新しい乾電池(アルカリ乾電池など)と交換してください。

ご注意

- ・長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。
- ・乾電池のプラス(+)とマイナス(-)の向きは、表示通り正しく入れてください。
- ・このリモコンには学習(LEARN)機能があり、学習した内容を保持するため、ふつうのリモコンより電池容量が必要です。電池を交換するときは、必ずアルカリ乾電池をお使いください。

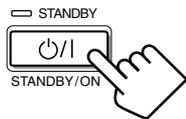
ふだんの操作



本体

1 ^{スタンバイ} 電源ボタンを押す

スタンバイ
STANDBYランプが消え、現在選ばれているソース機器名とサラウンド効果などが表示窓に表示されます。

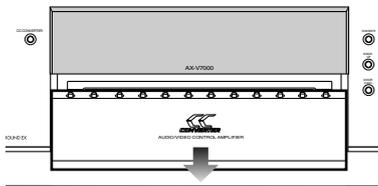


現在選ばれているソース機器名(例: DVDのとき)



最後に使ったサラウンド効果やDSP 音量レベルなどを表示

また、本体前面の操作パネルが1段下がって、ソース機器選択ボタンが現れます。



2 ソース機器選択ボタンを押して聞きたいソース(音源)を選ぶ



表示窓の表示が選んだソースに変わります。

お好みで効果を選ぶ

フロントパネルから操作

・ CD、DVDなどの再生時により自然な再生音を楽しみたいときは、^{シミュレーション}CC CONVERTERを使います。(→ 26 ページ参照)

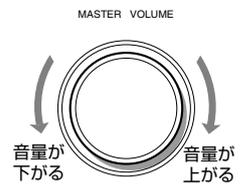
操作パネルをさらに下げて、設定ボタンで操作

・ CDなどを忠実に再生したいときは、^{ライン}LINE DIRECT機能を使います。(→ 29 ページ参照)
・ ホールやダンスクラブなどの雰囲気を楽しみたいときは、^{ディフェンシブ}DSP機能を使います。(→ 55 ページ参照)

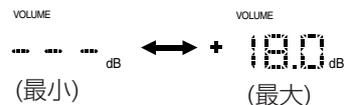
3 選んだ機器の再生を始める

4 ^{マスター} MASTER VOLUMEを回して ^{ボリューム} 音量を調節する

^{マスター} MASTER VOLUMEを回すと表示窓の音量レベルも同時に変化します。



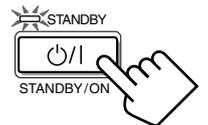
● 音量レベル表示について
本機の音量表示はデシベル表示です。^{マスター} MASTER VOLUMEを回すと次の範囲内で音量が変わります。



電源を切るには

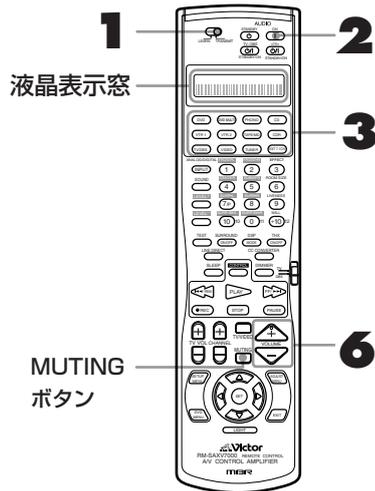
電源ボタンを押す

スタンバイ
STANDBYランプが赤く点灯し、「切(待機状態)」になります。このとき本体前面の操作パネルも収納されます。



<お知らせ>

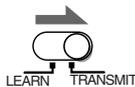
- ・ 「切(待機状態)」のときでも、わずかな電力(1.7W)が消費されています。長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・ 本機のTV SOUND/DBS音声入力端子と、テレビの音声出力端子を接続するとテレビの電源を入れてから約5秒後に本機の電源が自動的に入り、ソースは「TV」が選ばれます。ソース機器名を「DBS」に設定したときには動きません。ソース名の変更については「外部入力機器の名称を変更する」(→ 27 ページ参照)をご覧ください。



リモコン

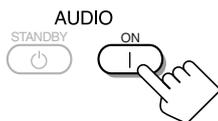
1 TRANSMIT側に切り換える

リモコンの^{学習}LEARN/^{送信}TRANSMIT切替スイッチをTRANSMIT(送信)に切り換えます。
通常はこの位置でお使いください。



2 AUDIO I (ON) ボタンを押す

STANDBYランプ(本体前面)が消え、現在選ばれているソース機器名とサラウンド効果などが本体の表示窓に表示されます。



3 ソース機器選択ボタンを押して聞きたいソース(音源)を選ぶ



本体の表示窓の表示が選んだソースに変わります。
また、リモコンの表示窓に選んだ機器名が表示され、表示された機器の操作ができるようになります。

リモコンの表示窓(例: DVDを選んだとき)



4 お好みで効果を選ぶ

- CD、DVDなどの再生時により自然な再生音を楽しみたいときは、^{CC}CC CONVERTER機能を使います。(→ [26](#) ページ参照)
- CDなどを忠実に再生したいときは、^{ライン}ライン ^{ダイレクト}ダイレクト機能を使います。(→ [29](#) ページ参照)
- ホールやダンスクラブなどの雰囲気を楽しみたいときは、^{デジタル}デジタル DSP機能を使います。(→ [55](#) ページ参照)

5 選んだ機器の再生を始める

6 VOLUME+ ボタンまたは VOLUME- ボタンを押して音量を調節する

VOLUME+/- ボタンを押すと本体表示窓の音量レベルも同時に変化します。



一時的に音を消す(リモコンのみ)

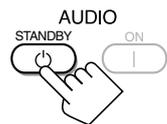
リモコンの^{ミュート}MUTINGボタンを押します。
スピーカーとヘッドホンからの音声が消えます。
もう一度押すと元の音声に戻ります。



電源を切るには

AUDIO (STANDBY) ボタンを押す

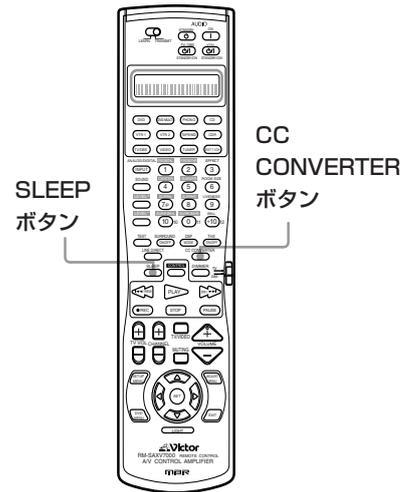
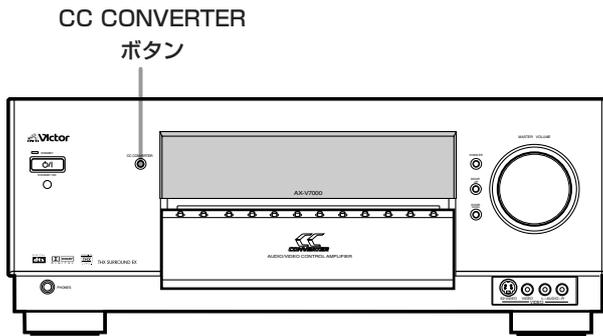
STANDBYランプ(本体前面)が赤く点灯し、「切(待機状態)」になります。このとき本体前面の操作パネルも収納されます。



<お知らせ>

- 本機のTV SOUND/DBS音声入力端子と、テレビの音声出力端子を接続するとテレビの電源を入れてから約5秒後に本機の電源が自動的に入り、ソースは「TV」が選ばれます。ソース機器名を「DBS」に設定したときには働きません。ソース名の変更については「外部入力機器の名称を変更する」(→ [27](#) ページ参照)をご覧ください。

便利な機能



音楽をより自然な再生音で聞く

本機はシーシーコンバーターを搭載しており、CDなどのデジタルソースの音声をより自然な再生音で楽しむことができます。デジタル入力時には、CC CONVERTERは光デジタル出力にも働きます。また、CC CONVERTERはアナログ入力に対しても働きます。

本体



リモコン



シーシーコンバーター
CC CONVERTERボタンを押すごとに本機のCC
CONVERTERが「入/切」し、本体のボタンのランプが
点灯、消灯します。

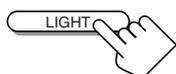
<お知らせ>

- ・ LINE DIRECT、DVD MULTI、EXT 7.1CH、THX ONのときは、CC CONVERTERは動きません。
- ・ サラウンドバックスピーカー用の信号があり、サラウンドバックスピーカーから音声がでるよう設定しているときは、CC CONVERTERは光デジタル出力に動きません。

暗いところでリモコンを使う

本機のリモコンは、手元の暗いところや暗い部屋でも操作しやすいように、ボタンに照明を内蔵しています。

リモコンのみ



LIGHTボタンを押すと、リモコンのボタンが数秒間赤く点灯します。ボタンを押して操作している間は、点灯し続けます。

スリープタイマーを使う (SLEEP機能)

音楽を聞きながら眠りたいときなどに使います。設定した時間になると、自動的に本機の電源が切れます。

リモコンのみ



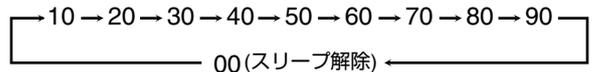
スリープ
SLEEPボタンを押すごとに電源が切れるまでの設定時間が変わります。

本体の表示窓

スリープタイマー時に点灯



スリープタイマー時間表示



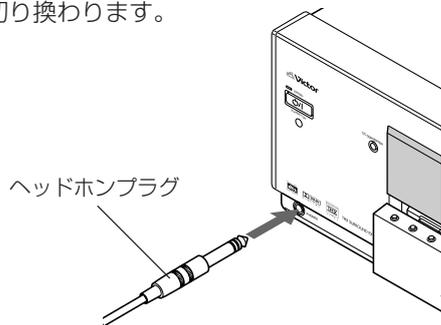
<お知らせ>

- ・ スリープタイマー動作中に、電源が切れるまでの時間を確認したいときは、SLEEPボタンを押します。本体の表示窓に残り時間が表示されます。
- ・ 途中でスリープタイマーを解除したいときは、SLEEPボタンをくり返し押して「00」を表示させます。また、電源ボタン[本体の / STANDBY/ON (電源) ボタンまたはリモコンのAUDIO (STANDBY) ボタン]を押しても電源が切れ、スリープタイマーも解除されません。
- ・ スリープタイマーで電源が切れると、本機背面のAC OUTLETSからの通電も切れ、AC OUTLETSに電源プラグを差し込んでいる機器の電源も切れます。

ヘッドホンで楽しむ

本機は、PHONE端子にヘッドホンを差し込むと自動的にヘッドホンモードになり、スピーカーからの音声は出力されなくなります。

また、スピーカース SPEAKERS 1、スピーカース SPEAKERS 2ボタンを押して、スピーカー1、2を共に「切」にしたときにもヘッドホンモードに切り換わります。



本体の表示窓の表示(ヘッドホン差し込み前)



本体の表示窓の表示(ヘッドホン差し込み時)



ご注意

- ・ヘッドホンをつけるときや、ヘッドホンのプラグを抜き差しするときは、必ずボリュームを最小にしてから行ってください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となったり、スピーカーを破損することがあります。

ヘッドホンでホールなどの残響音を楽しむ

本機は、ヘッドホンモードのときドルビーデジタル、DTS デジタルサラウンド、ホールなどのサラウンドや残響音の効果を楽しめる3D HEADPHONE機能があります。

サラウンド効果を楽しむには、ヘッドホンモードにしてからサラウンド SURROUND オン ON/オフ OFFボタンを押してください。

<お知らせ>

- ・ホールなどの残響音効果を楽しむには「DSPモードを使う」をご覧ください。(→ 54 ページ参照)
- ・ヘッドホンを使っているときは、LFE信号が左右のヘッドホンに振り分けられ再生されます。

外部入力機器の名称を変更する

ソース機器選択ボタンのTAPE/MDとTV/DBSは、それぞれどちらの機器を接続するか機器名を選ぶことができます。

・ソース名をTAPEからMDに変更する

本機背面のTAPE/MD入出力端子に接続した機器の名称を設定します。

カセットデッキを接続したときは「TAPE」に、MDレコーダーを接続したときは「MD」に設定します。

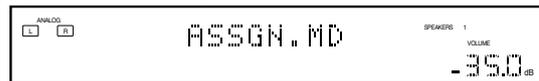
本体のみ



TAPEからMDに変更するときは、TAPE/MDボタンを押し続けると本体の表示窓の表示が「ASSGN.MD」に変わります。

また、MDからTAPEに変更するときは、TAPE/MDボタンを押し続けると本体の表示窓の表示が「ASSGN.TAPE」に変わります。

本体の表示窓の表示(例:TAPEからMDへ変更したとき)

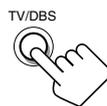


・ソース名をTVまたはDBSに設定する

本機背面のTV/DBS入出力端子に接続した機器の名称を設定します。

テレビを接続したときは「TV」に、BSデジタルチューナーやCSチューナーなどを接続したときは「DBS」に設定します。

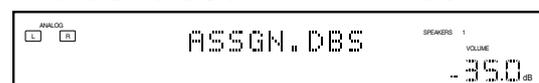
本体のみ



TVからDBSに変更するときは、TV/DBSボタンを押し続けると本体の表示窓の表示が「ASSGN.DB S」に変わります。

また、DBSからTVに変更するときは、TV/DBSボタンを押し続けると本体の表示窓の表示が「ASSGN.TV」に変わります。

本体の表示窓の表示(例:TVからDBSへ変更したとき)



<お知らせ>

- ・本体のソース名を変更しても、リモコンの表示窓の表示は変わりません。リモコンの表示窓のソース名を変更することはできません

便利な機能(つづき)

操作パネルの開閉

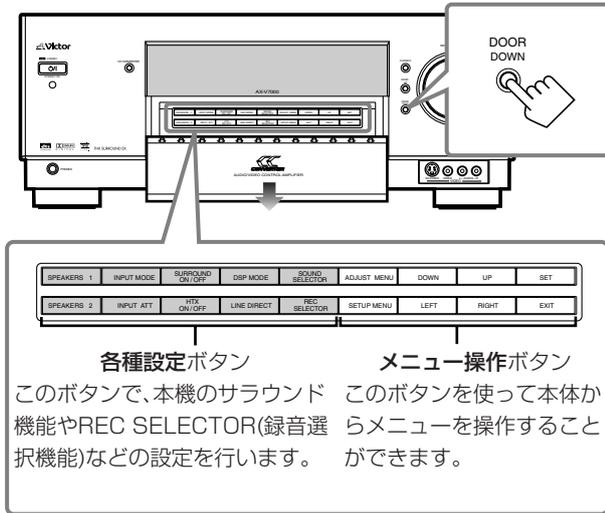
本機の操作パネルは、電源が入ると、自動的に1段下がり、ソース機器選択ボタンが現れます。

操作パネルをさらに1段下げると、本体からの設定に使用するメニュー操作ボタンと設定ボタンが現れます。

■ 操作パネルをさらに1段下げる

本体のみ

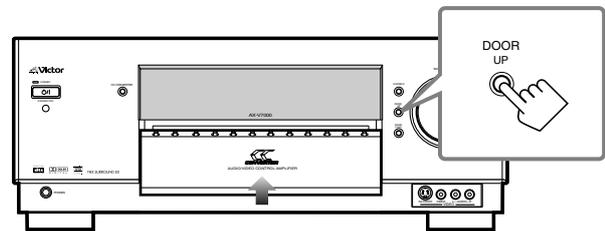
ドア ^{ダウン} DOOR DOWNボタンを押すと操作パネルがさらに1段下がります。



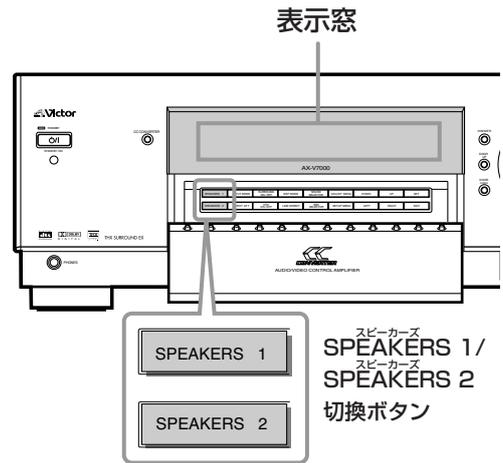
■ 操作パネルを戻す

本体のみ

ドア ^{アップ} DOOR UPボタンを押すと操作パネルが1段戻ります。

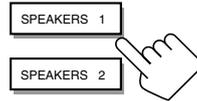


スピーカーを切り換える



本機は2系統のフロントスピーカー端子を持っています。ふだん聞くオーディオ用とDVDなどのマルチチャンネル用にスピーカーを用意したいときなどに切り換えて使うことができます。

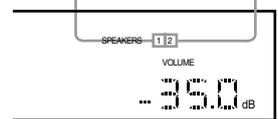
本体のみ



^{スピーカーズ} SPEAKERS 1ボタンを押すと、スピーカー1の「入/切」ができます。同様に^{スピーカーズ} SPEAKERS 2ボタンを押すと、スピーカー2の「入/切」ができます。どちらもスピーカーが「入」のとき本体の表示窓に表示が点灯します。

スピーカー1が「入」のとき点灯 スピーカー2が「入」のとき点灯

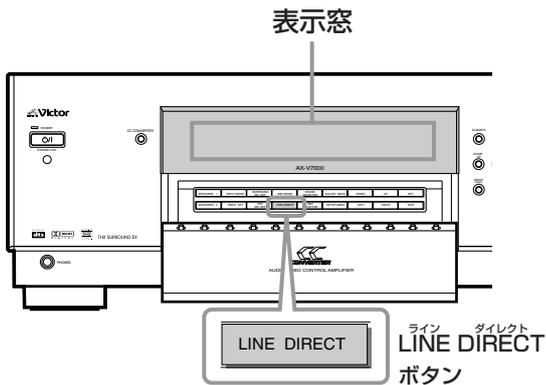
本体の表示窓



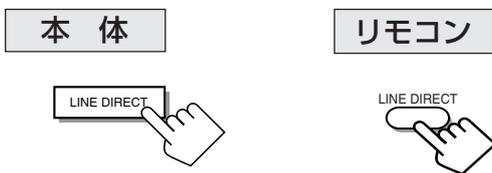
<お知らせ>

- ・ スピーカー1と2を「入/切」するとき、「入」のスピーカーがないときはヘッドホンモードになり、スピーカーからの音声は出力されなくなります。
- ・ スピーカー1と2を同時に使用するとき、1本ずつ使用するときと接続できるスピーカーの公称インピーダンスが変わりますのでご注意ください。(→ 11 ページ参照)
- ・ スピーカー2は、リアスピーカーとして設定することもできます。リアスピーカーとして使用する際の、リスニングポジションからの距離、スピーカーサイズなどの設定はサラウンドスピーカーの設定が使われます。(→ 43 ページ参照)

ラインダイレクトを使う (LINE DIRECT機能)



ソースに忠実な再生ができます。
ラインダイレクト
LINE DIRECTボタンを押すと、DSPボタンで選んで
いた残響処理などが解除されます。



ラインダイレクト
LINE DIRECTボタンを押すごとにラインダイレクト機能
が「入/切」します。
ラインダイレクト機能が「入」のとき本体の表示窓に
LINE DIRECTと表示されます。

本体の表示窓の表示(LINE DIRECT機能「切」)



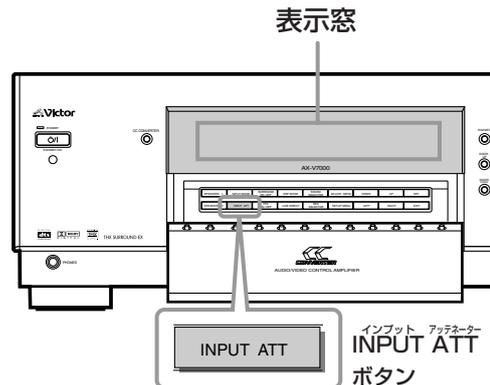
本体の表示窓の表示(LINE DIRECT機能「入」)



<お知らせ>

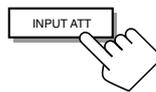
- ラインダイレクト
LINE DIRECT機能が「入」のとき、デジタル入力/アナログ
入力にかかわらず、CC CONVERTER機能は解除され
ます。
- ラインダイレクト
LINE DIRECT機能が「入」になっても、アナログ入力の
INPUT ATT機能は解除されません。
- ラインダイレクト
LINE DIRECT機能が「入」になっても、デジタル入力時に
サラウンド機能が働いているときは、サラウンド機能は解
除されません。

入力信号を調節する (INPUT ATT機能)



アナログ入力時にソースの信号が大きく、音がひずんで
しまうときに使います。

本体のみ



インプットアッテネーター
INPUT ATTボタンを押す
インプットアッテネーター
ごとに、INPUT ATT機能が
「入/切」します。
インプットアッテネーター
INPUT ATT機能が「入」の
とき本体の表示窓に点灯し
ます。

本体の表示窓の表示(INPUT ATT機能「切」)



インプットアッテネーター
INPUT ATTが「入」
のとき点灯

本体の表示窓の表示(INPUT ATT機能「入」)

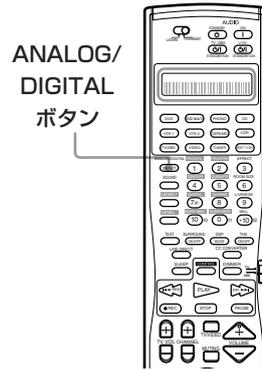
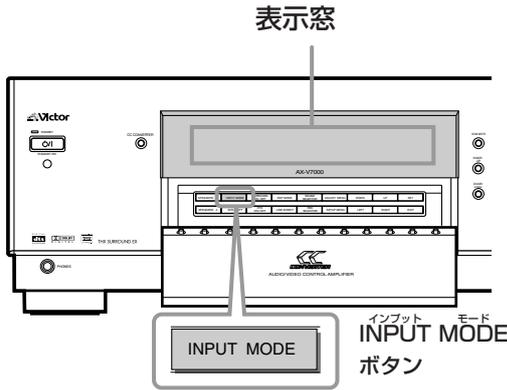


<お知らせ>

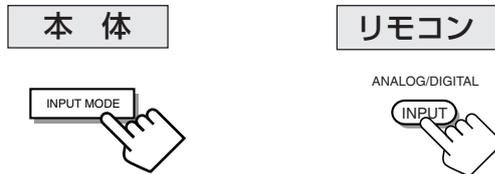
- ラインダイレクト
LINE DIRECT機能が「入」になっても、アナログ入力の
INPUT ATT機能は解除されません。

便利な機能(つづき)

入力を切り換える (INPUT MODE)

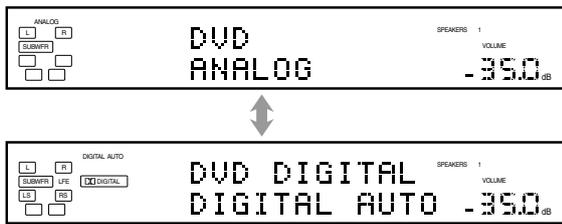


CDやDVDプレーヤーなどデジタル接続とアナログ接続の両方が可能な機器を使うときは、アナログ入力とデジタル入力のどちらで聞くかを選ぶことができます。いちど選んだアナログ入力/デジタル入力についてはソースごとに記憶され、次に同じソースを聞くときにも同じ入力を選ばれます。



押すごとに入力が切り換わって、本体表示窓に「ANALOG」または「DIGITAL AUTO」が点灯します。

本体の表示窓の表示

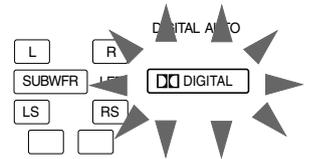


- **ANALOG**
CDやMDなどのアナログ出力音声を聞くときに選びます。
- **DIGITAL AUTO**
CDやMDなどのデジタル出力音声を聞くときに選びます。また、入力された信号フォーマットを自動判別して切り換わります。
本機で判別できる信号フォーマットは次の4つです。

- LINEAR PCM** : 入力された信号がCDなどの通常のオーディオ2チャンネルのとき点灯します。
- DIGITAL** : 入力された信号がドルビーデジタルのマルチチャンネル対応信号などのとき点灯します。
- dts** : 入力された信号がDTS デジタルサラウンドやDTS-ES信号のとき点灯します。
- MPEG-2 AAC** : 入力された信号がMPEG-2 AAC信号のとき点灯します。

- 「DIGITAL AUTO」で信号が正しく判別できないとき
信号を判別するときに、適正な信号がなかったり、正しく判別できないと音声フォーマットの信号枠が点滅します。

例: ドルビーデジタルを選んで適正な信号が検出できないときの表示



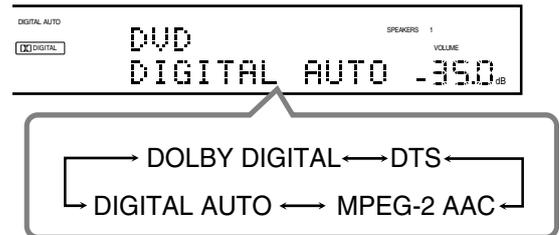
このようなとき、手で信号フォーマットを選ぶことができます。

本体のみ



「DIGITAL AUTO」を表示させてから、「LEFT」または「RIGHT」ボタンを使って選びたい信号フォーマットを選択します。ボタンを押すごとに信号フォーマットが切り換わります。

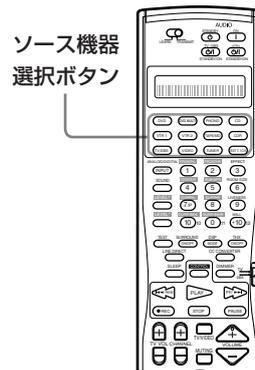
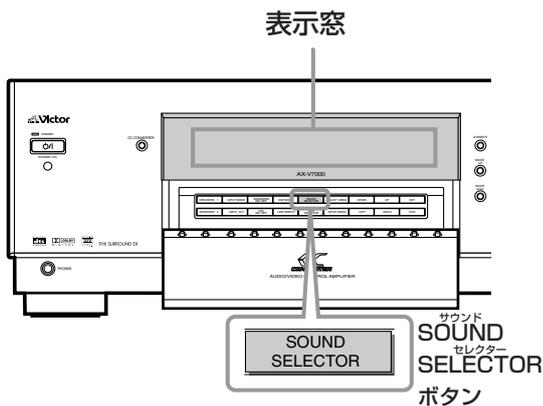
本体の表示窓の表示



<お知らせ>

- 電源を切ったり、ソース機器選択ボタンで別の入力機器を選んだときは「DIGITAL AUTO」に戻ります。

映像を見ながらCDなどの音声を聞く (SOUND SELECTOR機能)



お好みの映像機器からの映像を見ながら、音楽を聞くことができます。

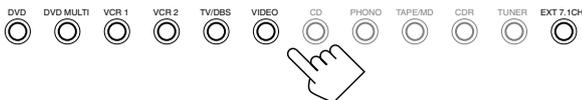
■ 本体で操作する

ソース機器選択ボタンで、ご覧になりたいDVDなどの映像機器を選び、音声のみをCDやTAPEなどから選ぶことができます。

ただし、ソース機器名でTVを設定しているときは、SOUND SELECTOR機能は使えません。

1 ソース機器選択ボタンを押してお好みの映像機器を選ぶ

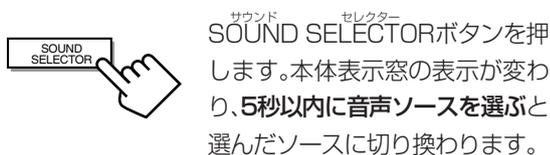
本体のみ



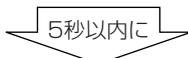
本体の表示窓の表示(例: DVDを選んだとき)



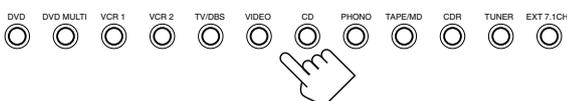
2 SOUND SELECTORボタンを押す



現在の音声ソースが表示されます



3 ソース機器選択ボタンを押して聞きたい音声ソースを選ぶ



本体の表示窓の表示(例: TAPEを選んだとき)



新しく選んだ音声ソースが表示されます

■ リモコンで操作する

お好みの映像をご覧になっているときに、直接ソース機器選択ボタンで音声のみをCDやTAPEなどから選ぶことができます。

ソース機器選択ボタンを押して聞きたい音声を選ぶ



本体の表示窓の表示(例: CDを選んだとき)

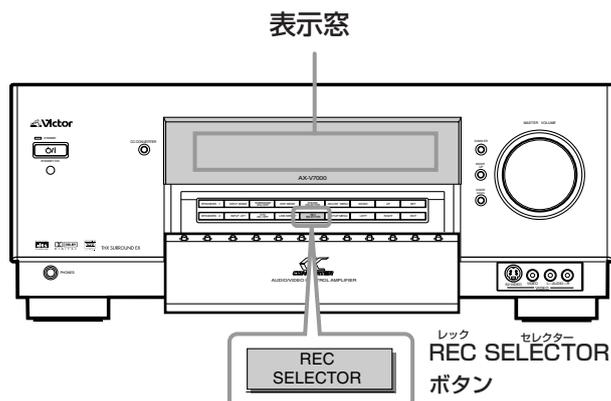


<お知らせ>

- 本体のSOUND SELECTORボタンを使って、映像ソースと音声ソースを別々に選んだあとで、映像ソースと音声ソースを一致させたいときは、映像ソースを選んでから同じ手順でご覧になっている映像機器の音声を選んでください。
- リモコンで選べるのは音声ソースだけで、映像ソースを選ぶと、今までご覧になっていた映像から新しく選んだ映像ソースへ切り換わります。

便利な機能(つづき)

録音する音声を選ぶ(レックセクター機能)



レックセクター REC SELECTOR機能は、現在スピーカーで聞いている音声とは別に、再生機器の音声を選んでアナログ録音する機能です。

例えば、DVDプレーヤーで再生しながら、CDの曲をテープにアナログ録音することができます。

本体のみ

1 レックセクター REC SELECTORボタンを押す

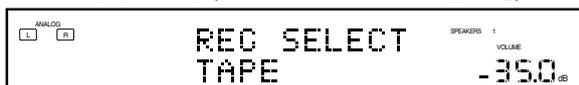


レックセクター REC SELECTORボタンを押します。押すごとにレックセクター REC SELECTOR機能が「入/切」し、本体表示窓の表示が切り変わります。

本体の表示窓の表示(レックセクター機能「切」)

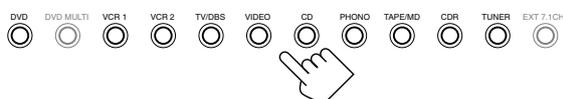


本体の表示窓の表示(レックセクター機能「入」)



2 録音したい再生機器をソース機器選択ボタンで選ぶ

選んだ再生機器の音声は録音用端子すべてに出力されます。



<お知らせ>

- デジタル入力されているソースの音声を録音するには、同じソースのアナログ端子からの音声を使います。
- 録音する音声にDSPモードやDAPモードなどの効果をつけることはできません。
- DVD MULTI、EXT 7.1 CHには、レックセクター REC SELECTOR機能は働きません。

設定を記憶させる

本機は、次のような操作をしたとき、自動的にソースごとの設定を記憶します。

- 本機の電源を切ったとき
- 本機のソースを切り換えたとき
- アナログ入力/デジタル入力を切り換えたとき

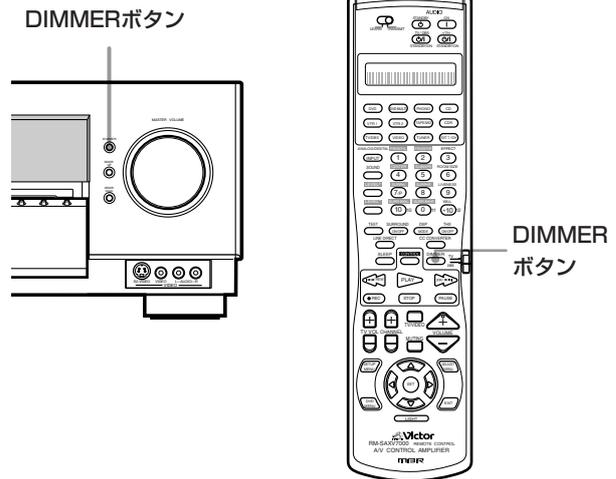
また、ソースごとの設定は、最後に操作した状態を常に記憶し、再び同じソースを選んだときにその設定が呼び出されます。

ソースごとに次の内容が記憶されます。

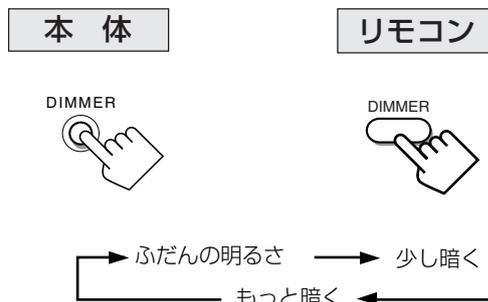
- アナログ/デジタル入力の設定
- 入力調節(INPUT ATT)の設定
- LINE DIRECTの設定
- MIDNIGHT MODEの設定
- 各スピーカーのパラメトリックイコライザーの設定
- THXの設定
- サラウンドモードの設定
- DSP設定の設定
- DSPパラメーターの設定
- スピーカーの使用状態

さらに、ワンタッチオペレーションの設定をすると、ソースごとに音量も記憶することができます。詳しくは「ワンタッチオペレーションの設定をする」をご覧ください。(→ 43 ページ参照)

表示窓の明るさを変える(DIMMER機能)



^{ディマー}
DIMMERボタンを押すごとに本体の表示窓の明るさが次のように変わります。



映画ソフトなどをご覧になるときなど、表示窓の明るさを変えたいときに使います。

設定・調節

メニューについて

スピーカーの接続と設置、外部機器の接続が終わったら、スピーカーの設定と調節を行ってください。とくにマルチチャンネルスピーカーで映画ソフトを楽しむには、スピーカーの設定と調節が大切です。これらの設定に2つのメニューが用意されています。

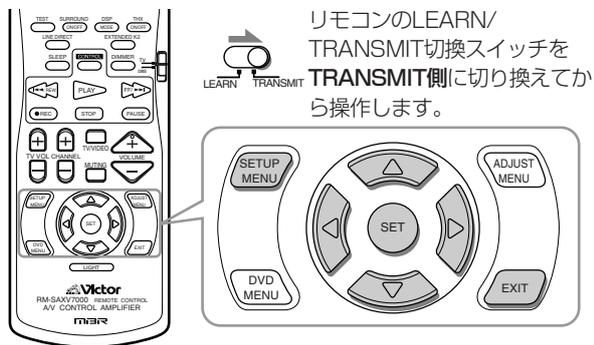
- ・SETUP MENU** セットアップメニュー : 本機の一般的な設定をするためのメニューです。スピーカー設定、外部機器の設定、ダイナミックレンジの設定などを行います。
- ・ADJUST MENU** アジャストメニュー : 本機に接続されているスピーカーの設定をするためのメニューです。セットアップメニューの設定が終わってから行います。スピーカー設定のテストトーン、各スピーカーのレベル調節など、主にスピーカー特性の設定・調節などを行います。

セットアップメニューの操作

メニューを使っでの設定・調節は次の2つの方法があります。

- テレビを接続し、メニューを画面に表示させた状態でリモコンを使って各種の設定や調節をする。実際のリスニングポジションからの調節ができます。
- 本体ボタンを使って、本体の表示窓に項目を呼び出して各種の設定や調節をする。

リモコンのメニュー操作ボタン



1分間ボタンを押さないと、メニュー画面は消えます。

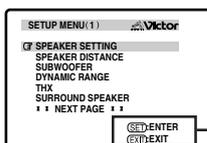
使うボタン	メニュー画面での働き
セットアップメニュー SETUP MENU	押すとメニュー画面が表示され、もう1度押すとメニュー画面が消えます。
▽ / △	サブメニューの項目を選びます。
セット SET	選んだサブメニュー画面に移動します。
◀ / ▶	サブメニュー画面上で設定をします。
エグジット EXIT	直前のメニュー画面に戻ります。

1 セットアップメニュー SETUP MENUを押して メニューを表示させる



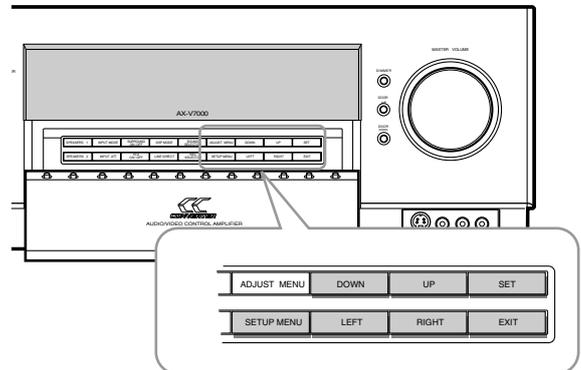
テレビ画面にセットアップメニューが表示されます。

セットアップメニュー SETUP MENU画面



操作ガイド

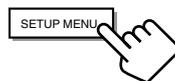
本体のメニュー操作ボタン



5秒間ボタンを押さないと、設定表示は消えます。

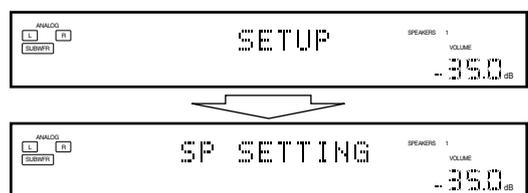
使うボタン	表示窓での働き
セットアップメニュー SETUP MENU	押すと設定項目が表示され、もう1度押すと設定項目が消えます。
ダウン/アップ DOWN/UP	設定項目を選びます。
セット SET	選んだ設定項目に移動します。
左/右 LEFT/RIGHT	設定項目上で設定をします。
エグジット EXIT	直前のメニュー表示に戻ります。

1 セットアップメニュー SETUP MENUを押して メニューを表示させる



本体の表示窓にセットアップメニューが表示されます。

セットアップ
SETUP 表示(2秒後に項目へ切り換わります)



リモコンのメニュー操作ボタン

2 サブメニューを選ぶ

例えば「^{スピーカー}SPEAKER ^{ディスタンス}DISTANCE」の設定をするとき



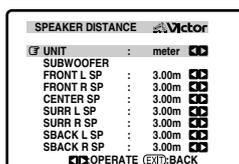
「^{スピーカー}SPEAKER ^{ディスタンス}DISTANCE」に移動します。



3 SETを押してサブメニューに入る



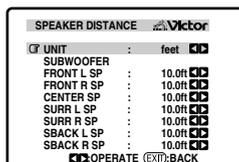
「^{スピーカー}SPEAKER ^{ディスタンス}DISTANCE」のサブメニューが表示されます。



4 項目を設定する

例えば項目「^{ユニット}UNIT」を「^{フィート}feet」に設定するとき

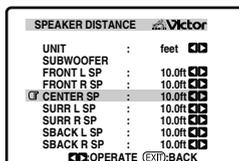
- ① ▽ボタン(または△ボタン)をくり返し押して項目を移動する
- ② ▷ボタン(または◀ボタン)を押して項目を調節・設定する



5 他の設定をする

例えば、続けて「CENTER SP」を設定するとき

- ① ▽ボタン(または△ボタン)をくり返し押して項目を移動する
- ② ▷ボタン(または◀ボタン)を押して項目を調節・設定する



本体のメニュー操作ボタン

2 サブメニューを選ぶ

例えば「^{スピーカー}SPEAKER ^{ディスタンス}DISTANCE」の設定をするとき



「^{スピーカー}SP ^{ディスタンス}DISTANCE」が表示されるまでくり返し押します。

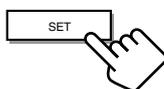


DOWNボタンを押したときの表示の変わりかた(UPボタンを押すと逆に変わります)

SP SETTING ⇄ SP DISTANCE ⇄
SUBWOOFER ⇄ D RANGE ⇄ THX ⇄
SORR SP ⇄ DIGITAL I/O ⇄
COMPONENT ⇄ VIDEO POWER ⇄
SPEAKER2 ⇄ ONE TOUCH



3 SETを押してサブメニューに入る



サブメニュー内の項目が表示されます。



4 項目を設定する

例えば項目「^{ユニット}UNIT」を「^{フィート}feet」に設定するとき

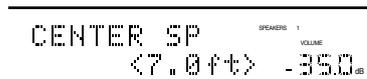
- ① DOWNボタン(またはUPボタン)をくり返し押して項目を移動する
- ② RIGHTボタン(またはLEFTボタン)を押して項目を調節・設定する



5 他の設定をする

例えば、続けて「CENTER SP」を設定するとき

- ① DOWNボタン(またはUPボタン)をくり返し押して項目を移動する
- ② RIGHT(またはLEFT)を押して項目を調節・設定する



<お知らせ>

SETUP MENU(1)と(2)の画面を切り換えるには

- SETUP MENU(1)画面で▽またはDOWNをくり返し押すと、SETUP MENU(2)画面に切り換わります。
- SETUP MENU(2)画面で△またはUPをくり返し押すと、SETUP MENU(1)画面に切り換わります。

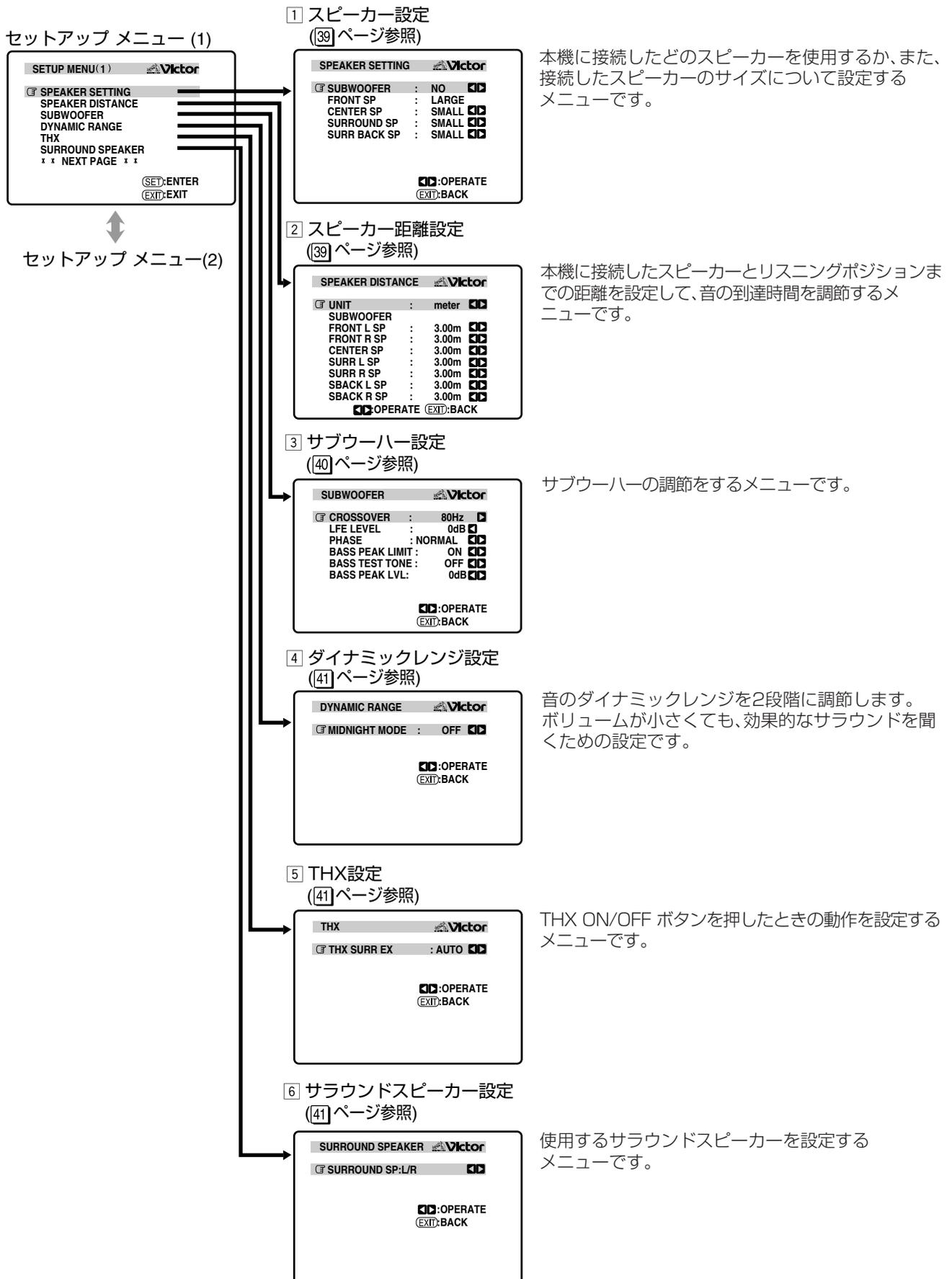
直前の画面に戻すには

EXITボタンを押します。ボタンを押すごとに前の画面に切り換わります。

メニューをテレビ画面へ表示させるとき

- 映像端子とS映像端子を使って接続したときはカラー表示、コンポーネント映像端子を使ったときは白黒表示となります。D4映像端子を使ったときは、メニューの表示はできません。
- コンポーネント映像端子を使ってDVDなどのプログレッシブ映像を再生中にメニューを表示させると、一瞬テレビ画面が乱れることがあります。

セットアップメニュー画面の構成(1画面目)

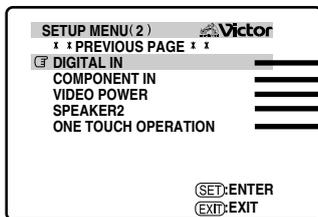


セットアップメニュー画面の構成(2画面目)

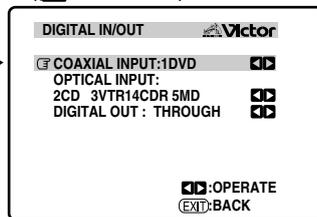
セットアップメニュー(1)



セットアップメニュー(2)

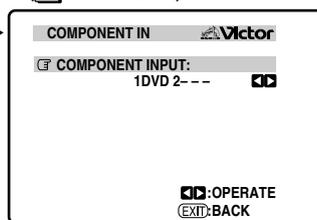


7 デジタル入力/出力設定 (42) ページ参照)



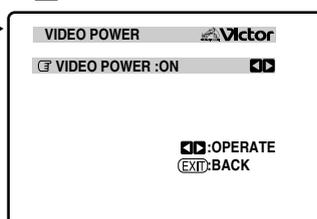
本機のデジタル入力端子に接続する機器の名称設定とデジタル出力する信号についてのメニューです。

8 コンポーネント入力設定 (43) ページ参照)



本機のコンポーネント端子についての設定をするメニューです。

9 ビデオ回路電源設定 (43) ページ参照)



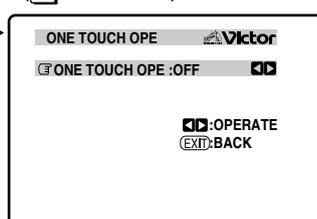
ビデオ入力回路を使うようにするか、しないかの設定です。

10 スピーカー2設定 (43) ページ参照)



フロント2のスピーカーを、フロントスピーカーとして使うか、リアスピーカーとして使うかを設定するメニューです。

11 ワンタッチオペレーション設定 (43) ページ参照)



ボリュームの設定をソースごとに記憶するか、しないか設定するメニューです。

ご注意

- ・上の画面の項目の設定内容は、工場出荷時のものです。
- ・メニューや設定項目のなかには、現在の設定内容により、設定を変更したり、表示したりできないものがあります。(詳しくは、それぞれの説明をご覧ください)

<お知らせ>

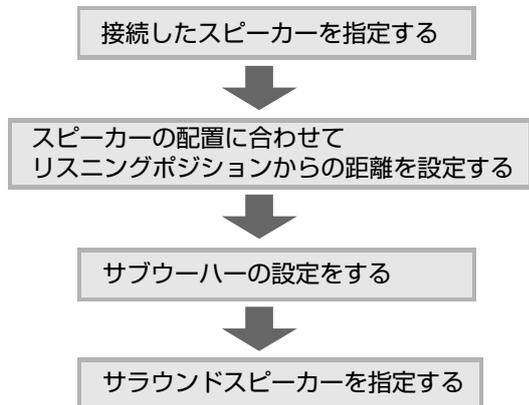
本体の表示窓の最大表示文字数に制限があるため、同じ設定項目でも本体の表示窓とテレビ画面上に現れる表示が異なる場合があります。

- 例：テレビ画面上の「SPEAKER SETTING」は、本体の表示窓では「SP SETTING」と表示されます。
 ：テレビ画面上の「SPEAKER DISTANCE」は、本体の表示窓では「SP DISTANCE」と表示されます。

設定・調節(つづき)

スピーカーの設定をする

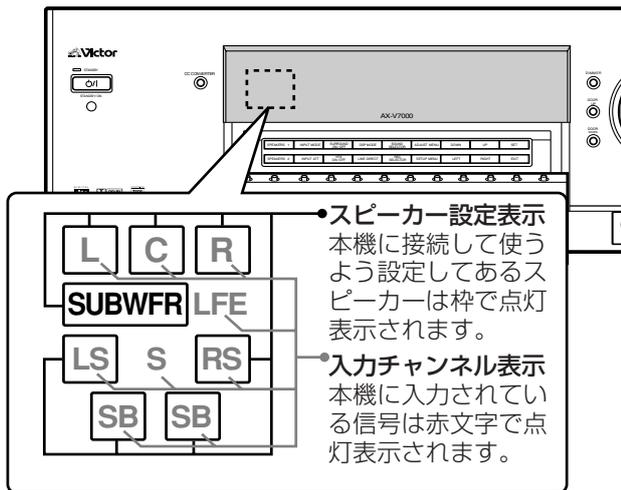
ドルビーデジタル5.1chや、DTS5.1chなどで効果的な音像定位を楽しむには、スピーカーの細かな設定が必要です。スピーカーの設定は、次の手順で各スピーカーごとに行います。



■ スピーカー設定表示と入力チャンネル表示について

本機は本体の表示窓に、スピーカー設定と入力チャンネルを表示します。この表示で使用しているスピーカーと入力されている信号が対応しているかどうかわかります。

本体の表示窓の表示



スピーカー設定表示

スピーカー枠は使用可能なスピーカーを示します。接続してあってもメニューで設定していないものは枠が点灯しません。

SUBWFR表示はスピーカーセッティングでサブウーハーの設定を「YES」にしたとき点灯します。

入力チャンネル表示

アナログ入力またはデジタル入力時に、入力されている信号を赤文字で表示します。

入力される信号により、次のように表示されます。

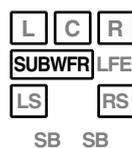
- L** : アナログ入力時には、常に点灯します。
デジタル入力時には、Lチャンネル(左フロント)の信号が入力されると点灯します。
- R** : アナログ入力時には、常に点灯します。
デジタル入力時には、Rチャンネル(右フロント)の信号が入力されると点灯します。
- S** : モノラルサラウンドチャンネルの信号が入力されると点灯します。

「C」、「LFE」、「LS」、「RS」、「SB」は、アナログ入力時、DVD MULTIなどの5.1chまたは7.1chマルチチャンネル信号が入力されると入力チャンネル表示が点灯します。

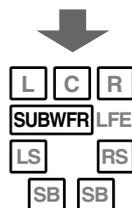
- C** : デジタル入力時には、センターチャンネルの信号が入力されると点灯します。
- LFE** : デジタル入力時には、LFE信号(サブウーハー用の信号)が入力されると点灯します。
- LS** : デジタル入力時には、サラウンドLチャンネル(左サラウンド)の信号が入力されると点灯します。
- RS** : デジタル入力時には、サラウンドRチャンネル(右サラウンド)の信号が入力されると点灯します。
- SB** : デジタル入力時には、サラウンドバックチャンネルの信号が入力されると点灯します。

スピーカー設定表示と入力チャンネルが正しく対応していないと、スピーカーから音声が届かなくなったり、サラウンドなどの効果が正しく得られません。

スピーカーの設定が終わったら、本体の表示窓のスピーカー設定表示と入力チャンネル表示で正しく設定できていることを確認します。



このような表示のときは、入力信号「SB(サラウンドバック)」に対してスピーカーが対応していないことを表しています。

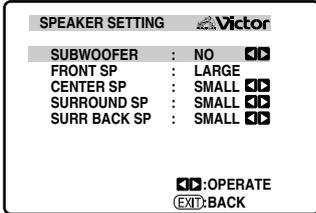


メニューのスピーカー設定でサラウンドバック用のスピーカーを設定し、出力できるようにします。

■ スピーカー設定

(メニュー: [1] **SPEAKER SETTING**)

本機に接続したスピーカーを使うか、使わないか、使うスピーカーのサイズを設定します。



■ サブウーハー (SUBWOOFER) の設定:

サブウーハーの設定をします。
サブウーハーは低音増強用スピーカーで、フロントスピーカーが低音を出せる大きさ (LARGE) のときは、サブウーハーを「NO」に設定することもできます。

YES : サブウーハーを接続したとき。

NO : サブウーハーを接続していないとき。

■ フロントスピーカー (FRONT SP)、センタースピーカー (CENTER SP)、サラウンドスピーカー (SURROUND SP)、サラウンドバックスピーカー (SURR BACK SP) の設定:

各スピーカーのサイズの設定をします。
サイズは搭載ユニットのコーンサイズで分類します。「LARGE」または「SMALL」を選びます。
ここで「NONE」以外に設定したスピーカーは、表示窓のスピーカー設定表示枠が点灯します。

LARGE : 12cm以上のユニットが搭載されているとき。

SMALL : 12cm以下のユニットのとき。

NONE : スピーカーを接続していないとき (フロントスピーカーに対しては選べません)。

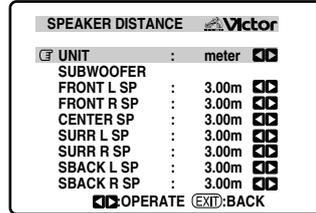
<お知らせ>

- サブウーハーを「NO」に設定すると、フロントスピーカーは「SMALL」に設定できません。
- フロントスピーカーを「SMALL」に設定すると、センタースピーカーとサラウンド、サラウンドバックスピーカーは「LARGE」に設定できません。
- サラウンドスピーカーを「SMALL」に設定すると、サラウンドバックスピーカーは「SMALL」に設定されます。
- サラウンドスピーカーを「NONE」に設定すると、サラウンドバックスピーカーは「NONE」に設定されます。
- ソースがアナログのDVD MULTIまたはEXT 7.1 CHのとき、メニュー上でのスピーカーサイズの設定は、変更できますが有効にはなりません。

■ スピーカー距離設定

(メニュー: [2] **SPEAKER DISTANCE**)

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離による音のばらつきを調節します。各スピーカーの配置がリスニングポジションから等距離にできなかったときも、この距離設定で調節できます。



■ 距離の単位の設定 (UNIT):

距離単位は「UNIT」でmeterとfeetから選ぶことができます。

meter : メートル表記にするとき。

feet : フィート表記にするとき。

■ それぞれのスピーカーの距離の設定:

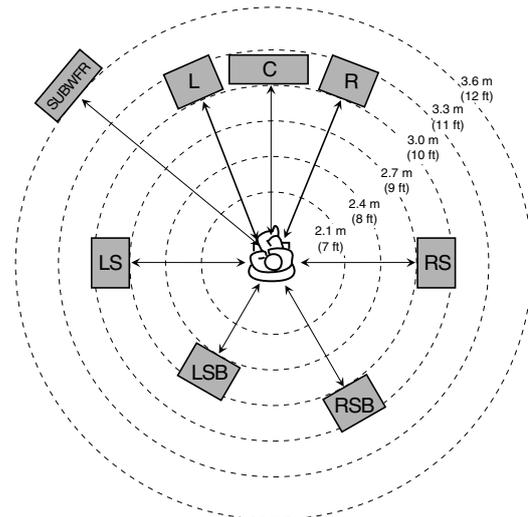
リスニングポジションからスピーカーまでの距離は、0.30m (1.0ft) から9.00m (30.0ft) の範囲内に、0.15m (0.5ft) 間隔で設定することができます。

<お知らせ>

- スピーカー設定メニューで「NO」または「NONE」にしているスピーカーについては、距離の設定ができません。
- ソースがアナログのDVD MULTIまたはEXT 7.1 CHのとき、この設定の数値を変更することはできませんが、効果はありません。アナログで再生されるときは、等距離にスピーカーを配置してください。

下図のようなスピーカー配置のときは、以下のように設定してください。

サブウーハー SUBWFR	: 3.60m (12.0ft)
左フロント (L) FRONT L SP	: 3.00m (10.0ft)
右フロント (R) FRONT R SP	: 3.00m (10.0ft)
センター (C) CENTER SP	: 3.00m (10.0ft)
左サラウンド (LS) SURR L SP	: 2.70m (9.0ft)
右サラウンド (RS) SURR R SP	: 2.70m (9.0ft)
左サラウンドバック (LSB) S BACK L SP	: 2.40m (8.0ft)
右サラウンドバック (RSB) S BACK R SP	: 2.70m (9.0ft)



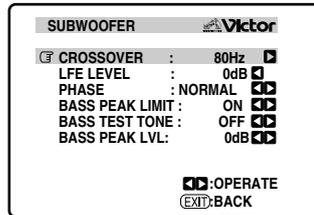
設定・調節(つづき)

スピーカーの設定をする(つづき)

■ サブウーハー設定

(メニュー: [3] サブウーハー SUBWOOFER)

サブウーハーと低音補正の設定をします。



■ クロスオーバー周波数の設定(CROSSOVER):

お使いになるフロントスピーカーのユニットサイズに合わせてクロスオーバー周波数を設定します。

- ・スピーカー設定メニューで、サブウーハーを「NO」に設定したときは、クロスオーバー周波数の設定はできません。

80Hz : フロントスピーカーのユニットサイズが12cm以上のとき。

100Hz : フロントスピーカーのユニットサイズが10cmくらいのとき。

120Hz : フロントスピーカーのユニットサイズが8cm以下のとき。

<お知らせ>

- ・接続したすべてのスピーカーをスピーカー設定メニューで「LARGE」に設定したとき、このクロスオーバー設定は「OFF」になります。
- ・ソースがDVD MULTI、EXT 7.1CHの場合、DSPモードが「ALL CH STEREO」と「3D HEADPHONE」のとき、クロスオーバー周波数の設定は無効になります。
- ・ラインダイレクトを使っているときは、働きません。

■ LFEアッテネーターの設定 (LFE LEVEL):

ドルビーデジタルやDTSサラウンドのソフトの再生中に、低音がひずむとき、LFEレベルを設定してひずみを減らすことができます。

LFEレベルは、-20dBから0dBの範囲で調節できます。お買い上げ時は「0dB」に設定されています。

- ・▷ (RIGHT)ボタン または ◁ (LEFT)ボタンを押すごとに、LFEレベルが1dBずつ増減します。
- ・スピーカー設定メニューで、サブウーハーを「NO」に設定したときは、このメニューは使えません。

<お知らせ>

- ・THX サラウンド EX ソフトやソースがDVD MULTI、EXT 7.1CHのときはLFEアッテネーターの設定は、無効になります。

■ 位相を設定する (PHASE):

サブウーハーの効果が思ったように得られないとき、位相(PHASE)を反転(REVERSE)することで効果が得られることがあります。

- ・スピーカー設定メニューで、サブウーハーを「NO」に設定したとき、このメニューは使えません。

NORMAL : 通常はこの設定にします。

REVERSE : 効果が足りないとき。

■ バスピークリミッターの設定(BASS PEAK LIMIT):

サブウーハーの音がひずまないように、バステストトーンの出力和バスピークレベルの設定を使って調節します。

この設定を「ON」にすると、バスピークレベルで設定したレベル以上の低音信号が入ったとき、信号レベルを抑えます。

また、この設定を「ON」にすると、バステストトーンを使って、バスピークレベルを設定できるようになります。この設定は、ドルビーデジタルとDTS デジタルサラウンドにのみ対応します。

ON : バスピークリミッターを使うとき。

OFF : バスピークリミッターを使わないとき。

■ バステストトーンの出力(BASS TEST TONE):

バスピークリミッターの設定が「ON」のとき、バステストトーンを使って、バスピークレベルを設定できるようになります。バステストトーンはサブウーハーとその他のスピーカーからスピーカーの接続と設定に応じて出力されます。

ON : バステストトーンを出力するとき。

OFF : バステストトーンを出力しないとき。

<お知らせ>

バスピークリミッターの設定が「OFF」のときはバステストトーンは選べません。

■ バスピークレベルの設定(BASS PEAK LVL):

バスピークリミッターの設定が「ON」のとき、バスピークレベルを設定して、バスサウンドのひずみを抑えることができます。

お買い上げ時は「0dB」に設定されています。

- ・バステストトーンが「ON」のときに、▷ (RIGHT)ボタンを押し続けて、テストトーンがひずむ直前まで出力を大きくします。そのときのテストトーンのレベルがバスピークレベルとして記憶されます。
- ・▷ (RIGHT)ボタンまたは ◁ (LEFT)ボタンを押すごとに、バスピークレベルが1dBずつ増減します。

<お知らせ>

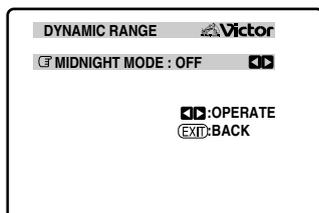
バステストトーンの設定を「ON」にしたとき、バスピークレベルはリセットされ-∞dBになります。

低い音量でもサラウンド効果を出す

■ ダイナミックレンジの設定

(メニュー: [4] ^{ダイナミック} DYNAMIC RANGE ^{レンジ})

音のダイナミックレンジを、2段階に調節できます。とくに深夜のご使用に効果的です。



■ ミッドナイトモードの設定(MIDNIGHT MODE):

ミッドナイトモードは2段階あり、音量に合わせて切り換えて使います。

ミッドナイトモードを使うと、音量が小さいときもバランス良くサラウンド効果を楽しむことができます。

- LINE DIRECTボタンを押したときは一時的に解除されます。もういちどLINE DIRECTボタンを押すと、ミッドナイトモードに戻ります。

MIDNIGHT1 : ダイナミックレンジを少し抑えるとき。本体表示部にMIDNIGHT MODEが点灯します。

MIDNIGHT2 : ダイナミックレンジを十分抑えるとき(深夜のご使用に向いています)。本体表示部にMIDNIGHT MODEが点灯します。

OFF : 十分なダイナミックレンジの音声を楽しむとき。本体表示部からMIDNIGHT MODEが消えます。

<お知らせ>

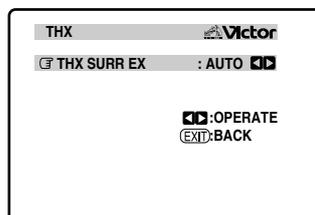
- ソースがDVIDMULTI、EXT 7.1CHのときは、ミッドナイトモードは動きません。

THX ON/OFFボタンの設定をする

■ THX設定

(メニュー: [5] ^{ディーエッチエックス} THX)

THX ON/OFFボタンの動作を設定します。スピーカー設定メニューでサラウンドバックスピーカーを「NONE」に設定しているときには選べません。



■ THXの設定(THX SURR EX):

AUTO : Dolby Digital EX (ディスクに信号タグが記録されているとき)ソフトを再生すると「THX SURR EX」が選ばれます。それ以外は、「THX CINEMA」が選ばれます。

ON : 入力信号が2chのときは「THX CINEMA」が、マルチチャンネルのときには「THX SURR EX」が選ばれます。

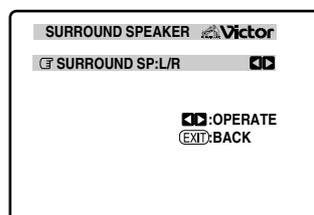
OFF : 「THX CINEMA」が選ばれます。

サラウンドスピーカーの設定をする

■ サラウンドスピーカー設定

(メニュー: [6] ^{サラウンド} SURROUND SPEAKER ^{スピーカー})

使用するサラウンドスピーカーを設定します。スピーカー設定メニューでサラウンドバックスピーカーを「NONE」に設定しているときには選べません。



■ サラウンドスピーカーの設定(SURROUND SP):

L/R : サラウンドスピーカーのみを使うとき。

BACK : サラウンドバックスピーカーのみを使うとき。

L/R+BACK : サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの両方を使うとき。

設定・調節(つづき)

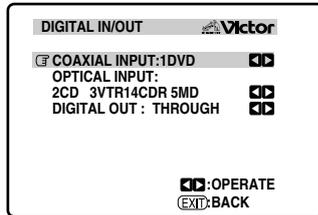
デジタル入力機器の名称を設定する

デジタル入力/出力端子の設定

(メニュー: [7] DIGITAL IN/OUT)

本機背面のデジタル入力端子に割り当てる機器名を設定します。正しく設定しないと機器からの音声が聞こえなくなります。

また、デジタル出力端子から出力する信号を設定します。



デジタル同軸入力端子(DIGITAL 1)の設定 (COAXIAL INPUT):

本機のデジタル同軸入力端子に接続する機器名を設定します。

- ▶ (RIGHT)ボタンまたは ◀ (LEFT)ボタンを押すごとに、次のように機器名が切り換わります。

1DVD ⇄ 1CD ⇄ 1TV (または 1DBS*) ⇄
1CDR ⇄ 1MD*2 ⇄ 1VTR1 ⇄ (はじめに戻る)

*1 ソースの名前を「TV」から「DBS」に変更しているときは、「DBS」が現れます。(→ [27] ページ参照)

*2 MDレコーダーをデジタル同軸入力端子に接続しているときは、ソースの名前を「TAPE」から「MD」へ変更してください。(→ [27] ページ参照)

光デジタル入力端子(DIGITAL 2から5)の設定:

本機の光デジタル入力端子に接続する機器名を設定します。

- ▶ (RIGHT)ボタンまたは ◀ (LEFT)ボタンを押すごとに、次のように機器名が切り換わります。

「COAXIAL INPUT」が「DVD」のとき

2 CD 3 VTR1 4 CDR 5 MD*3 ⇄
2 CD 3 TV (または DBS*) 4 VTR1 5 MD ⇄
2 CD 3 TV (または DBS) 4 CDR 5 VTR1 ⇄
2 CD 3 TV (または DBS) 4 CDR 5 MD ⇄
2 VTR1 3 TV (または DBS) 4 CDR 5 MD ⇄
(はじめに戻る)

「COAXIAL INPUT」が「CD」のとき

2 DVD 3 VTR1 4 CDR 5 MD ⇄
2 DVD 3 TV (または DBS) 4 VTR1 5 MD ⇄
2 DVD 3 TV (または DBS) 4 CDR 5 VTR1 ⇄
2 DVD 3 TV (または DBS) 4 CDR 5 MD ⇄
2 VTR1 3 TV (または DBS) 4 CDR 5 MD ⇄
(はじめに戻る)

「COAXIAL INPUT」が「TV」または「DBS」

2 CD 3 VTR1 4 CDR 5 MD ⇄
2 CD 3 DVD 4 VTR1 5 MD ⇄
2 CD 3 DVD 4 CDR 5 VTR1 ⇄
2 CD 3 DVD 4 CDR 5 MD ⇄
2 VTR1 3 DVD 4 CDR 5 MD ⇄
(はじめに戻る)

*3 MDレコーダーを光デジタル入力端子(DIGITAL 5)に接続しているときは、ソースの名前を「TAPE」から「MD」へ変更してください。(→ [27] ページ参照)

「COAXIAL INPUT」が「CDR」のとき

2 CD 3 VTR1 4 DVD 5 MD ⇄
2 CD 3 TV (または DBS) 4 VTR1 5 MD ⇄
2 CD 3 TV (または DBS) 4 DVD 5 VTR1 ⇄
2 CD 3 TV (または DBS) 4 DVD 5 MD ⇄
2 VTR1 3 TV (または DBS) 4 DVD 5 MD ⇄
(はじめに戻る)

「COAXIAL INPUT」が「MD」のとき

2 VTR1 3 TV (または DBS) 4 CDR 5 DVD ⇄
2 CD 3 TV (または DBS) 4 CDR 5 DVD ⇄
2 CD 3 TV (または DBS) 4 CDR 5 VTR1 ⇄
2 CD 3 TV (または DBS) 4 VTR1 5 DVD ⇄
2 CD 3 VTR1 4 CDR 5 DVD ⇄
(はじめに戻る)

「COAXIAL INPUT」が「VTR 1」のとき

2 CD 3 DVD 4 CDR 5 MD ⇄
2 DVD 3 TV (または DBS) 4 CDR 5 MD ⇄
2 CD 3 TV (または DBS) 4 CDR 5 MD ⇄
2 CD 3 TV (または DBS) 4 CDR 5 DVD ⇄
2 CD 3 TV (または DBS) 4 DVD 5 MD ⇄
(はじめに戻る)

<お知らせ>

工場出荷時のデジタル入力端子の機器名は次のよう設定されています。

- ・DIGITAL 1 (同軸入力端子) : DVD
- ・DIGITAL 2 (光入力端子) : CD
- ・DIGITAL 3 (光入力端子) : TV
- ・DIGITAL 4 (光入力端子) : CDR
- ・DIGITAL 5 (光入力端子) : MD

■ 光デジタル出力端子の設定(DIGITAL OUT):

デジタル入力端子からの信号を、PCMフォーマットで出力するか、そのまま出力するかの設定をします。アナログ端子に入力された信号には働きません。

PCM

: CDなどのPCM信号はそのまま、ドルビーデジタル信号、DTSデジタル信号、MPEG-2 AAC信号は、ミックスダウンしたPCMの2チャンネル信号として出力します。このとき、CC CONVERTERが「入」になっていると、出力される信号は20ビットとなります。ただし、「THX SURR EX」のとき、DTS-ESソフト(ディスクに信号タグが記録されているとき)を再生すると、入力された信号をそのまま出力します。

THROUGH : 入力された信号のまま出力します。

<お知らせ>

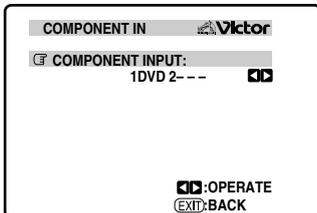
PCMにミックスダウンされた信号は、ドルビーデジタルデコーダーなどを接続しても、マルチチャンネルにはなりません。外部にデコーダーを接続して処理したいときは、「THROUGH」に設定してください。

色差信号を入力できるようにする

■ コンポーネント入力設定

(メニュー: [8] COMPONENT IN^{コンポーネント イン})

本機背面のビデオコンポーネント(色差信号)入力端子にビデオ機器を接続したときは、ビデオコンポーネント入力端子に割り当てる機器名を設定します。正しく設定しないと再生映像を見ることができなくなることがあります。



■ コンポーネントビデオ入力の設定(COMPONENT INPUT):

本機背面の「COMPONENT 1 (DVD)」と「COMPONENT 2」に接続する機器名を設定します。

- ▶ (RIGHT)ボタンまたは ◀ (LEFT)ボタンを押すごとに、次のように登録名が切り換わります。

```

1 DVD 2 --- ⇄ 1 DVD 2 DBS ⇄
1 DVD 2 VTR1 ⇄ 1 DBS 2 --- ⇄
1 DBS 2 VTR1 ⇄ 1 VTR1 2 --- ⇄
1 --- 2 --- ⇄(はじめに戻る)
    
```

<お知らせ>

- ・何も接続していないときは、「---」を選んでください。
- ・正しく設定されていないときは、AV コンピュリンクが正しく働かないことがあります。

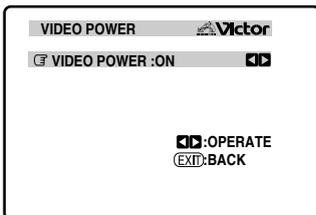
ビデオ回路を停止する

■ ビデオ回路電源設定

(メニュー: [9] VIDEO POWER^{ビデオ パワー})

本機のビデオ回路に電源を供給するかどうかの設定です。ビデオ入力回路が働いていると、ソース再生時に音質に影響をあたえることがあります。このようなときにこの設定を「OFF」にします。

また、この設定はビデオ入力回路の電源設定なので、メニューの表示には関係がありません。



■ 映像出力の設定(VIDEO POWER):

- | | |
|-----|---|
| ON | : ビデオデッキやDVDプレーヤーなどの映像ソースを楽しむとき。通常はこの設定を選びます。 |
| OFF | : 映像を出力しないとき。オーディオソースのノイズを減らしたいときを選びます。 |

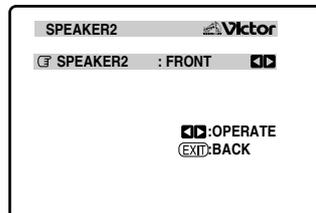
スピーカー2の設定をする

■ スピーカー2設定

(メニュー: [10] SPEAKER2^{スピーカー})

DVDオーディオなどのマルチチャンネル用に、フロントスピーカー2をリアスピーカーとして設定することができます。

リアスピーカーとして使用するときは、スピーカー設定メニューで設定したサラウンドスピーカーの情報が使われます。(→ [39] ページ参照)



■ スピーカー2設定(SPEAKER 2):

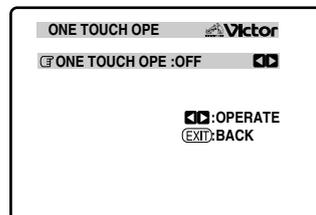
- | | |
|-------|---|
| FRONT | : 通常はこの設定で使います。2組目のフロントスピーカーとして使います。 |
| REAR | : リアスピーカーとして使います。スピーカーサイズやリスニングポジションからの距離などの設定については、スピーカー設定メニューでサラウンドスピーカー用に設定したものが使われます。 |

ワンタッチオペレーションの設定をする

■ ワンタッチオペレーションの設定

(メニュー: [10] ONE TOUCH OPE^{ワン タッチ オペレーション})

本機は、ソースごとに設定を記憶します(→ [33] ページ参照)が、さらにソースごとに音量を記憶するか、しなやかを設定することができます。



■ ソースごとの音量設定(ONE TOUCH OPE):

ソースごとに音量を記憶するように設定すると、次のような操作をしたとき記憶されるようになります。

- ・電源を切ったとき
- ・ソース機器選択ボタンを押して切り換えたとき
- ・電源を入れたとき
- ・デジタル入力/アナログ入力を切り換えたとき

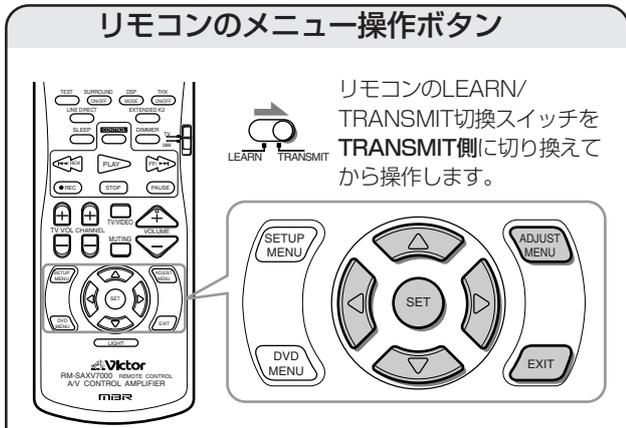
- | | |
|-----|--|
| ON | : 音量を記憶するとき。表示窓に「ONE TOUCH OPERATION」が点灯します。 |
| OFF | : 音量を記憶しないとき。 |

設定・調節(つづき)

アジャストメニューの操作

メニューを使っての設定・調節は次の2つの方法があります。

- ・ テレビを接続し、メニューを画面に表示させた状態でリモコンを使って各種の設定や調節をする。
実際のリスニングポジションからの調節ができます。
- ・ 本体ボタンを使って、本体の表示窓に項目を呼び出して各種の設定や調節をする。



1分間ボタンを押さないと、メニュー画面は消えます。

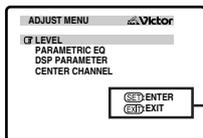
使うボタン	メニュー画面での働き
アジャストメニュー ADJUST MENU	押すとメニュー画面が表示され、もう1度押すとメニュー画面が消えます。
▽ / △	サブメニューの項目を選びます。
セット SET	押すと選んだサブメニュー画面に移動します。
< / >	サブメニュー画面上で設定をします。
エグジット EXIT	直前のメニュー画面に戻ります。

1 アジャストメニューを押してメニューを表示する



テレビ画面にアジャストメニューが表示されます。

アジャストメニュー
ADJUST MENU画面



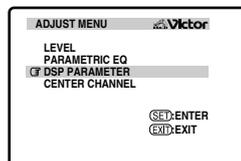
操作ガイド

2 サブメニューを選ぶ

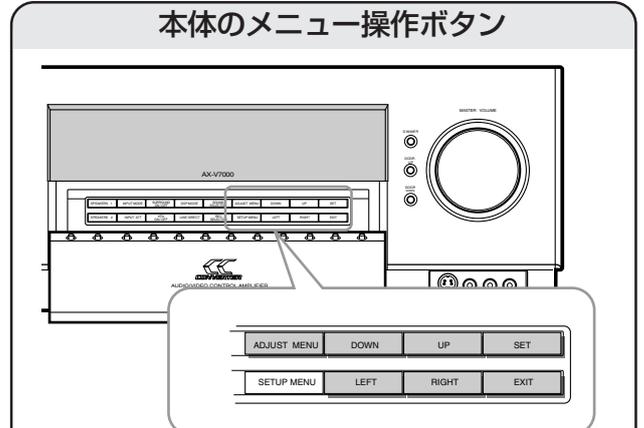
例えば「**DSP PARAMETER**」の設定をするとき



「**▽**」を「**DSP PARAMETER**」に移動します。



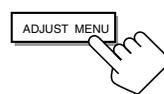
「**DSP PARAMETER**」の設定は、DSPボタンを押して、DSPが働いているときに選び、設定することができます。



5秒間ボタンを押さないと、設定表示は消えます。

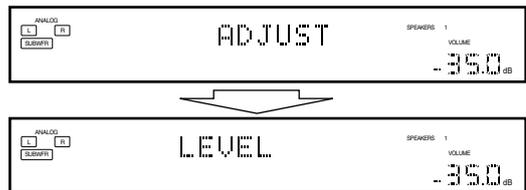
使うボタン	表示窓での働き
アジャストメニュー ADJUST MENU	押すと設定項目が表示され、もう1度押すと設定項目が消えます。
ダウン アップ DOWN/UP	設定項目を選びます。
セット SET	選んだ設定項目に移動します。
レフト ライト LEFT/RIGHT	設定項目上で設定をします。
エグジット EXIT	直前のメニュー表示に戻ります。

1 アジャストメニューを押してメニューを表示する



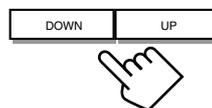
本体の表示窓にアジャストメニューが表示されます。

アジャスト
ADJUST 表示(2秒後に項目へ切り換わります)

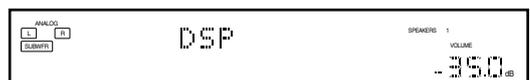


2 サブメニューを選ぶ

例えば「**DSP PARAMETER**」の設定をするとき



「**DSP**」が表示されるまでくり返し押します。



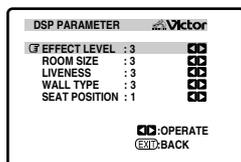
「**DSP PARAMETER**」の設定は、DSPボタンを押して、DSPが働いているときに選び、設定することができます。

リモコンのメニュー操作ボタン

セット 3 SETを押してサブメニューに入る



「DSP PARAMETER」のサブメニューが表示されます。



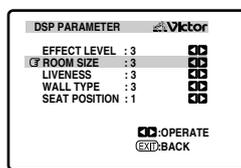
パラメトリック PARAMETRIC EQ設定をするとき

調節画面に移行して、各スピーカーについて調節が行えます。サブメニューが表示されたら、手順2と3をくり返して調節画面に進みます。

4 項目を設定する

例えば項目「ROOM SIZE」を「5」に設定するとき

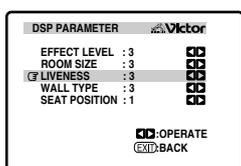
- ① ▽(または△)ボタンをくり返し押しして項目を選ぶ
- ② ▷(または◁)ボタンを押して項目を調節・設定する



5 ほかの設定をする

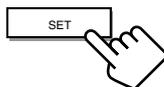
例えば、続けて「LIVENESS」を設定するとき

- ① ▽(または△)ボタンをくり返し押しして項目を選ぶ
- ② ▷(または◁)ボタンを押して項目を調節・設定する



本体のメニュー操作ボタン

セット 3 SETを押してサブメニューに入る



サブメニューの項目が表示されます。



パラメトリック イコライザー PARAMETRIC EQ設定をするとき

調節画面に移行して、各スピーカーについて調節が行えます。サブメニューが表示されたら、手順2と3をくり返して調節画面に進みます。

4 項目を設定する

例えば項目「ROOM SIZE」を「5」に設定するとき

- ① DOWN(またはUP)ボタンをくり返し押しして項目を選ぶ
- ② RIGHT(またはLEFT)ボタンを押して項目を調節・設定する



5 ほかの設定をする

例えば、続けて「LIVENESS」を設定するとき

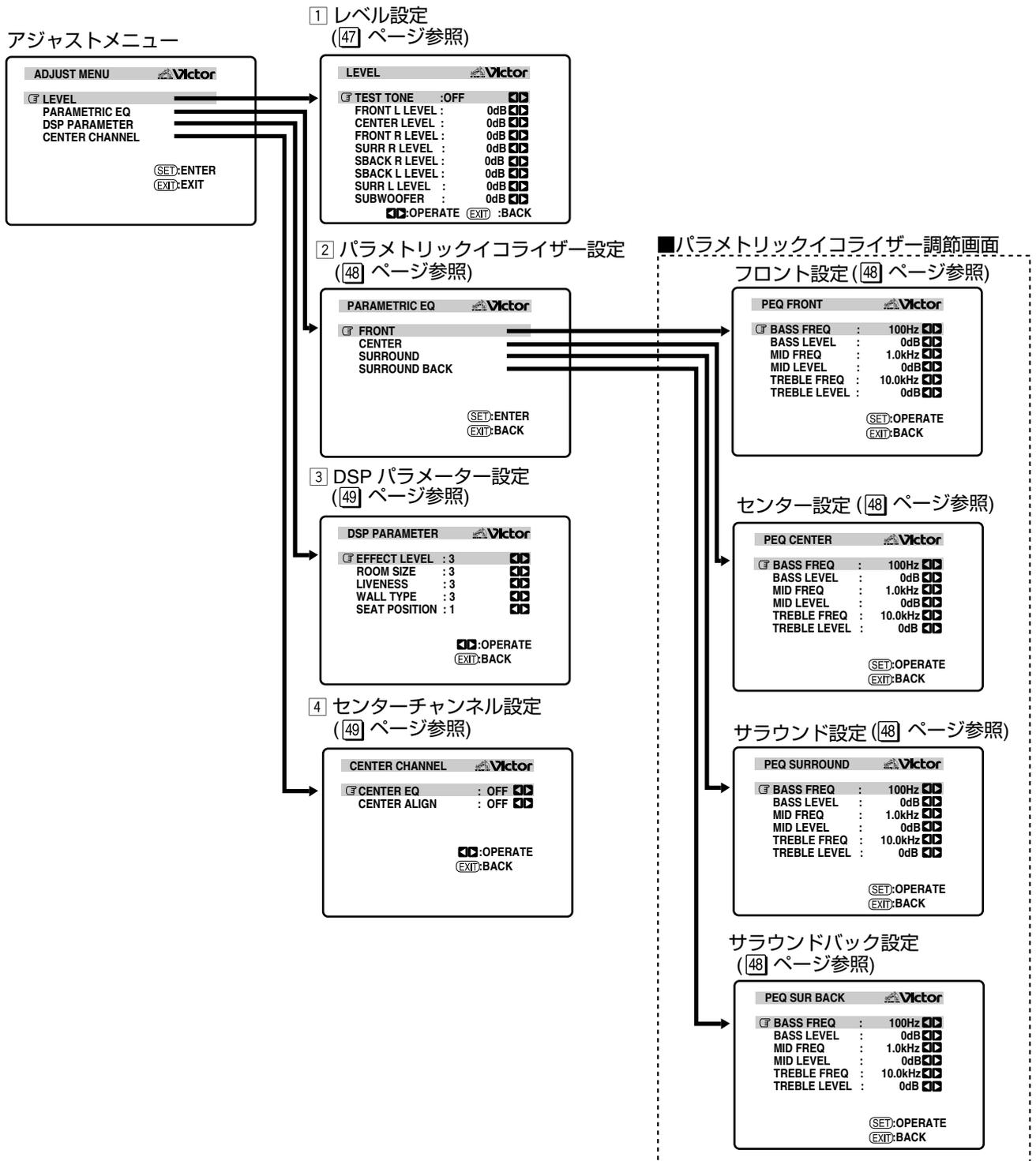
- ① DOWN(またはUP)ボタンをくり返し押しして項目を選ぶ
- ② RIGHT(またはLEFT)ボタンを押して項目を調節・設定する



直前の画面に戻すには

EXITボタンを押します。ボタンを押すごとに前の画面に切り換わります。

アジャストメニュー画面の構成



ご注意

- ・ラインダイレクト機能をお使いのときは、アジャストメニューは使えません。
- ・上の画面の項目の設定内容は、工場出荷時のものです。
- ・メニューや設定項目のなかには、現在の設定内容により、設定を変更したり、表示したりできないものがあります。詳しくは、それぞれの説明をご覧ください。

<お知らせ>

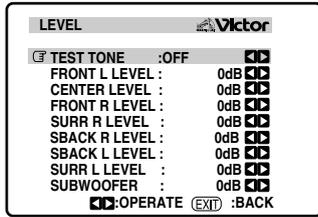
本体の表示窓の最大表示文字数に制限があるため、同じ設定項目でも本体の表示窓とテレビ画面上に現れる表示が異なる場合があります。

- 例：テレビ画面上の「FRONT L LEVEL」は、本体の表示窓では「FRONT L LVL」と表示されます。
- ：テレビ画面上の「CENTER LEVEL」は、本体の表示窓では「CENTER LVL」と表示されます。

■ レベル設定

(メニュー: [1] ^{レベル} LEVEL)

セットアップメニューで設定した各スピーカーのレベルを調節します。



各スピーカーのレベルを調節する前に:

スピーカーのレベルを調節をする前に、セットアップメニューで各スピーカーの設定を終わらせてください。それぞれのスピーカーからテストトーンを出して、リスニングポジションで、その音量がどのスピーカーからも同じ程度の音量で聞こえるように調節します。

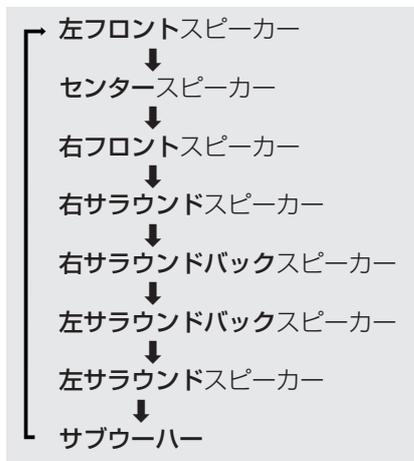
で注意

- テストトーンは、ボリュームの位置に関わらず0dBで出力されます。このため大きな音になります。深夜などに、この調節をしないようご注意ください。

■ テストトーンの設定 (TEST TONE):

テストトーンを出すかどうかの設定をします。「AUTO」、「MANUAL」を選んでから3秒後にテストトーンが出力されます。

AUTO : スピーカー設定メニューで設定されているすべてのスピーカーから順番に2秒間ずつテストトーンが出力されます。テストトーンが出力される順序は次のようになります。



MANUAL : テストトーンを出しながら調節したいスピーカーをマ/△ボタン使って選ぶとき。

OFF : テストトーンを出力しません。

<お知らせ>

- サラウンドモードが「OFF」のとき、テストトーンはメニューに表示されません。
- スピーカー設定メニューで、「NO」または「NONE」に設定したスピーカーからはテストトーンが出力されません。

■ 各スピーカーの調節できる範囲:

メニューには、テストトーンを出して調節できるスピーカーの一覧が表示されます。

FRONT L LEVEL : 左フロントスピーカーのレベル調節をします。
調節範囲: -20dBから+10dBまたはOFF(---dB)

CENTER LEVEL : センタースピーカーのレベル調節をします。
調節範囲: -10dBから+10dB

FRONT R LEVEL : 右フロントスピーカーのレベル調節をします。
調節範囲: -20dBから+10dBまたはOFF(---dB)

SURR R LEVEL : 右サラウンドスピーカーのレベル調節をします。
調節範囲: -10dBから+10dB

SBACK R LEVEL : 右サラウンドバックスピーカーのレベル調節をします。
調節範囲: -10dBから+10dB

SBACK L LEVEL : 左サラウンドバックスピーカーのレベル調節をします。
調節範囲: -10dBから+10dB

SURR L LEVEL : 左サラウンドスピーカーのレベル調節をします。
調節範囲: -10dBから+10dB

SUBWOOFER : サブウーハーのレベル調節をします。
調節範囲: -10dBから+10dB

<お知らせ>

- DVD MULTIおよびEXT 7.1CHの入力では、スピーカー設定メニューで「NO」または「NONE」に設定したスピーカーのダウンミックス量の調節ができます。CENTER、SUBWOOFERは、FRONT LとFRONT Rに均等に、SURR RはFRONT Rに、SURR LはFRONT Lにそれぞれ設定したレベルでミキシングされます。ただしSBACKの音声及びLINE DIRECT時はダウンミックスできません。DVD MULTIおよびEXT 7.1CH以外の入力では、スピーカー設定メニューで「NO」または「NONE」に設定したスピーカーのレベルの調節はできません。

設定・調節(つづき)

■ レベル調節のしかた:

レベル調節は、「AUTO」、「MANUAL」のどちらかを選んで行います。

レベル調節の手順:

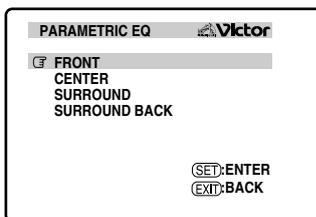
- 1 ▽または△ボタン(DOWNまたはUPボタン)を押して「TEST TONE」を選ぶ
- 2 ▷または◁ボタン(RIGHTまたはLEFTボタン)を押して「AUTO」または「MANUAL」を選んで、テストトーンを出力する
- 3 ▽または△ボタン(DOWNまたはUPボタン)を押して調節したいスピーカーを選ぶ
- 4 ▷または◁ボタン(RIGHTまたはLEFTボタン)を押してスピーカー出力を調節する
- 5 各スピーカーのバランスを確認する
- 6 必要なら手順3と4をくり返して、他のスピーカーの調節をする
- 7 調節が終了後、テストトーンを消す

<お知らせ>

- ・ リモコンのTESTボタンを押しても、このメニューが表示されません。
- ・ テストトーンを「OFF」にしても、それぞれの設定値は調節ができませんが、スピーカー全体の音量バランスを調節するのを目的としているため、お勧めできません。

■ パラメトリックイコライザー設定 (メニュー: [2] PARAMETRIC EQ)

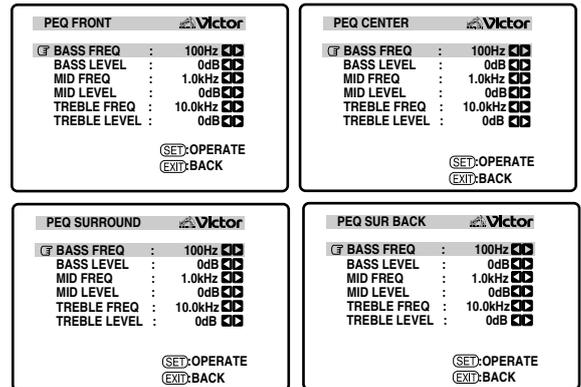
お使いになるスピーカーにあわせて調節をすることで音質を補正することができます。
また、この調節は各スピーカーごとに設定できます。



各サブメニューを使って調節する前に:

この画面では、各スピーカーごとにパラメトリックイコライザーの設定を行います。
調節は、低音域、中音域、高音域ごとの周波数とレベルを設定します。
これらの設定を変更するときは、選ぶ音域とレベルによっては全体のバランスがくずれることがあるのでご注意ください。

各スピーカーごとのサブメニュー



■ 各スピーカーで調節できる範囲:

BASS FREQ : 次の中から低音域の周波数を選びます。
63Hz、80Hz、**100Hz**(初期値)、125Hz、160Hz、200Hz、250Hz、320Hz、400Hz、500Hz、630Hz、800Hz、1kHz

BASS LEVEL : 低音域の強調の程度を選びます。
範囲 : -6dB から +6dBまで

MID FREQ : 次の中から中音域の周波数を選びます。
250Hz、320Hz、400Hz、500Hz、630Hz、800Hz、**1.0kHz**(初期値)、1.25kHz、1.6kHz、2.0kHz、2.5kHz、3.2kHz、4.0kHz

MID LEVEL : 中音域の強調の程度を選びます。
範囲 : -6dB から +6dBまで

TREBLE FREQ : 次の中から高音域の周波数を選びます。
1.0kHz、1.25kHz、1.6kHz、2.0kHz、2.5kHz、3.2kHz、4.0kHz、5.0kHz、6.3kHz、8.0kHz、**10.0kHz**(初期値)、12.5kHz、16.0kHz

TREBLE LEVEL : 高音域の強調の程度を選びます。
範囲 : -6dB から +6dBまで

<お知らせ>

- ・ 周波数の調節範囲は、他の音域の設定によって選べる範囲が変化します。調節できる周波数は、各音域とも調節する周波数の4倍より低い周波数を選ぶことはできません。例えばBASS FREQで調節したい周波数が100Hzのとき、これより高い音域のMID FREQは400Hz以上、TREBLE FREQは1.6kHz以上の周波数でないとは調節することができません。

■ パラメトリックイコライザー調節のしかた:

イコライザー調節の手順:

- 1 ▽または△ボタン(DOWNまたはUPボタン) を押してスピーカー(FRONT、CENTER、SURROUNDまたは SURROUND BACK)を選び、SETを押す
・調節画面が表示されます。
- 2 ▽または△ボタン(DOWNまたはUPボタン)を押して調節したい音域(BASS、MID、HIGH)を選ぶ
- 3 ▷または◁ボタン(RIGHTまたはLEFTボタン)を押して、調節したい周波数を選ぶ
・調節の順序は、周波数→レベルの順で調節します。
- 4 ▽または△ボタン(DOWNまたはUPボタン)を押して調節したい周波数のレベルを選ぶ
- 5 ▷または◁ボタン(RIGHTまたはLEFTボタン)を押して、レベルを調節する
・「BASS LEVEL」、「MID LEVEL」、「TREBLE LEVEL」のどれかが調節されると、本体の表示窓に「PARAMETRIC EQ」表示が点灯します。
- 6 必要なら手順2から5をくり返して、他の項目の調節をする
- 7 EXITを押す
・PARAMETRIC EQメニューが再び表示されます。
- 8 必要なら手順1から5をくり返して、他のスピーカーの調節をする。

<お知らせ>

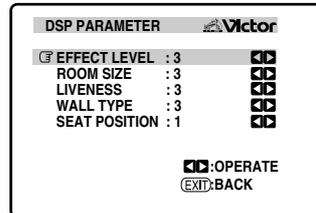
調節を元に戻すには

- ・各スピーカーの調節画面を呼び出して、「BASS LEVEL」、「MID LEVEL」、「TREBLE LEVEL」の設定値を 0dBにします。
本体の表示窓のPARAMETRIC EQ表示が消灯します。

■ DSP パラメーター設定

(メニュー: [3] ^{ディーエスピー} ^{パラメーター} DSP PARAMETER)

DSPが働いているとき表示されます。ただし、「ALL CH STEREO」には動きません。
ヘッドホンモードのときは、このメニューを表示できません。

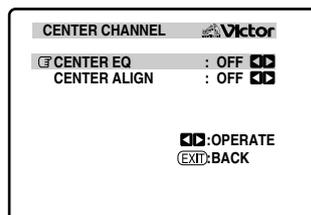


■ DSPの設定:

EFFECT LEVEL	: DSPの効果を「1」から「5」の範囲で調節します。 数値が大きくなると、DSPの効果が大きくなります(通常は「3」を選びます)。
ROOM SIZE	: 仮想的な空間の大きさを「1」から「5」の範囲で調節します。数値が大きくなると反射音の到達時間が遅くなり、より大きな空間での音響効果を演出します(通常は「3」を選びます)。
LIVENESS	: 壁の反響率を「1」から「5」の範囲で調節します。数値が大きくなると反射音の減衰が抑えられ、より響きの大きな音響効果を演出します(通常は「3」を選びます)。
WALL TYPE	: 壁の材質を「1」から「5」の範囲で調節します。数値が大きくなるとより「堅い」壁による反射音の効果を演出します(通常は「3」を選びます)。
SEAT POSITION	: 劇場での座席位置の前後を変更するように、お好みに合わせて「1」または「2」を選ぶことができます。

■ センターチャンネル設定

(メニュー: [4] CENTER CHANNEL)



スピーカー設定メニューでフロントまたはセンタースピーカーの設定をしているときDSPが働いているとセンターチャンネルの設定ができます。ただし、「ALL CH STEREO」には動きません。

■ センターチャンネルの高音域をカットする (CENTER EQ):

ON	:高音域をカットします。
OFF	:高音域をカットしません。

■ センターチャンネルを調節する(CENTER ALIGN):

センターチャンネルの上下方向の定位がずれているときに調節します。

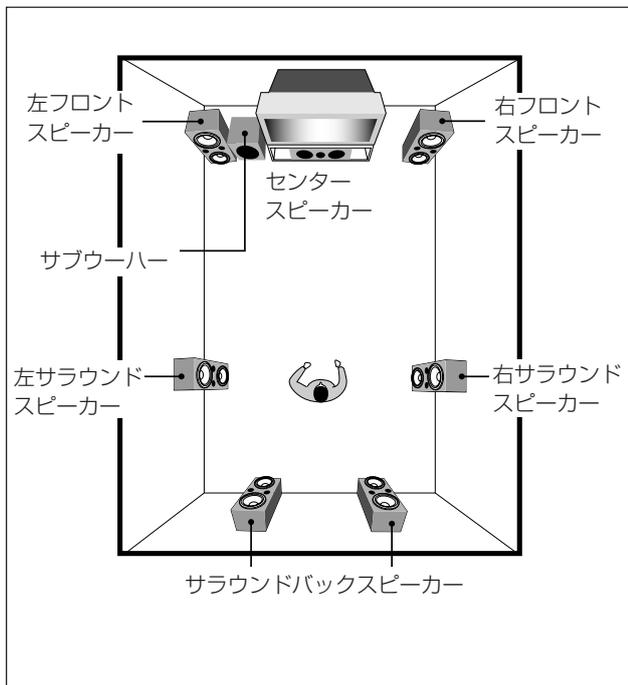
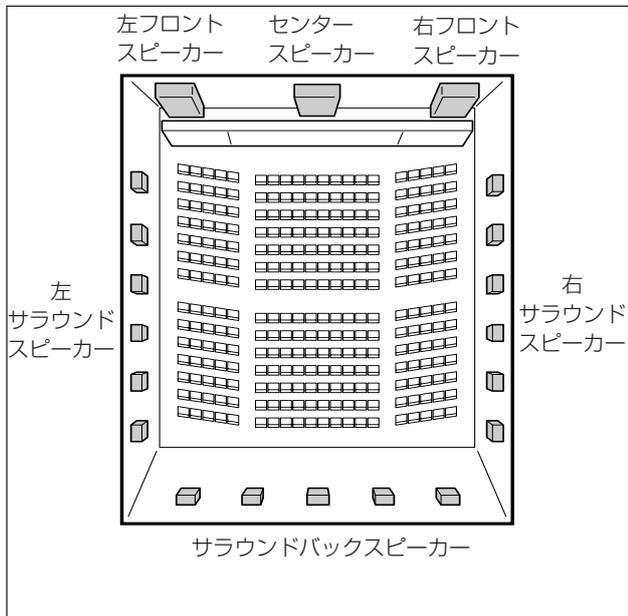
ON	:話し声などがセンターに定位しないとき。
OFF	:補正を使わないとき。

サラウンドモードを使う

映画館の雰囲気を再現する

映画館では、計算された効果音で臨場感を再現するために、壁に多くのスピーカーを配置し、あらゆる方向から音声が聞こえてくるように設計されています。多くのスピーカーを客席を包みこむように配置することによって、音の定位感と躍動感を飛躍的に高めることが可能になります。

本機のサラウンドモードは、5つまたは7つのスピーカー（とサブウーハー）を使うことで映画館そのままの臨場感をご家庭で再現することを可能にしました。



サラウンドモードとは

THX サラウンド EX (ドルビーデジタルサラウンド EX)*1

最先端のマルチチャンネル、ドルビーデジタルサラウンド EXで記録された映像ソフトの再生に最適です。

- ドルビーデジタルサラウンド EXソフトをお楽しみいただくためには、ドルビーデジタルを再生することのできるプレーヤーを本機にデジタル接続する必要があります。(→ 22 ページ参照)

ドルビーデジタルサラウンド EX

「サラウンドバック(左右の2chですが、同じ音声記録されています)」と呼ばれる第3のサラウンドチャンネルを持った、最新のサラウンド方式です。

ドルビーデジタルサラウンド EX を従来のドルビーデジタル5.1chと比較すると、新しく追加された「サラウンドバック」の効果で、ドルビーデジタルサラウンド EXでは、背後の音声の躍動感がよりクリアに再現され、サラウンド全体の定位感がさらに増強されるようになりました。

本機のTHX サラウンド EX*1 モード

ドルビーデジタルサラウンド EXソフトを再生し、ご家庭でも映画館そのままのサラウンド効果を再現することができます。

さらに、THX サラウンド EX*1 モードによって、ドルビーデジタルサラウンド EX以外のソフトでも、マルチチャンネルサウンドで(THX SURR EX]モードまたは[THX CINEMA]モードで)お楽しみいただくことができます。

- THX ON/OFFボタンを押して、THX サラウンドモードを「入」にすると、「THX SURR EX]または「THX CINEMA]が自動的に選ばれます。(→ 41 ページ参照)

THX SURR EX : ドルビーデジタルサラウンド EX または DTS-ES のサラウンドバックスピーカーを追加した7.1ch再生に最適です。

THX CINEMA : サラウンドバック以外の設定されているすべてのスピーカーを使って再生します。

ドルビーデジタル5.1ch*2

ドルビーデジタル(Dolby Digital)録音のソフトの再生に最適です。

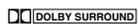
- ドルビーデジタル録音のソフトを再生するには、お使いになる機器を本機背面のデジタル入力端子に接続してください。(→ 22 ページ参照)

ドルビーデジタル5.1ch

左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーハーの5.1ch(サブウーハーは0.1chと数えます)の音声をデジタル圧縮するシステムです。各チャンネルを完全に独立した音声として再生するので、チャンネル間の干渉も少なく、より優れた音質でより立体的なサラウンドが再現できます。

本機にはドルビーデジタルデコーダーが内蔵されていますので、映画館や劇場に匹敵するドルビーデジタルの臨場感がお楽しみいただけます。また、ドルビーサラウンドではサラウンドスピーカーの高音域は7kHzでカットされますが、ドルビーデジタルでは20kHzまで再生され、しかもステレオなので音の移動感や臨場感がより高まります。

ドルビーサラウンド (ドルビープロロジック)*3

 マークまたは  マークの付いた映画や音楽ソフトを再生できます。

ドルビーサラウンド方式

左右フロント、センター、サラウンド(モノラル)の4ch音声を2chに記録しています。

本機にはドルビープロロジックデコーダーが内蔵されていますので、ドルビーサラウンド方式で記録された2ch音声から4ch音声をマトリクス回路で取り出し再生します。これにより、立体感・包囲感のあるサラウンドをお楽しみいただけます。

- ドルビープロロジックデコーダーが働いているとき、PRO LOGIC表示が点灯します。
- ドルビープロロジックは、すべての2chソフトに対して有効です。(PRO LOGIC表示が点灯します)

DTS デジタルサラウンド*4

本機に内蔵のDTSデコーダーにより、 マークの付いた映像ソフトを再生できます。

- DTS デジタルサラウンド録音のソフトを再生するには、お使いになる機器を本機背面のデジタル入力端子に接続してください。(22 ページ参照)

DTS デジタルサラウンドは、CD、LD、DVDなどに使われています。ドルビーデジタル同様5.1chのデジタル音声フォーマットですが、音声圧縮率を低く設定してあるため、厚みのあるより高音質な再生が可能となります。

DTS エクステンデッド サラウンド (DTS-ES)*4

サラウンドバックを使用するもうひとつの新しいサラウンド方式です。

- 本機は、DTS エクステンデッド サラウンド (DTS-ES)に対応していますので、DTS-ESソフトを再生することができます。

ご注意

- DVD MULTIまたはEXT 7.1CHをソースに選んでいるときは、サラウンドモードとDSPモードは動きません。

AAC(Advanced Audio Coding)サラウンド

MPEG-2オーディオの標準方式の一つで、BSデジタル放送で採用されている音声符号化規格です。

低ビットレートで高音質を確保できる点が特長で、番組内容により5.1chのマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

米国特許番号

5,297,236	5,481,614	5,490,170	5848391
4,914,701	5,592,584	5,291,557	5,235,671
5,781,888	5,451,954	07/640,550	08/039,478
5 400 433	5,579,430	08/211,548	5,222,189
08/678,666	5,703,999	5,357,594	98/03037
08/557,046	5 752 225	97/02875	08/894,844
5,394,473	97/02874	5,583,962	98/03036
5,274,740	5,227,788	5,633,981	5,285,498

- AACサラウンドの音声を聞くには、お使いになる機器を本機背面のデジタル入力端子につないでください。
- AACサラウンドをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にセンタースピーカーとリアスピーカーをつなぐ必要があります。
- AACサラウンドで再生しているときは、本体の表示窓にMPEG-2 AAC表示が点灯します。
- AACサラウンドの再生中に、サラウンドモードを「切」にすると、音量が少し小さくなります。

3D HEADPHONE モード

本機では、ヘッドホンでもサラウンド効果をお楽しみいただけます。

ヘッドホンをお使いのときに、SURROUND ON/OFF ボタンを押すと、再生中のソフトに関わらず、3D HEADPHONE モードになります。DSP表示とHEADPHONE表示が点灯します。

- 2chソフトを再生しているときは、ドルビープロロジックが働きます。(PRO LOGIC表示が点灯します)

アナログマルチチャンネル (DVD MULTI/EXT 7.1CH)

本機では、DVDやその他の機器からのアナログ5.1ch (DVD MULTI) とアナログ7.1ch (EXT 7.1CH) の、2つのアナログマルチチャンネルを再生することができます。

(→ 56 ページ参照)

*1 ルーカスフィルム、THXはルーカスフィルム社の商標です。
*2、*3 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。サラウンドEXはドルビーラボラトリーズの商標です。

*4 本機はデジタルシアターシステムズ社からの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital Surround, ES、DTSデジタルサラウンドは、デジタルシアターシステムズ社の商標です。著作権1996年デジタルシアターシステムズ社。不許複製。

サラウンドモード対応表

入力信号	THX ON / SURROUND ON	THX OFF / SURROUND ON	THX OFF / SURROUND OFF
アナログ(2 CH)	THX CINEMA	PRO LOGIC	SURROUND OFF
リニアPCM	THX CINEMA	PRO LOGIC	SURROUND OFF
ドルビーデジタル	THX SURR EX、THX CINEMA*5	DOLBY DIGITAL、PRO LOGIC*6	SURROUND OFF
DTS	THX SURR EX、THX CINEMA*5	DTS SURROUND、PRO LOGIC*7	SURROUND OFF
MPEG-2 AAC	THX SURR EX、THX CINEMA*5	AAC SURROUND、PRO LOGIC*8	SURROUND OFF

*5 THXの設定によります。(→ 41 ページ参照)

*6 2ch信号のときは、PRO LOGICが選ばれます。その他の信号のときは、DOLBY DIGITALが選ばれます。

*7 2ch信号のときは、PRO LOGICが選ばれます。その他の信号のときは、DTS SURROUNDが選ばれます。

*8 2ch信号のときは、PRO LOGICが選ばれます。その他の信号のときは、AAC SURROUNDが選ばれます。

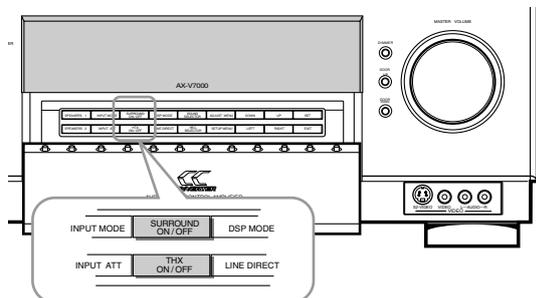
サラウンドモードを使う(つづき)

サラウンドモードを使う

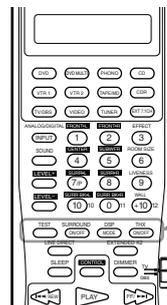
その前に...

- ・セットアップメニューとアジャストメニューの設定・調節を行っておきます。
これらの設定が正しくできていないと、正しい効果を得ることができません。

本体



リモコン



リモコンのLEARN/
TRANSMIT切換スイッチを
TRANSMIT側に切り換えてから
操作します。



■ THXサラウンドを使う

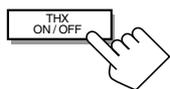
THX SURR EX(THX サラウンド EX)/
THX CINEMA(THX シネマ)

1 ソースを選び再生を始める

2 THX ON/OFFボタンを押す

「THX SURR EX」または「THX CINEMA」が選ばれます。

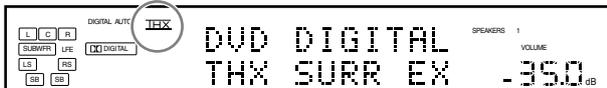
本体



リモコン



THX表示が点灯します



例:「THX SURR EX」(THXサラウンドEX) が選ばれたとき

<お知らせ>

- ・「THX SURR EX」または「THX CINEMA」のどちらかを選ばれるのかは、THX の設定と入力信号によって決まります。(→ 41 ページ参照)
- ・THX ON/OFF を押すごとに、THXサラウンドモードが「入/切」します。
THXサラウンドモードが「入」のときは、従来のサラウンドモードも「入」になります。
- ・入力信号が2チャンネルのときは、ドルビープロロジックが働きます。(本体の表示窓にPRO LOGIC表示が点灯します)

■ THXサラウンドをやめるには

THX ON/OFFボタンを押す

THXサラウンドモードは「切」になり、従来のサラウンドモード(ドルビーデジタル、DTS デジタルサラウンド、ドルビープロロジックのうちのいずれか)が自動的に選ばれます。

●ドルビーデジタルとTHXの音声出力補正機能について

ドルビーデジタルのソフトには基準の音声レベルが記録されており、本機はこれをもとにエンコード再生したときのばらつきを補正し、実際にお楽しみいただくとき、ほぼ同一の音声レベルで再生できるよう調節をうながす機能を持っています。THXにも同等の機能がありますが、標準とされる音声レベルはドルビーデジタルとは異なります。再生中のソフトの音声出力が標準レベルよりも高いとき、または低いときに本体の表示窓に「DIAL.NORM:XX」と表示されます。ソフトごとに異なる音声レベルを一定に保つためには、表示中の「XX」に従って、ボリュームを調節します。例えば、「DIAL.NORM:+4」と表示されているときには、ボリュームを4dB下げます。

■ サラウンドを使う

Dolby Digital(ドルビーデジタル)/
DTS Digital Surround(DTS デジタルサラウンド)/
Dolby Pro Logic(ドルビープロロジック)/MPEG-2 AAC

音場創りにパラメトリックイコライザーを使うことも
できます。

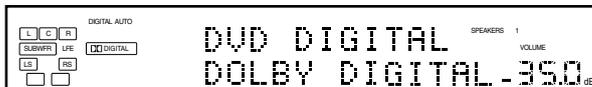
1 ソースを選び再生を始める

2 SURROUND ON/OFFボタンを押して サラウンドモードを「入」にする

本体



リモコン



例:「DOLBY DIGITAL」が選ばれているとき

適切なサラウンドモード(ドルビーデジタル、DTS デジタルサラウンド、MPEG-2 AACまたはドルビープロロジック)が選ばれます。

<お知らせ>

- ・SURROUND ON/OFFボタンを押すごとに、サラウンドモードが「入/切」します。
- ・ヘッドホンで聞いているときは、「3D HEADPHONE」と表示されます。(本体の表示窓にDSPとHEADPHONE表示が点灯します)
- ・入力信号が2チャンネルのときは、ドルビープロロジックが働きます。(本体の表示窓にPRO LOGIC表示が点灯します)

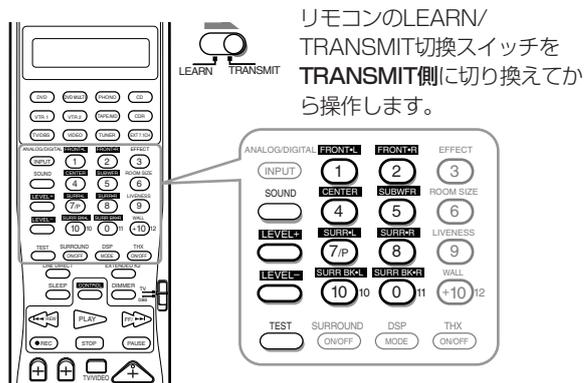
■ サラウンドをやめるには

SURROUND ON/OFFボタンを押す

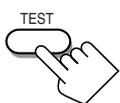
サラウンドモードは「切」になります。

各スピーカーの設定を一時的に変える

本機のスピーカーの設定は、リモコンを使って一時的に調節値を変えることができます。一時的に設定した調節値は、ソース機器を選び変えたり、電源を切ると解除されます。

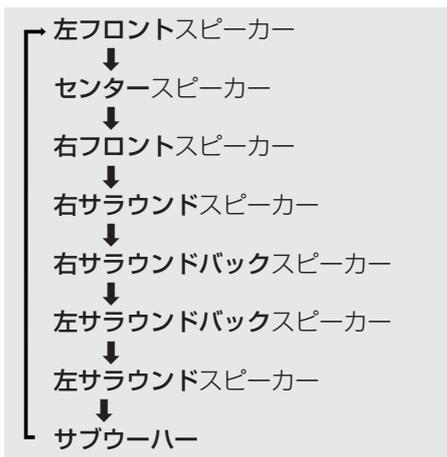


1 TESTボタンを押して各スピーカーの出力バランスを確認する



テストボタンを押してから、3秒後に出力が始まり、設定されているすべてのスピーカーから2秒間ずつテストトーンが出力されます。また、画面にはLEVELメニューが表示されます。

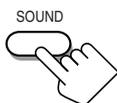
テストトーンが出力される順序は次のようになります。



<お知らせ>

- ・スピーカー設定メニューで、「NO」または「NONE」に設定されたスピーカーからはテストトーンが出力されません。

2 SOUNDボタンを押す



数字ボタンで調節ができるようになります。

3 調節するスピーカーを選ぶ

数字ボタンを押して、スピーカーを選びます。リモコンの液晶表示窓に選んだスピーカーの名前が表示されます。

- ・左フロントスピーカー :FRONT・L(1)ボタン
- ・センタースピーカー :CENTER(4)ボタン
- ・右フロントスピーカー :FRONT・R(2)ボタン
- ・右サラウンドスピーカー :SURR・R(8)ボタン
- ・右サラウンドバックスピーカー :SURR BK・R(0)ボタン
- ・左サラウンドバックスピーカー :SURR BK・L(10)ボタン
- ・左サラウンドスピーカー :SURR・L(7/P)ボタン
- ・サブウーハー :SUBWFR(5)ボタン

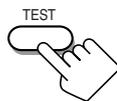
4 LEVEL +/- ボタンを押してスピーカーの出力を調節する



左右のフロントスピーカーは、
-20dB から +10dBの範囲
それ以外のスピーカーは
-10dB から +10dBの範囲で
調節できます。

5 手順3と手順4をくり返し、他のスピーカーの調節をする

6 TESTボタンを押してテストトーンをとめる

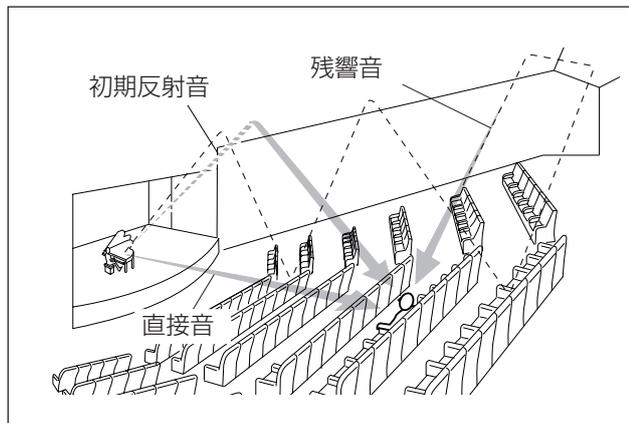


DSPモードを使う

音場の構成について

コンサートホールやライブハウスなどで聞く音は、音源から直接耳に届く音(直接音)と天井や壁などに反射してから耳に届く音(初期反射音)、そして何回も反射をくり返してから耳に届く音(残響音)によって構成されています。これらの反射音/残響音は、リスナーと天井、リスナーと壁の距離によって様々な遅延時間をもった音となり、コンサートなどでは、直接音とこれらの反射音/残響音によって、音場が作り出されています。

本機のDSPモードは、これらの反射音や残響音をデジタル信号処理により創り出し、コンサートホールやライブハウスなどの臨場感を再現します。



DSPモードとは

- DSPモードには次の各モードが含まれています
- ・ **DAP** (Digital Acoustic Processor: デジタルアコースティックプロセッサー) **モード** (LARGE HALL 1、LARGE HALL 2、RECITAL HALL、OPERA HOUSE、CHURCH、LIVE CLUB、DANCE CLUB、PAVILION、LARGE THEATER、SMALL THEATER)
 - ・ **STEREO FILM/MONO FILM**(ステレオフィルム/モノラルフィルム)
 - ・ **ALL CH STEREO**(オールチャンネルステレオ)
 - ・ **3D THEATER**(スリーディーシアター)

DSPモードでは次の設定が有効です。

- ・ **LEVEL** (→ 47 ページ参照)
—使用しているスピーカーに対して有効です。
- ・ **PARAMETRIC EQ** (→ 48 ページ参照)
—使用しているスピーカーに対して有効です。
- ・ **DSP PARAMETER** (→ 49 ページ参照)
—オールチャンネルステレオでは使えません。
- ・ **CENTER CHANNEL** (→ 49 ページ参照)
—センタースピーカーを使用しているとき有効です。
(オールチャンネルステレオでは使えません。)

DSPモードを使うには

DSP MODEボタン押し、お好みのDSPモードから選びます。ボタンを押すごとに、DSPモードは次のように切り換わります。

LARGE HALL 1 → LARGE HALL 2 → RECITAL HALL →
OPERA HOUSE → CHURCH → LIVE CLUB →
DANCE CLUB → PAVILION → ALL CH STEREO →
LARGE THEATER → SMALL THEATER →
STEREO FILM → MONO FILM → 3D THEATER →
SURROUND OFF (DSP「切」) → (はじめに戻る)

■ : 音楽ソース向き

□ : 映像ソース向き

DAPモード

次のような種類のDAPモードが使えます。

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| LARGE HALL 1 | : 収容人数2000人の屋内コンサートホールの音響効果を再現します。 |
| LARGE HALL 2 | : 収容人数300人の屋内コンサートホールの音響効果を再現します。 |
| RECITAL HALL | : 野外のコンサート会場の音響効果を再現します。 |
| OPERA HOUSE | : オペラ劇場の音響効果を再現します。 |
| CHURCH | : 教会の音響効果を再現します。 |
| LIVE CLUB | : 小規模のコンサート会場の音響効果を再現します。 |
| DANCE CLUB | : 天井の低いダンス会場の音響効果を再現します。 |
| PAVILION | : パビリオンなど広い空間の音響効果を再現します。 |
| LARGE THEATER | : 収容人数1000人の映画館の音響効果を再現します。 |
| SMALL THEATER | : 収容人数300人の映画館の音響効果を再現します。 |

DAPモードでは、スピーカーセッティングで接続・設定されたすべてのスピーカーから音声がでます。

- ・ **フロントスピーカーのみを接続しているとき**
ビクターがフロントスピーカーだけでサラウンドをお楽しみいただけるように開発した3D-PHONIC機能が働きます。
本体表示部に3D-PHONIC表示が点灯します。

DSPモードを使う

DSPモードを使う前に、セットアップメニューとアジャストメニューの設定・調節を行っておきます。

これらの設定が正しくできていないと、正しい効果を得ることができません。

オールチャンネルステレオモード(ALL CH STEREO)

スピーカー設定メニューで接続・設定されたすべてのスピーカーを使って、より広い範囲でステレオ音声をお楽しみいただけます。

サラウンドスピーカーを接続・設定していないとお使いになれません。サラウンドバックスピーカーとセンタースピーカーは関係ありません。

- センターチャンネル設定とDSPパラメーター設定はオールチャンネルステレオモードのときはお使いになれません。

ステレオフィルムとモノラルフィルム (STEREO FILM/MONO FILM)

ステレオ音声やモノラル音声(アナログや2チャンネルデジタル信号)の映像をご覧のときに、よりアコースティックな音場を再現します。

サラウンド効果が働き、画面に登場する人の声がより定位感を増して聞こえるようになります。

STEREO FILM :ステレオ音声の映像を見るとき

MONO FILM :モノラル音声の映像を見るとき

「STEREO FILM」または「MONO FILM」をお使いのときは、スピーカー設定メニューで接続・設定されたすべてのスピーカーから音声がかかります。

3Dシアター(3D THEATER)

スピーカー配置数が少ないとき(例えばフロントスピーカーのみ)サラウンド効果を楽しめるモードです。

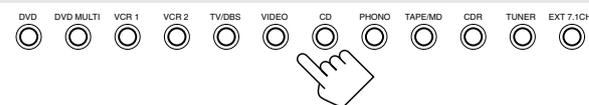
3D PHONIC回路とDSP処理を組み合わせ、フロントスピーカーだけの構成でもドルビーサラウンドに近い効果をお楽しみいただけます。

- センタースピーカーが接続・設定されているときDSPを使って、センタースピーカーから定位感が増すように音声が出力されます。これによって、画面上の人物の音声は、目の前で話しているように聞こえてきます。
- 「3D THEATER」をお使いのときは、本体の表示窓にDSP表示と3D-PHONIC表示が点灯します。アナログ2チャンネルのソフトをお使いのときは、PRO LOGIC表示も点灯します。

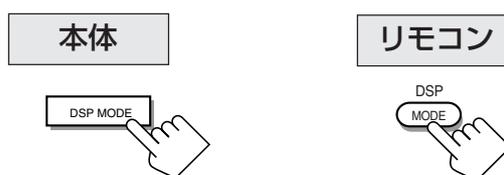
<お知らせ>

- フロントスピーカーとセンタースピーカー以外には出力されません
3D THEATERは、チャンネル数が少ないシステム構成でサラウンド効果を出せるよう作られています。このためサブウーハー、サラウンド、サラウンドバックのスピーカーが接続されていても音声は出力されません。

1 ソースを選び再生を始める



2 DSP MODEボタンをくり返し押しお好みのDSPモードを選ぶ



本体表示部のDSP表示が点灯します。

- ボタンを押すごとに、DSPモードは次のように切り換わります。

LARGE HALL 1 → LARGE HALL 2 →
RECITAL HALL → OPERA HOUSE →
CHURCH → LIVE CLUB → DANCE CLUB →
PAVILION → ALL CH STEREO → LARGE
THEATER → SMALL THEATER → STEREO
FILM*1 → MONO FILM*1 → 3D THEATER*2 →
SURROUND OFF (DSP「切」) → (はじめに戻る)

*1 マルチチャンネル信号が入力されると、「STEREO FILM」と「MONO FILM」は選べなくなります。

*2 ヘッドホンをお使いのときは、「3D HEADPHONE」と表示され、HEADPHONE表示が点灯します。

- スピーカー設定メニューで、サラウンドスピーカーの設定を「NONE」にすると、「ALL CH STEREO」以外を選んでいるとき、3D-PHONICが働きます。(3D-PHONIC表示が点灯します。)

<お知らせ>

- 「ALL CH STEREO」のとき
DSPパラメーターは、調節できません。
- 「3D THEATER」のとき
サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーのアジャストメニューは調節できません。

■ DSPモードをやめるには

DSP MODEボタンを押します。

DSPモードが解除されて、本体の表示窓のDSP表示が消えます。

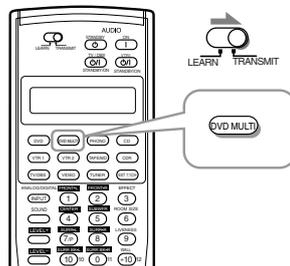
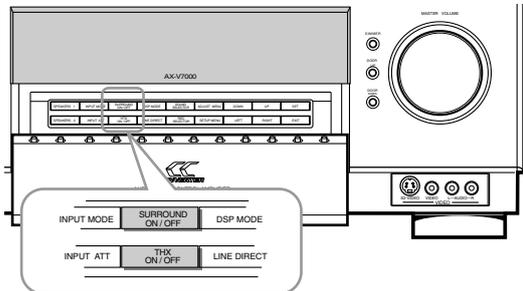
アナログマルチチャンネルを使う

DVDプレーヤーからの5.1chや7.1chのアナログマルチチャンネル信号を再生することができます。再生をする前にDVDプレーヤーに付属の取扱説明書をご覧ください。

DVD MULTI、EXT 7.1CHを使う

その前に・・・

- ・セットアップメニューとアジャストメニューの設定・調節を行っておきます。これらの設定が正しくできていないと、正しい効果を得ることができません。
- ・DVDプレーヤー側でアナログマルチチャンネルで接続するための設定をしておきます。
- ・DVDプレーヤー側と本機をアナログマルチチャンネル接続しておきます。

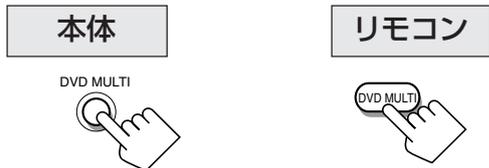


リモコンのLEARN/
TRANSMIT切換スイッチを
TRANSMIT側に切り換えてから
操作します。

1 DVD MULTIまたはEXT 7.1CHボタンを押す

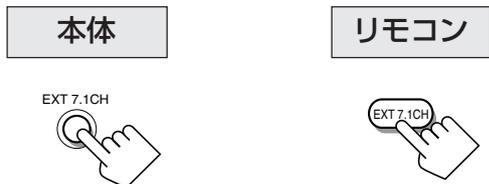
- ・DVD MULTIボタンを押したとき

本体の表示窓に「DVD MULTI」と表示されます。



- ・EXT 7.1CHボタンを押したとき

本体の表示窓に「EXT 7.1」と表示されます。



<お知らせ>

DVD MULTI、EXT 7.1CHをお使いのときは、THX ON/OFF、SURROUND ON/OFFとDSP MODEボタンは働きません。

2 DVDプレーヤーでアナログマルチチャンネルの出力を設定し、再生を始める

- ・DVDプレーヤーの操作については、DVDプレーヤーに付属の取扱説明書をご覧ください。

使用しないスピーカーを設定メニューで「NONE」または「NO」に設定(→ 39 ページ参照)すると、CENTER、SUBWOOFERはFRONT LとFRONT Rに均等に、SURR RはFRONT Rに、SURR LはFRONT Lにダウンミックスされます。このときのミキシングレベルは、レベル設定(→ 47 ページ参照)により-10dBから+10dBまでの範囲でそれぞれ独立して調節できます。

ダウンミックスch構成表(5.1chのアナログマルチチャンネル信号時)

ダウンミックス後	FRONT(LR)	CENTER	SUBWOOFER	SURR(LR)
5.0ch	2.0ch	1.0ch	ダウンミックス	2.0ch
4.1ch	2.0ch	ダウンミックス	0.1ch	2.0ch
4.0ch	2.0ch	ダウンミックス	ダウンミックス	2.0ch
3.1ch	2.0ch	1.0ch	0.1ch	ダウンミックス
3.0ch	2.0ch	1.0ch	ダウンミックス	ダウンミックス
2.1ch	2.0ch	ダウンミックス	0.1ch	ダウンミックス
2.0ch	2.0ch	ダウンミックス	ダウンミックス	ダウンミックス

<ご注意>

- ・EXT 7.1CH入力時のサラウンドバック音声およびLINE DIRECT動作時はダウンミックス機能が働きません。
- ・このアナログマルチチャンネル入力の場合は、入力信号をデジタル信号処理回路を通さずにアナログ信号処理により出力しますので、セットアップメニューにおいて下記の設定は有効とはなりません。下記の設定はアナログマルチチャンネル以外の入力で、LINE DIRECTを動作させない状態で有効となります。
 - ・スピーカー設定 : 各スピーカーのサイズ設定
 - ・スピーカーの距離設定 : 各スピーカーの距離設定
 - ・サブウーハー設定 : クロスオーバー周波数の設定/LFEアッテネーターの設定/位相の設定/バスピークリミッターの設定/バステストトーンの出カ/バスピークレベルの設定

プレジジョン ダウンミックス コンバーター機能を使う

DVD MULTI (5.1ch)またはEXT 7.1CH (7.1ch)の入力時に、5.1chアナログマルチチャンネル信号に対して、フロント(L/R)chにアナログ信号の状態でもキシングすることができます。このため幅広いスピーカー設定(サブウーハーを使わない5.0chやセンタースピーカーを使わない4.1ch等。右の構成表参照)において、DVD AUDIOなどのマルチチャンネルソースの高音質を劣化させることなく楽しむことができます。

コンピュリンク・リモートコントロールシステム

ビクター製のコンピュリンク対応オーディオ機器をCOMPU LINK-3またはCOMPU LINK-4(SYNCHRO)端子を使って接続すると、一体型システムのような簡単操作が実現できます。

コンピュリンクの接続について

ビクター製機器の音声コードを接続したうえで、別売りの接続コード(CN-120Aなど)を使って、各オーディオ機器のCOMPU LINK-3またはCOMPU LINK-4(SYNCHRO)端子どうしを下の図のように接続してください。

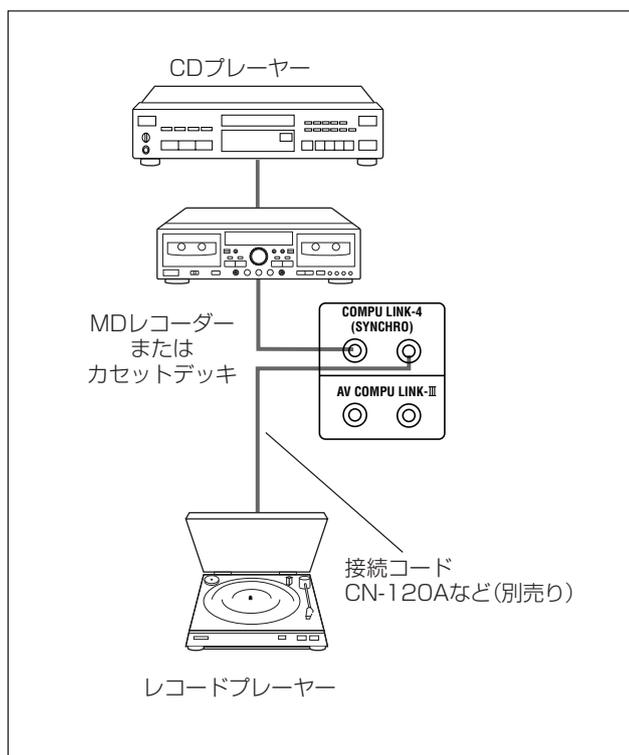
すべての機器を橋渡しするように接続します。

順番に決まりはありません。

レコードプレーヤーなどには、COMPU LINK端子がひとつしかない機器もあります。このようなときは、その機器が一番最後になるように接続してください(下図参照)。

・ **接続する前に、必ず電源プラグを家庭用コンセントから抜いておいてください。**

すべての接続が終わってから電源を入れてください。



接続上のご注意

- COMPU LINK端子が2つあるときには、どちらを使っても接続できます。
- MDレコーダーまたはカセットデッキをコンピュリンクで操作するときは、表示窓に表示されるソース機器名を正しく登録してください。(→ 27 ページ参照)
- 接続するオーディオ機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

コンピュリンク機能について

■ コンピュリンク4の機能

コンピュリンク4は、従来のコンピュリンク3にCDレコーダーのコードを追加した新しいコンピュリンク機能です。

コンピュリンク4対応製品とそれ以前のバージョンの製品を接続して使用することもできますが、そのときは最新の機能に対応した動作はできません。

・ 操作をする前に、オーディオ機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

■ リモコンによる一括操作

CDプレーヤーやレコードプレーヤー、MDレコーダー、カセットデッキなどのソース機器を本機のリモコンで操作することができます。

リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

■ 自動電源入/切

本機の電源を入れると、そのとき選ばれているソース機器(CDプレーヤーやMDレコーダーなど)の電源も自動的に入ります。

また、本機の電源を切ると、その他のオーディオ機器の電源も自動的に切れます。

■ 自動再生(イチ押し再生)

ソース機器(CDプレーヤーやレコードプレーヤー、MDレコーダーなど)で再生を始めると、自動的に本機の電源が入り、そのソースが選ばれて、スピーカーから音が出ます。また、本機で再生するソースを選ぶと、そのソース機器の電源が自動的に入り、再生が始まります(ディスクなどが入っている場合)。

■ シンクロ録音

ソース機器の再生に合わせて、録音機器で録音を自動的に始めることができます。(レコードプレーヤーを除く)

例: CDプレーヤーからMDレコーダーに録音するとき

- 1 CDプレーヤーにCDを入れる
- 2 MDレコーダーに録音用のMDを入れる
- 3 MDレコーダーのREC PAUSEを押す
- 4 CDプレーヤーで演奏を始める

本機で再生するソースが自動でCDに切り換わり、MDレコーダーで録音が始まります。

<お知らせ>

- シンクロ録音中は、ソース機器選択ボタンは働きません。
- シンクロ録音中に、接続している機器のいずれかの電源が切れると、コンピュリンク・リモートコントロールシステムは正しく動作しないことがあります。このようなときは、最初からやり直してください。

AVコンピュリンク・リモートコントロールシステム

AVコンピュリンクの接続について

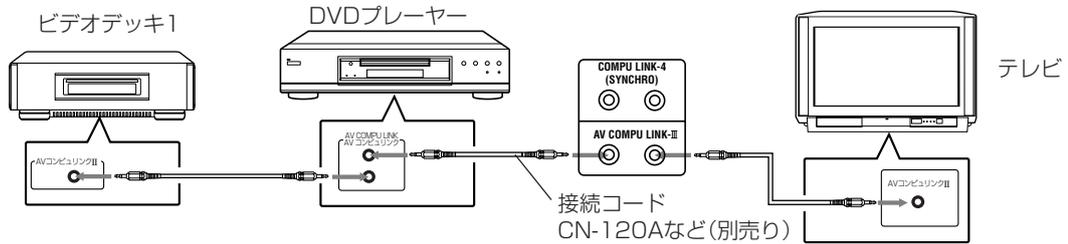
ビクター製の各機器を音声コードで接続したあと、別売りの接続コード(CN-120Aなど)を使って、各ビデオ機器のAV コンピュリンク端子どうしを接続します。

すべての機器を橋渡しするように接続します。

順番に決まりはありません。

- ・ 接続する前に、必ず電源プラグを家庭用コンセントから抜いておいてください。
すべての接続が終わってから電源を入れてください。

接続1: AVコンピュリンクケーブル接続



ご注意

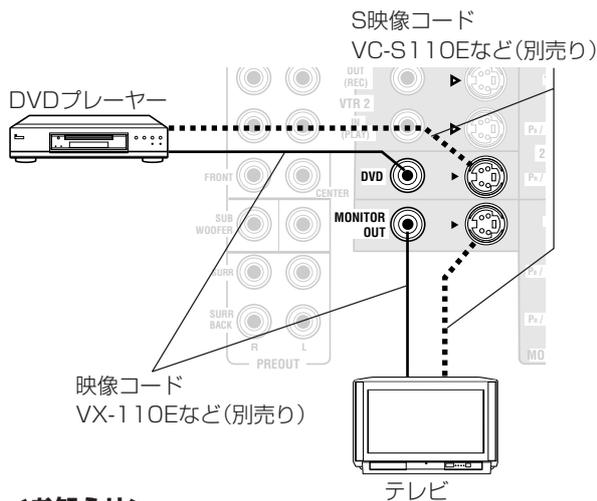
- ・ AVコンピュリンクでは、TV/DBS端子に接続しているBS/CSチューナーや、VIDEO端子またはVTR 2端子に接続しているビデオ機器を、操作することはできません。

<お知らせ>

- ・ ビデオデッキのリモコンコードは「A」に設定してください。
- ・ DVDプレーヤーのAVコンピュリンクコードは「DVD1」に設定してください。
- ・ 操作するビデオ機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

接続2: ビデオケーブル接続

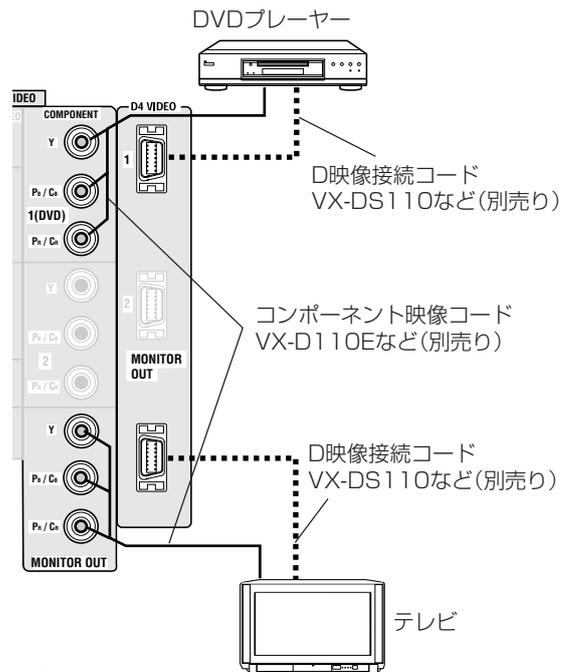
ケース1 ビデオ機器にS映像端子または映像端子があるとき



<お知らせ>

- 本機に接続するときは、同じ種類の端子で接続します。
- ・ ビデオ機器とテレビが映像端子を持っているときは、テレビ側の**ビデオ2**映像入力端子に接続します。
 - ・ ビデオ機器とテレビがS映像入力端子を持っているときは、テレビ側の**ビデオ1S**映像入力端子に接続します。
 - ・ 本機のコンポーネントビデオ入力の設定を正しく設定しないと映像がテレビに出力されませんのでご注意ください。(初期設定では、DVDはコンポーネントビデオ入力に設定されています)

ケース2 ビデオ機器にコンポーネント映像端子またはD映像端子があるとき



<お知らせ>

- 本機に接続するときは、同じ種類の端子で接続します。
- ・ ビデオ機器とテレビがコンポーネント映像端子を持っているときは、テレビ側の**ビデオ3**コンポーネント映像入力端子に接続します。
 - ・ ビデオ機器とテレビがD映像入力端子を持っているときは、テレビ側の**D映像**入力端子に接続します。
 - ・ 本機のコンポーネントビデオ入力の設定を正しく設定しないと映像がテレビ側に出力されませんのでご注意ください。(初期設定では、DVDはコンポーネントビデオ入力に設定されています)

DVDプレーヤーの自動再生

DVDプレーヤーを再生するだけで、本機の電源が自動的に入り、ソースとして「DVD」(DVD DIGITAL)または「DVD MULTI」が選ばれます。

また、音声出力の設定ができるDVDプレーヤーでは、ステレオ再生(または2チャンネル再生)に設定されているときは「DVD」が選ばれます。5.1chのアナログ・ディスクリット音声に設定されているときは「DVD MULTI」が選ばれます。

- テレビの電源も自動的に入り、テレビの入力が適切なビデオ入力に切り換わり、再生がはじまります。

テレビの自動入力切り換え

本機で選んだソースに合わせて、テレビの入力が自動的に切り換わります。

- S映像端子に接続しているとき**ビデオ1**に切り換わります。
- 映像端子に接続しているときは、**ビデオ2**に切り換わります。(ただし、ビクター製テレビではBSデコーダー入力としてビデオ2が使われているときは**ビデオ3**に切り換わります。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。)
- D映像端子またはコンポーネント映像端子に接続しているときは、**ビデオ3**に切り換わります。(テレビ側が対応している場合)
- 本機で「TV/DBS」を選ぶと、ソース機器名を「TV」に設定しているときは自動的にテレビチューナーに切り換わります。また、ソース機器名を「DBS」に設定していたときは、テレビの入力が自動的に**ビデオ2**に切り換わります。

自動電源入/切

テレビ、VTR1端子に接続されているビデオデッキ、DVDプレーヤーの電源を、本機の電源に連動して「入/切」します。

本機の電源を入れると:

- 前回選択していたソースが「VTR1」の場合、テレビとVTR1端子に接続されているビデオデッキの電源も自動的に入ります。
- 前回選択していたソースが「VTR2」「VIDEO」、「TV/DBS」のとき、テレビの電源も自動的に入ります。
- 前回選択していたソースが「DVD」、「DVD MULTI」のとき、テレビとDVDプレーヤーの電源も自動的に入ります。

本機の電源を切ると:

テレビ、ビデオデッキ1、DVDプレーヤーの電源も自動的に切れます。

<お知らせ>

- ビデオデッキ1で録画中に、本機の電源を切っても、ビデオデッキ1の電源は切れず録画が続きます。
- 「TV」を選んでいるときは、AVコンピュリンクがテレビの入力を自動的に「テレビ」に切り換えるため、テレビ画面でメニューを見ることはできません。
テレビの入力切換を本機からの出力(例えば、ビデオ2)に変えれば、メニューを見ることができます。
- DVDプレーヤーとテレビが直接コンポーネント映像端子どうしで接続されていると、本機の映像(コンポジット)入力端子に接続している映像機器をソースとして選んだ場合、テレビの自動入力切り換えは正常に動作しないことがあります。これは、テレビ側でコンポーネント映像入力が優先されるためです。
- BSチューナー内蔵のテレビを接続した場合、テレビの自動入力切り換えで「BS」に切り換わることはありません。

リモコンでビクター製の機器を操作する

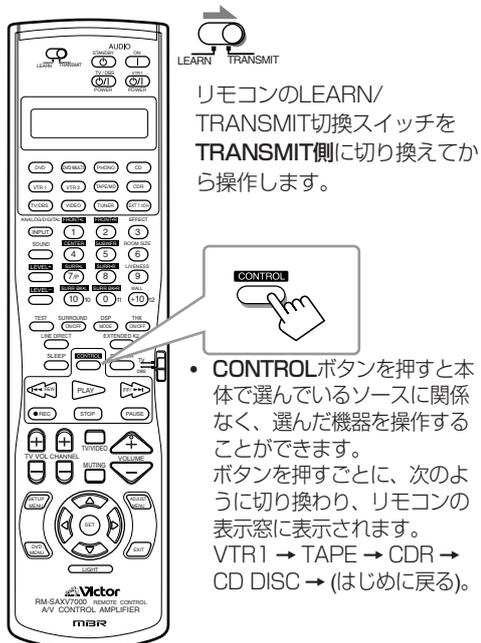
オーディオ機器を操作する

その前に・・・

- ・本機と各オーディオ機器を音声コードで接続するほかにCOMPU LINK (SYNCHRO)端子も接続します。(→ 57 ページ参照)
- ・COMPU LINK を使って、カセットデッキまたはMDレコーダーを操作する場合は、機器名を「TAPE」または「MD」に設定してください。(→ 27 ページ参照)
- ・接続した機器の操作については、機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。

リモコンで操作する前に・・・

- ・リモコンは、本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
- ・本機に接続された機器を操作するときは、リモコンの表示窓に同じソース名が表示されていることを確認してお使いください。
- ・LEARN/TRANSMIT 切換スイッチを TRANSMIT 側に切り換えてから操作してください。
- ・本体のソース機器選択ボタンで選んだときは、リモコンで操作できません。必ずリモコンのソース機器選択ボタンを使って選んでください。



本アンプの操作

- THX ON/OFF : THXサラウンド(THXサラウンド EXまたはTHXシネマ)を「入/切」します。
- SURROUND ON/OFF : 従来のサラウンドモード(ドルビーデジタル、DTSサラウンド、ドルビープロロジック)を「入/切」します。
- DSP MODE : DSPモードを選びます。
- TEST : テストトーンを「入/切」します。

SOUND ボタンを押すと、次のボタンが使えるようになりますが、調節は一時的なもので、メニューでの設定値は変更されません。

- FRONT・L ボタンを押してLEVEL +/− ボタン : 左フロントスピーカーの出力を調節します。
- FRONT・R ボタンを押してLEVEL +/− ボタン : 右フロントスピーカーの出力を調節します。
- CENTER ボタンを押してLEVEL +/− ボタン : センタースピーカーの出力を調節します。
- SUBWFR ボタンを押してLEVEL +/− ボタン : サブウーハーの出力を調節します。
- SURR・L ボタンを押してLEVEL +/− ボタン : 左サラウンドスピーカーの出力を調節します。
- SURR・R ボタンを押してLEVEL +/− ボタン : 右サラウンドスピーカーの出力を調節します。
- SURR BK・L ボタンを押してLEVEL +/− ボタン : 左サラウンドバックスピーカーの出力を調節します。
- SURR BK・R ボタンを押してLEVEL +/− ボタン : 右サラウンドバックスピーカーの出力を調節します。
- EFFECT ボタン : EFFECT レベルを調節します。
- ROOM SIZE ボタン : ROOM SIZE を調節します。
- LIVENESS ボタン : LIVENESS を調節します。
- WALL ボタン : WALL を調節します。

<お知らせ>

- ・音質の調節をした後に、通常の使い方で数字ボタンを使うときは、ソース機器選択ボタンを押してからお使いください。
- ・LEVEL + ボタンまたはLEVEL − ボタンを押すごとに、対応するスピーカー名がリモコンの表示窓に表示されます。

チューナー

ソース機器選択ボタンのTUNER ボタンを押すと、次のボタンが使えるようになります。

- TUNER : チューナーが最後に受信した局を受信します。ボタンを押すごとに、バンド(FMとAM)が切り換わります。

- TUNER ボタンを押すと、次のボタンが使えるようになります。
- 1~10、+10 : 数字ボタンで直接プリセット選局をします。
プリセット番号5を選ぶときは、5 ボタンを押します。
プリセット番号15を選ぶときは、+10→5 ボタンと押します。
プリセット番号20を選ぶときは、+10→10 ボタンと押します。

- ◀◀/REW / FF/▶▶ : 選局をします。

CDプレーヤー

ソース機器選択ボタンの**CD**ボタンを押すと、次のボタンが使えるようになります。

PLAY	: 再生を始めます。
◀◀	: 現在の曲または前の曲の頭に戻ります。
▶▶	: 次の曲の頭に移動します。
STOP	: 停止します。
PAUSE	: 再生を一時停止します。 一時停止をやめるには、 PLAY ボタンを押します。
1 ~ 10、+10	: 曲番号を直接指定します。 曲番号5を入力するときは、 5 ボタンを押します。 曲番号15を入力するときは、 +10→5 ボタンと押します。 曲番号20を入力するときは、 +10→10 ボタンと押します。

CDチェンジャー

CONTROLボタンをくり返し押して「**CD DISC**」を選ぶと、次のボタンが使えるようになります。

PLAY	: 再生を始めます。
◀◀	: 現在の曲または前の曲の頭に戻ります。
▶▶	: 次の曲の頭に移動します。
STOP	: 停止します。
PAUSE	: 再生を一時停止します。一時停止をやめるには、 PLAY ボタンを押します。
1 ~ 6、7/P	: CD チェンジャー内のディスク番号を指定します。

ソース機器選択ボタンの**CD**ボタンを押すと、次のボタンが使えるようになります。

1 ~ 10、+10	: 曲番号を直接指定します。 曲番号5を入力するときは、 5 ボタンを押します。 曲番号15を入力するときは、 +10→5 ボタンと押します。 曲番号20を入力するときは、 +10→10 ボタンと押します。
-------------------	---

例:

- ディスク番号4の12曲目を再生するには
- 「**CD DISC**」がリモコンの表示窓に現れるまで**CONTROL**ボタンをくり返し押したあと、**4**ボタンを押す
 - CD**ボタンを押したあと、**+10→2**ボタンを押す

CDレコーダー

ソース機器選択ボタンの**CDR**ボタンを押すか、**CONTROL**ボタンをくり返し押して「**CDR**」を選ぶと次のボタンが使えるようになります。

PLAY	: 再生を始めます。
◀◀	: 現在の曲または前の曲の頭に戻ります。
▶▶	: 次の曲の頭に移動します。
STOP	: 停止します。
PAUSE	: 録音・再生を一時停止します。 一時停止をやめるには、 PLAY ボタンを押します。
● REC	: PLAY ボタンと一緒に押して、録音を始めます。 PAUSE ボタンと一緒に押すと、録音一時停止状態になります。
1 ~ 10、+10	: 曲番号を直接指定します。 曲番号5を入力するときは、 5 ボタンを押します。 曲番号15を入力するときは、 +10→5 ボタンと押します。 曲番号20を入力するときは、 +10→10 ボタンと押します。

<お知らせ>

- CDレコーダーでの録音を始めたら、CDレコーダー本体のボタンまたはCDレコーダーに付属するリモコンをお使いください。
- CDR**ボタンと**CONTROL**ボタンのどちらを使っても、上のボタン操作ができるようになります。**CONTROL**ボタンをくり返し押して、「**CDR**」を選んだときは、本機のソースは切り換わりません。

カセットデッキ

ソース機器選択ボタンの**TAPE/MD**ボタンを押すか、**CONTROL**ボタンをくり返し押して「**TAPE**」を選ぶと次のボタンが使えるようになります。

REW	: 右から左へとテープを早く送ります。
FF	: 左から右へとテープを早く送ります。
STOP	: 停止します。
PAUSE	: 録音・再生を一時停止します。一時停止をやめるには、 PLAY ボタンを押します。
● REC	: PLAY ボタンと一緒に押して、録音を始めます。 PAUSE ボタンと一緒に押すと、録音一時停止状態になります。

<お知らせ>

- カセットデッキを**TAPE/MD**入力端子に接続しているときは、本体のソース名を「**TAPE**」にしておきます。(→27ページ参照)
- TAPE/MD**ボタンと**CONTROL**ボタンのどちらを使っても、上のボタン操作ができるようになります。**CONTROL**ボタンをくり返し押して、「**TAPE**」を選んだときは、本機のソースは切り換わりません。

MDレコーダー

ソース機器選択ボタンの**TAPE/MD**ボタンを押すか、**CONTROL**ボタンをくり返し押して「**TAPE**」を選ぶと次のボタンが使えるようになります。

PLAY	: 再生を始めます。
◀◀	: 現在の曲または前の曲の頭に戻ります。
▶▶	: 次の曲の頭に移動します。
STOP	: 停止します。
PAUSE	: 録音・再生を一時停止します。一時停止をやめるには、 PLAY ボタンを押します。
● REC	: PLAY ボタンと一緒に押して、録音を始めます。 PAUSE ボタンと一緒に押すと、録音一時停止状態になります。

<お知らせ>

- MDレコーダーを**TAPE/MD**入力端子に接続しているときは、本体のソース名を「**MD**」にしておきます。(→27ページ参照) また、本体のソース機器名を変更してもリモコンの表示窓には「**TAPE**」と表示されます。
- TAPE/MD**ボタンと**CONTROL**ボタンのどちらを使っても、上のボタン操作ができるようになります。**CONTROL**ボタンをくり返し押して、「**TAPE**」を選んだときは、本機のソースは切り換わりません。

レコードプレーヤー

ソース機器選択ボタンの**PHONO**ボタンを押すと、次のボタンが使えるようになります。

PLAY	: 再生を始めます。
STOP	: 停止します。

リモコンでビクター製の機器を操作する(つづき)

ビデオ機器を操作する

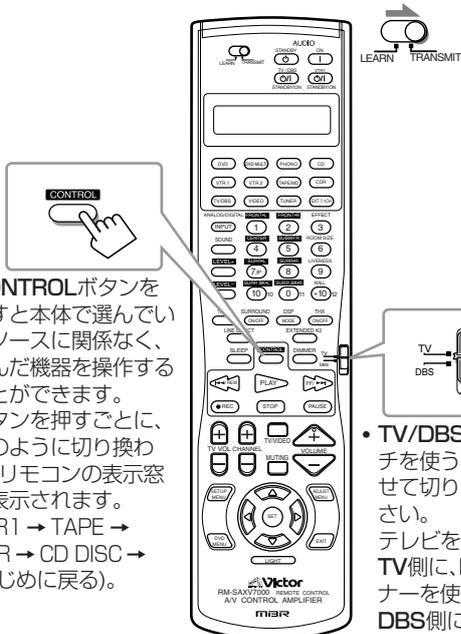
その前に・・・

- ・本機と各ビデオ機器を映像/音声コードで接続したあとで、AVコンピュータ端子も接続しておきます。(→58ページ参照)
- ・ビクター製のビデオデッキには、「A」、「B」2種類のリモコンコードを使えるものがあります。本機のリモコンを使って、お手持ちのビクター製ビデオデッキをお使いになるには、VTR1入力端子に接続したビデオデッキのリモコンコードを「A」にしておく必要があります。ビクター製の別のビデオデッキをVTR2やVIDEO入力端子に接続するときは、リモコンコードを「B」にしてください。(本機のリモコンはコード「B」には対応しておりません)
- ・接続した機器については、機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。

リモコンで操作する前に・・・

- ・リモコンは、本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
- ・本機にソースとして接続された機器を操作するときは、リモコンの表示窓に同じソース名が表示されていることを確認してからお使いください。
- ・LEARN/TRANSMIT切換スイッチを TRANSMIT側に切り換えてから操作してください。
- ・機器を本体のソース機器選択ボタンで選んだときは、リモコンで操作できません。必ずリモコンのソース機器選択ボタンを使って選んでください。

リモコンのLEARN/
TRANSMIT切換スイッチを
TRANSMIT側に切り換えてから
操作します。



- ・CONTROLボタンを押すと本体で選んでいるソースに関係なく、選んだ機器を操作することができます。ボタンを押すごとに、次のように切り換わり、リモコンの表示窓に表示されます。
VTR1 → TAPE →
CD → CD DISC →
(はじめに戻る)。

- ・TV/DBS切換スイッチを使う機器に合わせて切り換えてください。テレビを使うときは、TV側に、BSチューナーを使うときは、DBS側に切り換えてください。

ビデオデッキ

VTR 1 (STANDBY/ON)

: ビデオデッキの電源を「入/切」します。

ソース機器選択ボタンのVTR 1ボタンを押すか、CONTROLボタンをくり返し押して「VTR1」を選ぶと次のボタンが使えるようになります。

- 1～9、0 : ビデオデッキのテレビチューナーのチャンネルを選びます。
- PLAY : 再生を始めます。
- REW : テープを巻戻します。
- FF : テープを早送りします。
- STOP : 停止します。
- PAUSE : 録画・再生を一時停止します。一時停止をやめるには、PLAYボタンを押します。
- REC : PLAYボタンと一緒に押して、録画を始めます。PAUSEボタンと一緒に押すと、録画一時停止状態になります。
- CHANNEL +/- : ビデオデッキのテレビチューナーのチャンネルを切り換えます

<お知らせ>

VTR 1ボタンとCONTROLボタンのどちらを使って、上のボタン操作ができるようになります。CONTROLボタンをくり返し押して、「VTR1」を選んだときは、本機のソースは切り換わりません。

DVDプレーヤー

ソース機器選択ボタンのDVD(またはDVD MULTI, EXT 7.1CH)を押すと、次のボタンが使えるようになります。

- 1～10、0、+10 : DVDタイトルまたはチャプターを選びます。
- PLAY : 再生を始めます。
- ◀◀ : 現在のチャプターまたは前のチャプターの頭に戻ります。
- ▶▶ : 次のチャプターの頭に移動します。
- STOP : 停止します。
- PAUSE : 再生を一時停止します。一時停止をやめるには、PLAYボタンを押します。

DVD MENUボタンを押すと、次のボタンが使えるようになります。



<お知らせ>

DVDプレーヤーとDVDソフトに付属の取扱説明書をご覧ください。

テレビ

TV/DBS切換スイッチをTV側に切り換えてお使いください。

TV/DBS (STANDBY/ON)

: テレビの電源を「入/切」します。

- TV VOL +/- : 音量を調節します。
- TV/VIDEO : テレビまたはビデオへ入力切り換えをします。

TV/DBSボタンを押すと、次のボタンが使えるようになります。

- CHANNEL +/- : チャンネルを切り換えます。
- 1～9、0 : チャンネルを選びます。

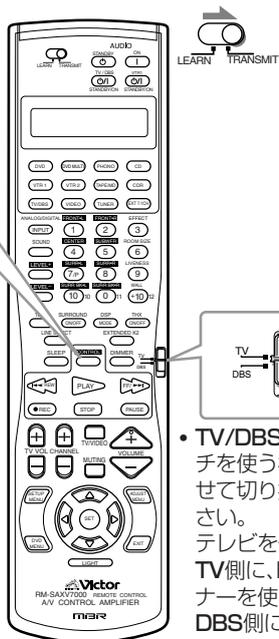
他メーカーの機器を操作する

本機のリモコンを使って、他メーカーの機器を操作することができます。あらかじめ決められたメーカーコード番号を入力して行う方法と、他の機器のリモコンからボタンごとに学習(LEARN)させて行う方法があります。(→ 67 ページ参照)

リモコンで操作する前に...

- リモコンは、お使いになる機器のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 本機にソースとして接続された機器を操作するときは、リモコンの表示窓に同じソース名が表示されていることを確認してからお使いください。
- LEARN/TRANSMIT 切換スイッチを TRANSMIT 側に切り換えてから操作してください。

リモコンのLEARN/
TRANSMIT 切換スイッチを
TRANSMIT 側に切り換えてから
操作します。



- CONTROL ボタンを押すと本体で選んでいるソースに関係なく、選んだ機器を操作することができます。ボタンを押すごとに、次のように切り換わり、リモコンの表示窓に表示されます。
VTR1 → TAPE →
CD → CD DISC →
(はじめに戻る)。

- TV/DBS 切換スイッチを使う機器に合わせて切り換えてください。テレビを使うときは、TV 側に、BSチューナーを使うときは、DBS 側に切り換えてください。

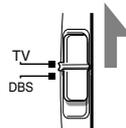
ご注意

- リモコンの電池交換は、素早く行ってください。時間がたちすぎると入力されたメーカーコード番号が消えてしまうことがあります。メーカーコード番号が消えてしまったときは、もう一度メーカーコードの設定をやり直してください。

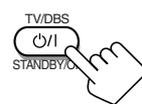
テレビのメーカーを設定する

- 他メーカーの機器をお使いになるときは、機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。

1 TV/DBS 切換スイッチをTV側に切り換える

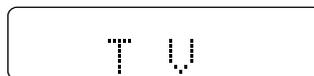


2 TV/DBS 入/出 (STANDBY/ON) ボタンを押したまま...

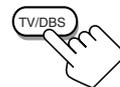


手順4の操作が終わるまで押し続けます。

3 TV/DBS ボタンを押す

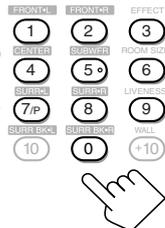


リモコンの表示窓



4 数字ボタン1~9、0を押してメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

- 入力した番号がリモコンの表示窓に表示されます。対応するテレビのメーカーとメーカーコード番号については、メーカーコード番号表をご覧ください。(→ 66 ページ参照)



5 TV/DBS 入/出 (STANDBY/ON) ボタンを離す

これで、設定ができました。

TV/DBS 切換スイッチをTV側に切り換えると、テレビの操作ができるようになります。

TV/DBS 入/出 (STANDBY/ON)

- TV VOL +/- : テレビの電源を「入/切」できます。
- TV/VIDEO : 音量を調節できます。
- TV/VIDEO : テレビまたはビデオへ入力切り換えができます。

TV/DBS ボタンを押すと、次のボタンが使えるようになります。

- CHANNEL +/- : チャンネルの切り換えができます。
- 1~9、0 : チャンネルを選ぶことができます。

<お知らせ>

- 操作については、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 数字ボタンでチャンネルを選ばないときは CHANNEL +/- ボタンを押します。

うまく操作できないときは、もう一度正しくメーカーコード番号を入力してみてください。また、メーカーコード番号表に複数の番号があるときは、すべての番号を試してみてください。

他メーカーの機器を操作する(つづき)

ビデオデッキのメーカーを設定する

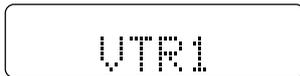
- 他メーカーの機器をお使いになるときは、機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。

1 VTR 1 冫/I (STANDBY/ON) ボタンを押したまま...



手順3の操作が終わるまで押し続けます。

2 VTR 1 ボタンを押す

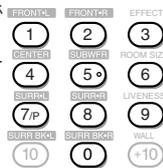


リモコンの表示窓



3 数字ボタン1~9、0を押してメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

- 入力した番号がリモコンの表示窓に表示されます。対応するビデオデッキのメーカーとメーカーコード番号については、メーカーコード番号表をご覧ください。(→ 66 ページ参照)



4 VTR 1 冫/I (STANDBY/ON) ボタンを離す

これで、設定ができました。

VTR 1 冫/I (STANDBY/ON)

:ビデオデッキの電源を「入/切」できます。

VTR 1 ボタンを押すと、次のボタンが使えるようになります。

CHANNEL +/-
1~10、0 :チャンネルの切り換えができます。
:チャンネルを選ぶことができます。
数字ボタン10は、お手持ちの機器がチャンネルを選んだあとにENTERを押す必要があるときは、ENTERボタンとして働きます。

PLAY :再生することができます。
REW :テープを巻き戻すことができます。
FF :テープを早送りすることができます。

STOP :停止することができます。
PAUSE :録画・再生を一時停止できます。一時停止をやめるには、PLAYボタンを押します。

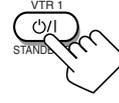
- **REC** :PLAYボタンと一緒に押して、録画を始めることができます。
PAUSEボタンと一緒に押すと、録画一時停止状態にできます。

うまく操作できないときは、もう一度正しくメーカーコード番号を入力してみてください。また、メーカーコード番号表に複数の番号があるときは、すべての番号を試してみてください。

DVDプレーヤーのメーカーを設定する

- 他メーカーの機器をお使いになるときは、機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。

1 VTR 1 冫/I (STANDBY/ON) ボタンを押したまま...



手順3の操作が終わるまで押し続けます。

2 DVD ボタンを押す



リモコンの表示窓



3 数字ボタン1~9、0を押してメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

- 入力した番号がリモコンの表示窓に表示されます。対応するDVDプレーヤーのメーカーとメーカーコード番号については、メーカーコード番号表をご覧ください。(→ 66 ページ参照)



4 VTR 1 冫/I (STANDBY/ON) ボタンを離す

これで、設定ができました。

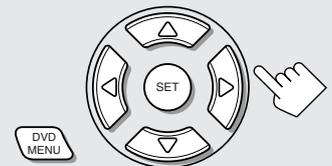
DVDボタン(またはDVD MULTI, EXT 7.1CH)を押すと、次のボタンが使えるようになります。

1~9、0、+10 :DVDタイトルまたはチャプターが選べます。

PLAY :再生することができます。
◀◀ :現在のチャプターまたは前のチャプターの頭に戻ることができます。
▶▶ :次のチャプターの頭に移動できます。

STOP :停止することができます。
PAUSE :再生を一時停止できます。一時停止をやめるには、PLAYボタンを押します。

DVD MENU ボタンを押すと、次のボタンが使えるようになります。

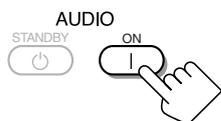


うまく操作できないときは、もう一度正しくメーカー番号を入力してみてください。また、メーカー番号表に複数の番号があるときは、すべての番号を試してみてください。

CDプレーヤーのメーカーを設定する

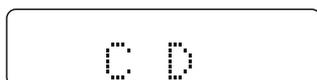
- 他メーカーの機器をお使いになるときは、機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。

1 AUDIO I (ON) ボタンを押したまま...

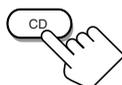


手順3の操作が終わるまで押し続けます。

2 CDボタンを押す

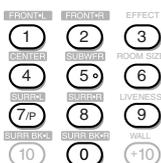


リモコンの表示窓



3 数字ボタン1~9,0を押してメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

- 入力した番号がリモコンの表示窓に表示されます。対応するCDプレーヤーのメーカーとメーカーコード番号については、メーカーコード番号表をご覧ください。(→ 66 ページ参照)



4 AUDIO I (ON) ボタンを離す

これで、設定ができました。

CDボタンを押すと、次のボタンが使えるようになります。

1~9、0、+10	:曲番号を直接指定できます。
PLAY	:再生を始めることができます。
◀◀	:トラックを早戻しできます。
▶▶	:トラックを早送りできます。
STOP	:停止することができます。
PAUSE	:再生を一時停止できます。一時停止をやめるには、PLAYボタンを押します。

うまく操作できないときは、もう一度正しくメーカー番号を入力してみてください。また、メーカー番号表に複数の番号があるときは、すべての番号を試してみてください。

他メーカーの機器を操作する(つづき)

メーカーコード番号一覧

機器名	メーカー名	コード番号
テレビ	日本ビクター	00,02,13,14,47,74
	松下	24,25,26,27,76,86,87
	サンヨー	01,05,81
	サムソン	06,08,16,34,35,49
	日立	08,09,10,49,78
	三菱	08,18,19,20
	フィリップス	15,17,28,75
	シャープ	37,38,77,88
	東芝	37,43,44,79
	ソニー	39,80
ビデオ デッキ	アイワ	82
	NEC	83
	富士通ゼネラル	84
	パイオニア	85
	フナイ	89,90
	日本ビクター	00,26,27,28,29,58, 83,84
	松下	19,24,39,40,77,78,79
	アイワ	01,02,82
	フナイ	01,76
	サンヨー	03,48,49
DVD プレーヤー	フィリップス	04,19,21,24,41,42
	ゴールドスター	07
	日立	18,23,24,25,66,74
	NEC	26,27
	三菱	30,31,32,33,34,35, 80,81
	シャープ	37,50,75
	東芝	43,44,71,72
	サムソン	45,47,59,61,62,63
	ソニー	52,53,54,68,69,70
	パイオニア	73
DVD プレーヤー	日本ビクター	00,02
	松下	03
	デンオン	01
	パイオニア	04,05,06
	サムソン	08
	ソニー	09
	東芝	10
	ヤマハ	11,12
フィリップス	13	

機器名	メーカー名	コード番号
CD プレーヤー	日本ビクター	06,07,08,09
	松下(パナソニック)	22,23,24
	松下(テクニクス)	40,41,42,43,45
	デンオン	01,02,03
	ケンウッド	10,11,12,13,14
	マランツ	17
	オンキヨー	18,19,20,21
	フィリップス	25,26,27,28,29
	パイオニア	30,31
	サンヨー	35
DVD プレーヤー	シャープ	36
	ティアック	37,38,39
	ヤマハ	46,47,48,49,50,51,52
	ソニー	53

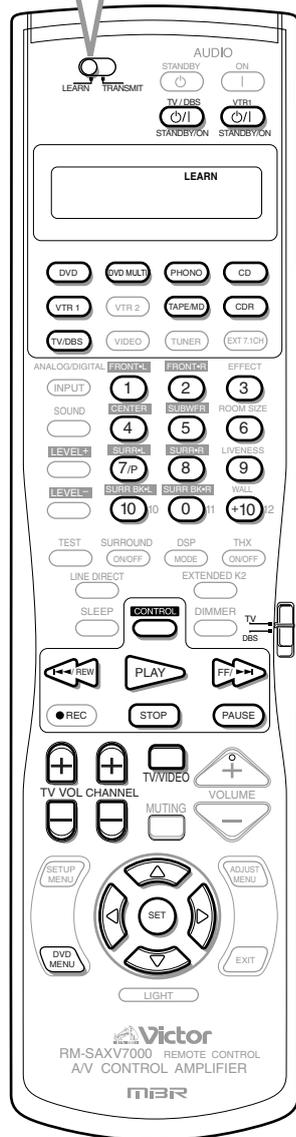
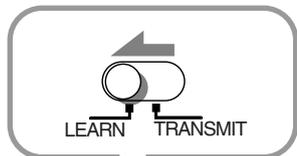
リモコンの学習機能を使う

学習(ラーニング)させるには・・・

本機のリモコンは学習(ラーニング)機能があります。他メーカーの機器に付属のリモコンの信号を学習させて、他メーカーの機器を使うことができます。

リモコンの学習操作をする前に・・・

- ・LEARN/TRANSMIT 切換スイッチをLEARN側に切り換えてから操作します。

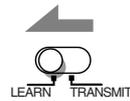


学習できるボタン
強調されているボタンが、学習可能なボタンです。

リモコンのボタンに学習(ラーニング)させる

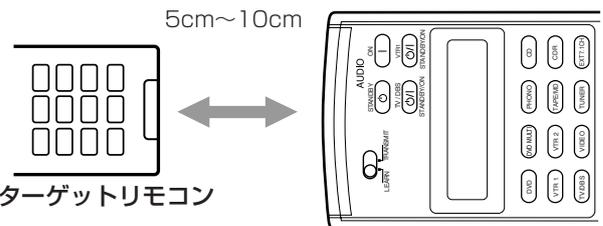
- ・学習(ラーニング)を始める前に、他メーカーの機器のリモコン(以後、ターゲットリモコンと記載します)が機能していることを確認してください。

1 LEARN/TRANSMIT 切換スイッチをLEARN側に切り換える



2 2つのリモコンの送信部が向かい合わせになるように、水平に置く

- ・2つのリモコンは5cm～10cmの間隔でおいてください。



3 ソース機器選択ボタンの1つを押す (VTR2、VIDEO、TUNER、EXT 7.1CH以外のボタン)

選んだソース名と「LEARN」表示がリモコンの表示窓に表示されます。

- ・ターゲットリモコンの用途と同じ名前のソースボタンを使うと便利です。



<お知らせ>

- ・TV/DBSを選ぶときは、TV/DBS切換スイッチをお好みの側に切り換えてからお使いください。切換スイッチがTV側のとときとDBS側のとときとで、1つのボタンに対して別の信号を学習させることができます。
- ・CDチェンジャー用のソース名を選びたいときは、CONTROLボタンをくり返し押して「CD DISC」を表示させてから行ってください。

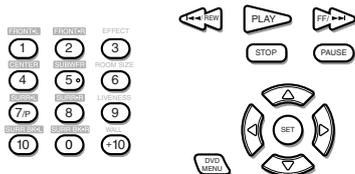


ご注意

- ・リモコンの電池交換は、素早く行ってください。時間がたつと学習内容が消えてしまうことがあります。学習内容が消えてしまったときには、もう一度学習をやり直してください。

リモコンの学習機能を使う(つづき)

- 手順3でDVDまたはDVD MULTI を選んだときは、つぎのボタンに学習させることができます。



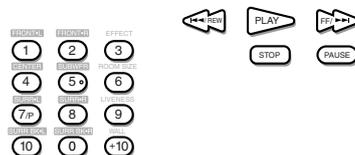
<お知らせ>

DVDメニュー操作ボタン(DVD MENU, SET, Δ/▽/◀/▶)には、DVDまたはDVD MULTI以外のソースを選んだときでも学習させることができますが、これらのボタンは1種類の信号しか学習させられません。

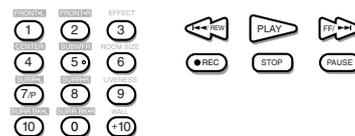
- 手順3でPHONO を選んだときは、つぎのボタンに学習させることができます。



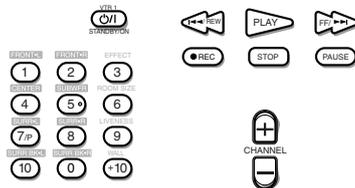
- 手順3でCDを選んだとき、またはCONTROLボタンをくり返し押して「CD DISC」を選んだときは、つぎのボタンに学習させることができます。



- 手順3でTAPE/MDまたはCDRを選んだときは、つぎのボタンに学習させることができます。



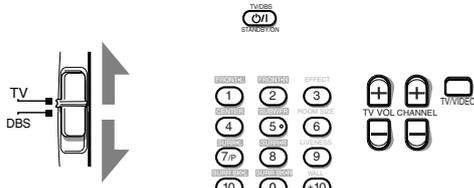
- 手順3でVTR 1 を選んだときは、つぎのボタンに学習させることができます。



<お知らせ>

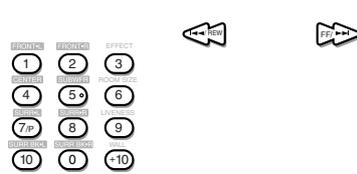
VTR1 〇/I (STANDBY/ON)はソースに関係なく使うことができます。

- 手順3でTV/DBS を選んだときは、つぎのボタンに学習させることができます。



TV/DBS切替スイッチがTV側のときとDBS側のときとで、1つのボタンに対して別の信号を学習させることができます。

- 手順3でTUNER を選んだときは、つぎのボタンに学習させることができます。

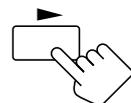


4 ターゲットリモコンの信号を学習させたいボタンを決めて押す

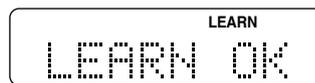
「LEARN」表示が点滅し始めます。



5 「LEARN」表示が点滅している間に、ターゲットリモコンのボタンを押す



ターゲットリモコンからの信号が、本機のリモコンに届きます。



リモコンが信号を正しく受信すると「LEARN OK」と表示され「LEARN」表示が点滅から点灯にかわりまします。手順4で選んだボタンへの学習は完了しました。

<お知らせ>

- ターゲットリモコンのボタンを押す前に「LEARN」表示が点滅から点灯に変わってしまったときは、手順4をやり直してください。
- リモコンの表示窓に「ERROR」と表示されたら、もう一度最初からやってみてください。
- ターゲットリモコンのボタンによっては、本機で学習できないこともあります。

6 同じソースの他のボタンに学習させたいときは手順4と手順5をくり返す

- ちがうソースを選んで他のボタンに学習させたいときは、手順3から手順5までをくり返す

7 LEARN/TRANSMIT切替スイッチを TRANSMIT側に切り換えて学習を終了する

<お知らせ>

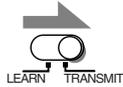
学習機能は、元の信号を完全に記憶するわけではありません。そのため、学習に成功していても、本機のリモコンで他メーカーの機器を操作することができない場合があります。

学習したボタンを使う

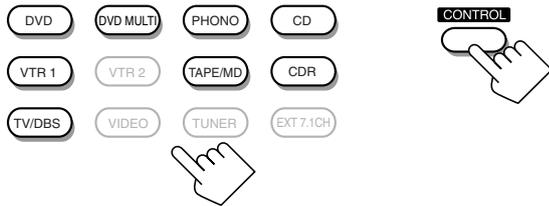
リモコンで操作する前に・・・

- ・リモコンは、お使いになる機器のリモコン受光部に向けて操作してください。
- ・リモコンは受光部まで7m以内の範囲でお使いください。

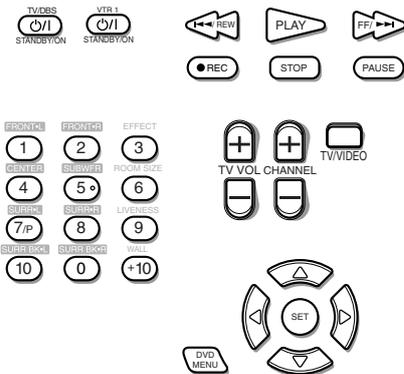
1 LEARN/TRANSMIT切換スイッチを TRANSMIT側に切り換える



2 ソース機器選択ボタン押して(または CONTROLボタンをくり返し押して)ソースを選ぶ



3 操作ボタンを押す



<お知らせ>

- ・ TV/DBS (STANDBY/ON) ボタンを押すときは、TV/DBS切換スイッチをお使いになる機器に合わせて切り換えてください。
- ・ 次のボタンは、ソースに関わりなくいつも同じ動きをします。
VCR 1 (STANDBY/ON)、TV VOL+/-、TV/VIDEO、DVD MENU
- ・ SET、、、、 ボタンは、DVD MENU ボタンを押した後に使えるようになります。

学習した内容を消去する

学習した内容を消去すると、リモコンのボタンはもとに戻り、ビクター製の機器を操作することができるようになります。

1 LEARN/TRANSMIT切換スイッチを LEARN側に切り換える



2 EXITを押しながら、学習した内容を消去させたいソース機器選択ボタンを押す

「LEARN」表示がリモコンの表示窓に現れます。



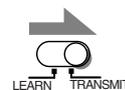
「CLEAR」と表示されて、ソース機器選択ボタンごとに学習した内容が消去されます。

<お知らせ>

- ・ 消去は、ソース機器選択ボタンごとに割り当てた、すべての学習内容が一括して消去されます。特定の割り当てボタンの学習した内容を、別々に消去することはできません。
- ・ ソース「CD DISC」で学習した内容を消去するには、はじめにCONTROLボタンをくり返し押して「CD DISC」を選び、次に、EXITボタンを押しながらCONTROLボタンを押します。



3 LEARN/TRANSMIT切換スイッチを TRANSMIT側に切り換える



故障かな?と思う前に

— おや?故障かな?と思ったら…
修理に出す前にもう一度お確かめください。—

症状	原因	処置
表示窓が点灯しない。	電源コードがはずれている。	電源プラグを家庭用コンセントに差し込む。
音が出ない。	スピーカーコードが接続されていない。	接続を確認する。
	スピーカーが「切」になっている。	SPEAKERS 1または2 ボタンを押してスピーカーを「入」にする。
	スピーカーの設定が正しくない。	正しいスピーカー設定にする。
	間違ったソースが選択されている。	正しいソースを選択する。
	消音機能が働いている。	MUTINGボタンを押して消音機能を解除する。
	間違った音声方式(アナログまたはデジタル)が選択されている。	正しい音声方式(アナログまたはデジタル)を選択する。
	ソース機器が正しく接続されていない。	接続を確認する。 ・アナログ接続(14～21 ページ参照) ・デジタル接続(22 ページ参照)
片方のスピーカーからしか音が出ない。	スピーカーコードが正しく接続されていない。	接続を確認する。
	左右のバランスが合っていない。	左右のバランスを正しく調節する。
リモコンで操作できない。	入力したメーカーコード番号(2ケタ)が間違っている。	正しいメーカーコード番号(2ケタ)を入力し直す。
	本機のリモコン受光部の前に障害物がある。	障害物を取り除く。
	学習(ラーニング)したボタンの操作が正しくない。	TV/DBS切換スイッチの位置、LEARN/TRANSMIT切換スイッチの位置を確認する。
	電池が消耗している。	新しい単3形アルカリ乾電池と交換する。
リモコンが意図しない動作をする。	電池が消耗している。	新しい単3形アルカリ乾電池と交換する。
	間違ったソース機器が選ばれている。	正しいソース機器を選択する。(60 ページ参照)
電源を入れた後にSTANDBYランプが点灯し、「切(待機状態)」になる。	本機に異常な電圧がかかっている。	⓪/ I STANDBY/ON(電源)ボタンを押して本機の電源を切り、コンセントを抜いてお買い上げの販売店に問い合わせる。
「OVERLOAD」が表示窓で点滅する。	音量が大きいため、スピーカーに負荷がかかりすぎている。	1. ⓪/ I STANDBY/ON(電源)ボタンを押して本機の電源を切る 2. 再生している機器の電源を切る 3. ⓪/ I STANDBY/ON(電源)ボタンを押して本機の電源を入れ、音量を調節する
	スピーカー端子がショートしたため、アンブ部に負荷がかかりすぎている。	1. ⓪/ I STANDBY/ON(電源)ボタンを押して本機の電源を切る 2. スピーカーが正しく接続されているかどうか確かめる 3. もう一度 ⓪/ I STANDBY/ON(電源)ボタンを押して本機の電源を入れる スピーカー端子がショートしていない場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証とアフターサービス

保証書(別添)

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管しておいてください。

保証期間

お買い上げの日から1年間

補修用性能部品の最低保有期間

AVコントロールアンプの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、お買い上げの販売店または72ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧のうえ最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは

出張修理

70ページの「故障かな?と思う前に」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。このとき不具合の発生したディスクなども一緒にご用意ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品名	AVコントロールアンプ
型名	AX-V7000
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も併せてお知らせください
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	
便利メモ	お買い上げ店名 ☎() -

修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定機器等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検にかかる費用です。
+	
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
+	
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

別売アクセサリ

- ・ サテライトスピーカーシステム…………… SP-X800(5本1組)
- ・ パワードサブウーハー…………… SP-PW800
- ・ スピーカーシステム
 (フロント/リア用)…………… SX-L3
 (センター用)…………… SX-LC3

- ・ 光デジタルケーブル…………… XN-110SA (長さ1m)
- ・ 同軸デジタルケーブル (ピンプラグ)…………… CN-D110E (長さ1m)
- ・ RCAピンプラグコード…………… CN-510E (長さ1m)
- ・ 接続コード (ミニプラグ)…………… CN-120A (長さ1.5m)
- ・ 映像コード…………… VX-110E (長さ1m)
- ・ S映像コード…………… VC-S110E (長さ1m)
- ・ コンポーネント映像コード…………… VX-D110E (長さ1m)
- ・ D映像接続コード…………… VX-DS110 (長さ1m)

■別売アクセサリはお買い上げの販売店でお求めください。

ビクターサービス窓口案内 (ビクターサービスエンジニアリング株式会社)

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都府県名	窓口名	TEL	☎	所在地
北海道				
北海道	札幌 S.C.	(011)898-1180	004-0005	札幌市厚別区厚別東5条1-2-29
	旭川 S.C.	(0166)61-3659	070-8012	旭川市神居二条3-2-15
	北見 S.S.	(0157)25-8557	090-0037	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.S.	(0154)24-0797	080-0005	釧路市松浦町3番3号
	帯広 S.S.	(0155)24-4493	080-0806	帯広市東六条南12-11
函館 S.S.	(0138)52-5324	040-0001	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F	
東北				
青森	青森 S.C.	(017)723-2261	030-0844	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178)44-4521	031-0803	八戸市諏訪2-2-36
	弘前 S.S.	(0172)28-0165	036-8084	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019)637-0121	020-0835	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢 S.S.	(0197)22-2773	023-0815	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018)824-3189	010-0953	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186)43-0980	017-0874	大館市美園町5-6
	横手 S.S.	(0182)32-8873	013-0064	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台 S.C.	(022)287-0151	984-0011	仙台市若林区六丁の目西町7-13
	石巻 S.S.	(0225)94-7711	986-0853	石巻市門脇字四番谷地8-18
山形	山形 S.C.	(023)642-0279	990-2412	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234)26-7145	998-0842	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024)952-6331	963-0205	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246)27-7991	973-8409	いわき市内郷御台町鶴巻6-1
	会津若松 S.S.	(0242)38-1355	965-0831	会津若松市表町1-44/イッツンフォニー101
	福島 S.S.	(024)553-9437	960-0103	福島市内本字南原26-1
関東・甲信越				
新潟	【出張修理専門】のご相談窓口			
	新潟サービスセンター	(025)241-4003	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	新潟 S.C.	(025)242-3431	950-0084	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258)24-8391	940-0012	長岡市上下条2-1366-1
	上越 S.S.	(0255)45-1734	942-0081	上越市五智1-1
長野	【出張修理専門】のご相談窓口			
	新潟サービスセンター	(026)221-7607	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	長野 S.C.	(026)221-6583	380-0913	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263)25-9165	390-0828	松本市庄内2-4-21
群馬	【出張修理専門】のご相談窓口			
	新潟サービスセンター	(027)255-5982	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	前橋 S.C.	(027)255-5921	371-0854	前橋市大渡町1-19-1
栃木	【出張修理専門】のご相談窓口			
	新潟サービスセンター	(028)635-2938	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	宇都宮 S.C.	(028)638-1639	321-0953	宇都宮市東郷郷3-5-22
茨城	土浦 S.C.	(0298)21-8756	300-0813	土浦市富士崎1-10-1
	水戸 S.S.	(029)246-1560	310-0836	水戸市元吉田町1077
山梨	【出張修理専門】のご相談窓口			
	新潟サービスセンター	(055)227-5773	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	甲府 S.S.	(055)237-4016	400-0864	甲府市湯田2-11-5
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	新潟サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	千葉 S.C.	(043)246-2588	261-0001	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏 S.S.	(0471)75-4322	277-0863	柏市豊四季5-12-10-67
	浦安 S.S.	(047)353-6189	279-0001	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口			
	新潟サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	本郷 S.C.	(03)5684-8254	113-0033	文京区本郷3-14-7ビクター本郷ビル1F
	秋葉原 S.S.	(03)3251-2128	101-0021	千代田区外神田1-6-6
練馬 S.C.	(03)3993-7520	176-0014	練馬区豊玉南1-19-1	
	大田 S.C.	(03)3727-9385	145-0062	大田区北千束2-20-6
	八王子 S.C.	(042)46-6914	192-0045	八王子市大和田町2-9-6
【業務用機器専門】のご相談窓口				
新潟サービスセンター	(03)3874-5231	110-0003	台東区根岸5-4-3	
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	新潟サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大宮 S.C.	(048)654-5241	330-0037	さいたま市東大成町2-658-1
	熊谷 S.S.	(048)553-5105	361-0057	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口			
	新潟サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	横浜 S.C.	(045)651-0403	231-0028	横浜市中区鶴町1-3-1
	川崎 S.C.	(044)975-1879	216-0024	川崎市宮前区南平台3-2(第2石原ビル)
	平塚 S.C.	(0463)36-2160	254-0065	平塚市南原2-4-5
	相模原 S.C.	(042)776-2052	229-0004	相模原市古淵3-7-4

都府県名	窓口名	TEL	☎	所在地
東海・北陸				
静岡	静岡 S.C.	(054)282-4141	422-8006	静岡市曲金6-5-28
	沼津 S.S.	(0559)22-1557	410-0041	沼津市筒井町6-5
	浜松 S.S.	(053)421-3441	435-0041	浜松市北島町785
愛知	名古屋 S.C.	(0568)25-3235	481-0041	西春日井郡西春日町九之坪岡田121-1
	三河 S.C.	(0564)51-5931	444-0833	岡崎市桂曙3-10-12
	豊橋 S.S.	(0532)64-0815	440-0853	豊橋市佐藤5-19-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058)274-1947	500-8367	岐阜市宇佐南3-1-28
	三重 S.S.	(0593)52-0841	510-0076	四日市市堀木2-15-2
三重	津 S.S.	(059)229-7780	514-0815	津市大字藤方485-18
	富山 S.C.	(076)425-2397	939-8211	富山市二町四丁目1-3
石川	金沢 S.C.	(076)269-4821	921-8062	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井 S.S.	(0776)53-6916	910-0843	福井市西開3-211
近畿				
滋賀	滋賀 S.S.	(077)582-5812	524-0033	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川112-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	京都 S.C.	(075)644-0247	612-8401	京都市伏見区深草下川原町31-1
京北	福知山 S.S.	(0773)22-8664	620-0059	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川112-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	奈良 S.S.	(0744)24-6271	634-0007	橿原市葛本町834-2
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川112-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大阪南 S.C.	(06)6768-5489	543-0028	大阪市天王寺区小橋町10-16
	堺 S.C.	(0722)54-2881	591-8032	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
【業務用機器専門】のご相談窓口				
大阪メンテナンスセンター	(06)6304-6715	532-0027	大阪市淀川区田川112-4-28	
和歌山	和歌山 S.S.	(073)472-6799	640-8323	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S.	(0739)22-9976	646-0031	田辺市美1581-12
兵庫	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川112-4-28
中東	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	神戸 S.C.	(078)252-0562	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西	姫路 S.S.	(0792)34-3833	670-0975	姫路市巾着町11-1
中国				
岡山	岡山 S.C.	(086)243-1566	700-0927	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082)243-9839	730-0825	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(0849)31-6984	721-0973	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(083)973-3708	754-0022	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山 S.S.	(0834)27-1331	745-0042	徳山市野上町2-35
	下関 S.S.	(0832)51-1040	751-0852	下関市熊野町2-14-23
島根	山陰ビクター販売(株)サービスセンター(松江・米子担当)	(0852)31-8900	690-0823	松江市学園1-16-39
	出雲営業所サービス係	(0853)21-4611	693-0001	出雲市今市町854
	浜田営業所サービス係	(0855)22-1584	697-0023	浜田市長沢町671-1
鳥取	鳥取営業所サービス係	(0857)23-2151	680-0911	鳥取市千代水1丁目22-1
四国				
香川	高松 S.C.	(087)866-1200	761-8057	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.C.	(088)622-7387	770-8052	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.S.	(088)882-0546	780-8122	高知市高須町4-143
愛媛	松山 S.C.	(089)923-0372	791-8015	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895)20-1018	798-0087	宇和島市坂下津甲407-40
九州・沖縄				
福岡	福岡 S.C.	(092)431-1261	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S.	(0942)39-3495	830-0038	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.S.	(093)921-3981	802-0064	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎 S.C.	(095)862-5522	852-8021	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S.	(0956)33-5568	867-1166	佐世保市本風町1467-2
大分	大分 S.S.	(097)543-1422	870-0882	大分市大道町4-1-2
熊本	熊本 S.C.	(096)353-4536	861-4101	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985)24-5401	880-0032	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S.	(0982)35-7707	882-0857	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099)282-8818	890-0034	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098)898-3631	901-2224	沖縄県宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。 1201

●略号について S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。

主な仕様

— 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。 —

アンプ部

定格出力 ステレオ時(EIAJ) (LINE DIRECT時)	フロント出力	150W+150W(6Ω、20Hz~20kHz、0.03% THD)
定格出力 サラウンド時(EIAJ) (LINE DIRECT時)	フロント出力 センター出力 サラウンド出力 サラウンドバック出力	150W(6Ω、20Hz~20kHz、0.03% THD) 150W(6Ω、20Hz~20kHz、0.03% THD) 150W(6Ω、20Hz~20kHz、0.03% THD) 150W(6Ω、20Hz~20kHz、0.03% THD)
全高調波ひずみ率(EIAJ)		0.03%(6Ω、20Hz~20kHz)
音声入力端子 (アナログ入力)	PHONO(MM) DVD、DVD MULTI、CD、CDR、TAPE/MD、 VTR1、VTR2、TV/DBS、VIDEO、TUNER、EXT 7.1 CH	入力感度/インピーダンス 2.5mV/47kΩ 200mV/47kΩ
(デジタル入力)	同軸 DIGITAL 1(DVD) 光 DIGITAL 2(CD)、3(TV)、4(CDR)、5(MD)	0.5V(p-p)/75Ω -21dBm ~ -15dBm (サンプリング周波数 32kHz、44.1kHz、48kHz、96kHzに対応)
音声出力端子 (アナログ出力)	PREOUT	1V
録音出力端子 (アナログ出力)	CDR、TAPE/MD、VTR1、VTR2	200mV
デジタル出力端子	光 DIGITAL OUT	-21dBm ~ -15dBm(信号波長: 660nm)
S/N比(音声)(EIAJ) (LINE DIRECT時)	PHONO DVD、DVD MULTI、CD、CDR、TAPE/MD、 VTR1、VTR2、TV/DBS、VIDEO、TUNER、EXT 7.1 CH	77dB 80dB
周波数特性	PHONO DVD、DVD MULTI、CD、CDR、TAPE/MD、 VTR1、VTR2、TV/DBS、VIDEO、TUNER、EXT 7.1 CH	20Hz~20kHz (±1dB) 10Hz~100kHz (+1dB、-3dB)
RIAA フォノイコライザー偏差		±1.0dB(20Hz~20kHz)
映像入力端子	コンポジット映像: DVD、VTR1、VTR2、VIDEO、TV/DBS S映像: DVD、VTR1、VTR2、VIDEO、TV/DBS	入力感度/インピーダンス 1V(p-p)/75Ω、同期負 Y : 1V(p-p)/75Ω C : 0.286V(p-p)/75Ω
コンポーネント映像:COMPONENT 1(DVD)、COMPONENT 2	D映像:D4 VIDEO 1、D4 VIDEO 2	Y : 1V(p-p)/75Ω P _B /C _B 、P _R /C _R : 0.7V(p-p)/75Ω Y : 1V(p-p)/75Ω P _B /C _B 、P _R /C _R : 0.7V(p-p)/75Ω
映像出力端子	コンポジット映像: VTR1、VTR2、MONITOR OUT S映像: VTR1、VTR2、MONITOR OUT コンポーネント映像:MONITOR OUT D映像:MONITOR OUT	出力感度/インピーダンス 1V(p-p)/75Ω、同期負 Y : 1V(p-p)/75Ω C : 0.286V(p-p)/75Ω Y : 1V(p-p)/75Ω P _B /C _B 、P _R /C _R : 0.7V(p-p)/75Ω Y : 1V(p-p)/75Ω P _B /C _B 、P _R /C _R : 0.7V(p-p)/75Ω
	SN比(映像)	45dB
一般	電源 消費電力	AC 100V、50Hz/60Hz共用 電源「入」時 465W 「切(待機状態)」時 1.7W
	最大外形寸法 質量	幅 445mm x 高さ 177mm x 奥行 475mm 22 kg
付属品		リモコン(RM-SAXV7000).....1 単3形アルカリ乾電池(リモコン動作確認用).....2 電源コード.....1 端子カバー.....1

用語索引

あ行 ページ

アジャストメニュー	44
アナログ接続	14
アナログマルチチャンネル	56
インターレース	17

か行 ページ

クロスオーバー周波数	40
コンピューリンク・リモートコントロールシステム	57
コンポーネント入力	43

さ行 ページ

サブウーハー	12
サブウーハー設定	40
サラウンドスピーカー設定	41
サラウンドモード	50
信号のフォーマット	17
スピーカー距離設定	39
スピーカー設定	39
スピーカーの配置例	11
スピーカー 2 設定	43
スリープタイマー	26
セットアップメニュー	34
センターチャンネル設定	49

た行 ページ

ダイナミックレンジ	41
デジタル接続	22
ドルビーサラウンド	51
ドルビーデジタル	50
ドルビープロロジック	51

は行 ページ

バステストトーン	40
バスピークリミッター	40
バスピークレベル	40
パラメトリックイコライザー	48
ビデオ回路電源	43
プログレッシブ	17

ま行 ページ

メーカーコード番号一覧	66
-------------------	----

ら行 ページ

ラインダイレクト	7 29
リニア PCM	75
リモコンの学習機能	67
レベル設定	47

わ行 ページ

ワンタッチオペレーション	43
--------------------	----

アルファベット・記号など ページ

AC OUTLETS	23
AV コンピューリンク・リモート コントロールシステム	58
CC CONVERTER	7 26
D4 映像端子	16
DAP モード	54
DIMMER	24
DSP モード	54
DSP パラメーター	49
DTS デジタルサラウンド	51
DTS-ES	51
DVD プレーヤー(2ch)	19
DVD プレーヤー(5.1ch)	20
DVD プレーヤー(7.1ch)	21
DVD MULTI	56
EXT 7.1CH	56
INPUT ATT	29
LEARN	67
LFE	40
LIGHT	26
LINE DIRECT	7 29
MIDNIGHT MODE	41
MPEG-2 AAC	7 51
MUTING	25
REC SELECTOR	32
SOUND SELECTOR	31
THX	50
THX 設定	41

用語解説

ピーシーエム

■ リニアPCM音声

CDなどで使われている方式です。アナログ音声信号をデジタル信号に変換して扱う方式のひとつで、変換に際して圧縮処理を全くしない音声信号のことです。

エルエフイー ロー フリクエンシー エフェクト

■ LFE(Low Frequency Effect)

ドルビーデジタルやDTSの低周波効果音のことです。

■ サラウンド

視聴者の周囲にスピーカーを複数配置し、臨場感あふれる立体音場を創り出すことをさします。

■ ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンド方式では、フロント左右、センター、リア(モノラル)の4ch音声を2chで記録しています。再生時にマトリクス回路(ドルビープロロジックデコーダー)を使い、ドルビーサラウンド方式で記録された2ch音声から4ch音声を再生します。これにより、立体感・包囲感のあるサラウンドをお楽しみいただけます。

■ ドルビーデジタル

5.1chの音声トラックを持つ新しいサラウンド方式です。フロント側3ch(レフト、ライト、センター)に加え、リア出力もステレオ化し、フロント側と同じ周波数帯域を持たせています。さらに独立したサブウーハー(5.1chの0.1ch部分)信号を記録しています。記録の際はあらかじめ5.1chが分離された状態で記録されており、チャンネルセパレーションも良好です。さらにすべての音がデジタル信号で処理されるので、ノイズを抑えることができます。

ディーティーエス デジタル シアター システム

■ DTS (Digital Theater System)サラウンド

DTSは、米国のデジタル・シアター・システムズ社が開発した劇場用デジタル音声システムで、信号のチャンネル数はドルビーデジタルと同じ5.1chです。記録する際の音声データの圧縮率がドルビーデジタルと比べて低く、再構成する際の情報量が多くなるので、より厚みのあるクリアな高音質再生が可能となっています。また、ダイナミックレンジが広く高分解能のサウンドが得られるので迫力のある効果的な音場再生が可能です。

エムペグ エーエーシー アドバンスド オーディオ コーディング

■ MPEG-2 AAC (Advanced Audio Coding)

MPEG-2オーディオ方式の一つで、国内のBSデジタル放送で採用されている音声符号化規格です。BSデジタル用のAACフォーマットは、3種類規定されているうちの「標準」にあたります。これは、サンプリング周波数32kHz、44.1kHz、48kHzの3種類で最大5.1chまでのマルチチャンネルに対応します。放送の限られた帯域を利用し、低ビットレートで高音質を確保できる点が特長です。

■ THX

THXはLucasfilm(ルーカスフィルム)社が提唱する劇場用音響の品質規定で、映画製作者の製作意図を忠実に再現できる上映環境を規定しています。本機に対応しているHOME THX(ホームTHX)は、THXに空間サイズや音響特性の違いなどの処理を追加して家庭用に拡張しました。新たに追加されたサラウンドバック用の信号は、ドルビーデジタル信号のサラウンドチャンネル用の信号(SL, SR)にマトリクスエンコードされます。再生時には、再びサラウンドチャンネル用の信号成分(SL, SR)から、マトリクスデコーダーで分離されTHX SURROUND EXデコーダーを使用して、家庭での再生に最適化されます。

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、
お買い上げの販売店にご相談ください。

より詳しい技術的なお問い合わせ、ご相談は

「スーパー・ハイファイ・オーディオ相談室」 TEL 046-278-1818へ

〈受付時間：毎週火曜日、木曜日の正午～PM4:00（ただし当社所定の休日は除きます）〉

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記のご相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 ビクターサービスエンジニアリング株式会社	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 お客様ご相談センター
<p>72 ページの「ビクターサービス窓口案内」 をご覧ください。</p>	<p>東京 ☎(03) 5684-9311 FAX(03) 5684-9317 〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目14-7 ビクター本郷ビル</p> <p>大阪 ☎(06) 6765-4161 FAX(06) 6765-4891 〒543-0028 大阪市天王寺区小橋町10-16 大阪ビクタービル</p>

ビクターホームページ <http://www.jvc-victor.co.jp/>

日本ビクター株式会社

パーソナル&モバイルネットワークビジネスユニット
〒371-8543 前橋市大渡町一丁目10番地の1 ☎(027) 254-8952